別記様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　メイジガクイン 学校法人　明治学院	
フリガナ 大学の名称	メイジガクインダイガク 明治学院大学（Meiji Gakuin University）	
大学本部の位置	東京都港区白金台一丁目２番３７号	
大学の目的	本学は、キリスト教主義教育を建学の精神とすると同時に、創設者ヘボンの生涯を貫く信念である“Do for others”を教育理念としている。本学のキリスト教主義教育は、教育理念を尊重する人格教育にあり、社会的弱者への共感という点で一貫している。すなわち、“Do for others”を実践する人材の育成を教育の目的にしている。	
新設学部等の目的	国際キャリア学科は、グローバル社会の諸問題に対する、政治・経済・文化の各分野からの総合的な理解能力を涵養するとともに、多言語でのコミュニケーション能力を身につけ、多様な環境の下に生きる人々と協力し、リーダーシップを発揮できる能力を持つ人材を養成することを目標とする。	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	国際学部 [Faculty of International Studies] 国際キャリア学科 [Department of Global and Transcultural Studies]	年 4	人 50	年次 人 －	人 200	学士 （国際学）	年　月 第　年次 平成23年4月 第1年次	神奈川県横浜市戸塚区上倉田町１５１８番地
	計		50		200			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	平成23年4月　国際学部国際学科〔定員減〕　△50

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	国際学部 国際キャリア学科	378 科目	33 科目	20 科目	431 科目	130 単位

教員組織の概要		学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
	新設分	国際学部 国際キャリア学科	4人 (4)	4人 (4)	0人 (0)	－人 (－)	8人 (8)	0人 (0)	12人 (7)
		計	4 (4)	4 (4)	0 (0)	－ (－)	8 (8)	0 (0)	12 (7)
	既設分	文学部 英文学科	14 (14)	1 (1)	2 (2)	－ (－)	17 (17)	0 (0)	86 (86)
		フランス文学科	8 (8)	3 (3)	2 (2)	－ (－)	13 (13)	0 (0)	39 (39)
		芸術学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	－ (－)	12 (12)	0 (0)	55 (55)
		教職課程	5 (5)	1 (1)	0 (0)	－ (－)	6 (6)	0 (0)	20 (20)
		経済学部 経済学科	19 (19)	3 (3)	1 (1)	－ (－)	23 (23)	0 (0)	17 (17)
		経営学科	6 (6)	3 (3)	3 (3)	－ (－)	12 (12)	0 (0)	20 (20)
		国際経営学科	8 (8)	0 (0)	2 (2)	－ (－)	10 (10)	0 (0)	10 (10)

備考

教員組織の概要	既設分	社会学部 社会学科	14 (14)	2 (2)	2 (2)	－ (－)	18 (18)	0 (0)	25 (25)	平成22年4月設置
		社会福祉学科	18 (18)	1 (1)	0 (0)	－ (－)	19 (19)	1 (1)	25 (25)	
		法学部 法律学科	12 (12)	4 (4)	2 (2)	－ (－)	18 (18)	0 (0)	36 (36)	
		政治学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	－ (－)	10 (10)	0 (0)	23 (23)	
		消費情報環境法学科	7 (7)	6 (6)	2 (2)	－ (－)	15 (15)	0 (0)	24 (24)	
		国際学部 国際学科	21 (21)	5 (6)	3 (3)	－ (－)	29 (30)	1 (1)	39 (39)	
		心理学部 心理学科	7 (7)	7 (7)	1 (1)	－ (－)	15 (15)	2 (2)	26 (26)	
		教育発達学科	11 (11)	3 (3)	0 (0)	－ (－)	14 (14)	0 (0)	37 (4)	
		教養教育センター	16 (16)	12 (12)	8 (8)	－ (－)	36 (36)	0 (0)	458 (458)	
		計	181 (181)	55 (56)	31 (31)	－ (－)	267 (268)	4 (4)	940 (907)	
	合計		185 (185)	59 (60)	31 (31)	－ (－)	275 (276)	4 (4)	952 (914)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	大学全体
	事務職員	151人 (151)	91人 (91)	242人 (242)	
	技術職員	3 (3)	0 (0)	3 (3)	
	図書館専門職員	12 (12)	0 (0)	12 (12)	
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	166 (166)	91 (91)	257 (257)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	校舎敷地	205,199 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	205,199 ㎡	
	運動場用地	72,112 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	72,112 ㎡	
	小計	277,311 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	277,311 ㎡	
	その他	1,057 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	1,057 ㎡	
	合計	278,368 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	278,368 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	84,787 ㎡ (84,371 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	84,787 ㎡ (84,371 ㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	152 室	54 室	25 室	24 室 (補助職員 4人)	3 室 (補助職員 2人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	国際キャリア学科	7 室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書1,144,478冊 [410,178冊] 学術雑誌12,072種 [4,362種] 電子ジャーナル 24,482[24,482]種 視聴覚資料 15,301点
	国際キャリア学科	15,379〔4,425〕 (14,759〔3,805〕)	59〔35〕 (59〔35〕)	1,161 〔1,163〕 (1,161 〔1,161〕)	365 (341)	－ (－)	－ (－)	
	計	15,379〔4,425〕 (14,759〔3,805〕)	59〔35〕 (59〔35〕)	1,163 〔1,163〕 (1,161 〔1,161〕)	365 (341)	－ (－)	－ (－)	

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">図書館</td><td colspan="2">面積</td><td colspan="2">閲覧座席数</td><td colspan="2">収　納　可　能　冊　数</td><td rowspan="4">大学全体</td></tr>
<tr><td colspan="2">10,900 ㎡</td><td colspan="2">1,148 席</td><td colspan="2">1,221,000 冊</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">体育館</td><td colspan="2">面積</td><td colspan="4">体育館以外のスポーツ施設の概要</td></tr>
<tr><td colspan="2">8,119 ㎡</td><td colspan="2">弓道場</td><td colspan="2">射撃場</td></tr>
<tr><td rowspan="8">経費の見積り及び維持方法の概要</td><td rowspan="4">経費の見積り</td><td>区　分</td><td>開設前年度</td><td>第１年次</td><td>第２年次</td><td>第３年次</td><td>第４年次</td><td>第５年次</td><td>第６年次</td><td rowspan="7">図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄ含む）を含む</td></tr>
<tr><td>教員１人当り研究費等</td><td></td><td>450千円</td><td>450千円</td><td>450千円</td><td>450千円</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>共同研究費等</td><td></td><td>821千円</td><td>821千円</td><td>821千円</td><td>821千円</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>図書購入費</td><td>8,436千円</td><td>8,343千円</td><td>8,343千円</td><td>8,343千円</td><td>8,343千円</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>設備購入費</td><td>18,581千円</td><td>901千円</td><td>763千円</td><td>486千円</td><td>624千円</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">学生１人当り納付金</td><td colspan="2">第１年次</td><td colspan="2">第２年次</td><td colspan="2">第３年次</td><td colspan="2">第４年次</td><td colspan="2">第５年次</td><td colspan="2">第６年次</td></tr>
<tr><td colspan="2">1,480千円</td><td colspan="2">1,180千円</td><td colspan="2">1,180千円</td><td colspan="2">1,180千円</td><td colspan="2">－千円</td><td colspan="2">－千円</td></tr>
<tr><td colspan="2">学生納付金以外の維持方法の概要</td><td colspan="10">私立大学等経常費補助金、手数料収入、資産運用収入　等</td></tr>
</table>

既設大学等の状況	大学の名称	明治学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	文学部									
	英文学科	4	200	—	980	学士(英文学)	1.14	昭和24年	東京都港区白金台一丁目2番37号(3,4年次) 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518番地(1,2年次)	H22年4月定員変更
	フランス文学科	4	120	—	480	学士(フランス文学)	1.15	昭和40年		
	芸術学科	4	125	—	500	学士(芸術学)	1.21	平成2年		
	心理学科	4	—	—	—	学士(心理学)	—	平成2年		H16年4月募集停止
	経済学部									
	経済学科	4	290	—	1,160	学士(経済学)	1.13	昭和24年		
	経営学科	4	180	—	720	学士(経営学)	1.11	昭和27年		
	国際経営学科	4	140	—	560	学士(国際経営学)	1.20	平成18年		
	社会学部									
	社会学科	4	230	—	920	学士(社会学)	1.10	昭和24年		
	社会福祉学科	4	240	—	960	学士(社会福祉学)	1.10	昭和40年		
	法学部									
	法律学科	4	280	—	1,120	学士(法学)	1.11	昭和41年		
	政治学科	4	120	—	480	学士(政治学)	1.11	平成2年		
	消費情報環境法学科	4	175	—	700	学士(法学)	1.10	平成12年		
	国際学部　国際学科	4	270	—	1,080	学士(国際学)	1.20	昭和61年	神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518番地	H23年4月定員変更
			△50		△200					
	心理学部									
	心理学科	4	160	—	760	学士(心理学)	1.21	平成16年	東京都港区白金台一丁目2番37号(3,4年次) 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518番地(1,2年次)	H22年4月定員変更
	教育発達学科	4	100	—	100	学士(教育発達学)	0.96	平成22年		
	文学部第二部									
	英文学科	4	—	—	— —	学士(英文学)	—	昭和24年	東京都港区白金台一丁目2番37号	H17年4月募集停止
	経済学部第二部									
	経済学科	4	—	—	—	学士(経済学)	—	昭和24年		H17年4月募集停止
	経営学科	4	—	—	—	学士(経営学)	—	昭和27年		H17年4月募集停止
	文学研究科									
	英文学専攻 (博士前期課程)	2	12	—	24	修士(英文学)	0.46	昭和30年		

既設大学等の状況	大学の名称	明治学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	英文学専攻（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（英文学）	0.63	昭和37年	東京都港区白金台一丁目2番37号	
	フランス文学専攻（博士前期課程）	2	10	—	20	修士（フランス文学）	0.53	平成12年		
	フランス文学専攻（博士後期課程）	3	5	—	15	博士（フランス文学）	0.05	平成15年		
	芸術学専攻（博士前期課程）	2	10	—	20	修士（芸術学）	0.48	平成13年		
	芸術学専攻（博士後期課程）	3	5	—	15	博士（芸術学）	0.20	平成15年		
	経済学研究科									
	経済学専攻（博士前期課程）	2	10	—	20	修士（経済学）	0.40	昭和35年		
	経済学専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（経済学）	0.08	平成元年		
	経営学専攻（博士前期課程）	2	10	—	50	修士（経営学）	0.19	昭和45年		H22年4月定員変更
	経営学専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（経営学）	0.25	平成元年		
	社会学研究科								東京都港区白金台一丁目2番37号	
	社会学専攻（博士前期課程）	2	10	—	20	修士（社会学）	0.23	昭和42年		
	社会学専攻（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（社会学）	0.25	平成18年		
	社会福祉学専攻（博士前期課程）	2	10	—	20	修士（社会福祉学）	0.63	昭和35年		
	社会福祉学専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（社会福祉学）	0.92	平成18年		
	法学研究科									
	法律学専攻（博士後期課程）	3	5	—	15	博士（法学）	0.10	昭和47年		
	国際学研究科									
	国際学専攻（博士前期課程）	2	10	—	20	修士（国際学）	0.50	平成2年	神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518番地	
	国際学専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（国際学）	0.17	平成4年		
	心理学研究科									
	心理学専攻（博士前期課程）	2	30	—	60	修士（心理学）	0.87	平成16年	東京都港区白金台一丁目2番37号	
	心理学専攻（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（心理学）	0.69	平成19年		
	法務職研究科									
	法務専攻（専門職学位課程）	3	60	—	220	法務博士（専門職）	0.79	平成16年		H22年4月定員変更
	附属施設の概要	該当なし								

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際キャリア学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学術英語科目	学術英語科目Ⅰ	Introductory Seminar - Reading & Writing Sections 1A	1前	4			○								兼3	
		Introductory Seminar - Reading & Writing Sections 1B	1後	4			○								兼3	
		Critical Reading & Writing 1A	1前	4			○								兼3	
		Critical Reading & Writing 1B	1後	4			○								兼3	
		Multi-Media Communication & Research Writing 2A	2前	4			○								兼3	
		Multi-Media Communication & Research Writing 2B	2後	4			○								兼3	
		小計（6科目）		24	0	0		－		0	0	0	0	0		
	学術英語科目Ⅱ	Tutorial/Lab 1A	1前		1			○							兼3	
		Tutorial/Lab 1B	1後		1			○							兼3	
		Academic & Seminar Skills 1A	1前		4		○								兼2	
		Academic & Seminar Skills 1B	1後		4		○								兼2	
		Tutorial/Lab 2A	2前		1			○							兼3	
		Tutorial/Lab 2B	2後		1			○							兼3	
		Academic & Seminar Skills 2A	2前		4		○								兼2	
		Academic & Seminar Skills 2B	2後		4		○								兼2	
		Tutorial 3A	3前		1			○							兼1	
		Tutorial 3B	3後		1			○							兼1	
		Tutorial 4A	4前		1			○							兼1	
		Tutorial 4B	4後		1			○							兼1	
		Communication in the 21st C	1前・1後		2		○								兼1	
		Communication in the 21st C - Discussion Section	1前・1後		2			○							兼1	
		小計（14科目）		0	28	0		－		0	0	0	0	0		
明治学院共通科目Ⅰ		［C群］														
		ｷﾘｽﾄ教基本科目														
		ｷﾘｽﾄ教の基礎A	1前	2			○								兼1	
		ｷﾘｽﾄ教の基礎B	1後	2			○								兼1	
		外国語基本科目														
		ﾌﾗﾝｽ語 1A	1前		1	*	○								兼1	*1ヵ国語8単位選択必修
		ﾌﾗﾝｽ語 1B	1後		1		○								兼1	
		ﾌﾗﾝｽ語 2A	1前		1		○								兼1	
		ﾌﾗﾝｽ語 2B	1後		1		○								兼1	
		中国語 1A	1前		1		○								兼1	
		中国語 1B	1後		1		○								兼1	
		中国語 2A	1前		1		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
		中国語 2B	1後		1		○								兼1	
		ﾄﾞｲﾂ語 1A	1前		1		○								兼1	
		ﾄﾞｲﾂ語 1B	1後		1		○								兼1	
		ﾄﾞｲﾂ語 2A	1前		1		○								兼1	
		ﾄﾞｲﾂ語 2B	1後		1		○								兼1	
		ｽﾍﾟｲﾝ語 1A	1前		1		○								兼1	
		ｽﾍﾟｲﾝ語 1B	1後		1		○								兼1	
		ｽﾍﾟｲﾝ語 2A	1前		1		○								兼1	
		ｽﾍﾟｲﾝ語 2B	1後		1		○								兼1	
		韓国語 1A	1前		1		○								兼1	
		韓国語 1B	1後		1		○								兼1	
		韓国語 2A	1前		1		○								兼1	
		韓国語 2B	1後		1		○								兼1	
		［E群］														
		外国語研究														
		ﾌﾗﾝｽ語研究 1A	2前		2		○								兼1	
		ﾌﾗﾝｽ語研究 1B	2後		2		○								兼1	
		ﾌﾗﾝｽ語研究 2A	2前		2		○								兼1	
		ﾌﾗﾝｽ語研究 2B	2後		2		○								兼1	
		中国語研究 1A	2前		2		○								兼1	
		中国語研究 1B	2後		2		○								兼1	
		中国語研究 2A	2前		2		○								兼1	
		中国語研究 2B	2後		2		○								兼1	
		ﾄﾞｲﾂ語研究 1A	2前		2		○								兼1	
		ﾄﾞｲﾂ語研究 1B	2後		2		○								兼1	
		ﾄﾞｲﾂ語研究 2A	2前		2		○								兼1	
		ﾄﾞｲﾂ語研究 2B	2後		2		○								兼1	
		ｽﾍﾟｲﾝ語研究 1A	2前		2		○								兼1	
		ｽﾍﾟｲﾝ語研究 1B	2後		2		○								兼1	
		ｽﾍﾟｲﾝ語研究 2A	2前		2		○								兼1	
		ｽﾍﾟｲﾝ語研究 2B	2後		2		○								兼1	
		韓国語研究 1A	2前		2		○								兼1	
		韓国語研究 1B	2後		2		○								兼1	
		韓国語研究 2A	2前		2		○								兼1	
		韓国語研究 2B	2後		2		○								兼1	
		留学生関連科目														
		集中日本語 1	1前		4		○								兼3	
		集中日本語 2	1後		4		○								兼3	
		集中日本語 3	1前		4		○								兼2	
		集中日本語 4	1後		4		○								兼2	
		小計（46科目）		4	76	0		―		0	0	0	0	0		
初級科目	演習科目	Introductory Seminar 1	1前	4				○		2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		Introductory Seminar 2	1後	4				○		1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（2科目）		8	0	0		―		3	3	0	0	0		
	講義科目	Global History A	1前		2		○				1					
		Global History B	1前		2		○				1					
		Introduction to Economics A	1前		2		○			1						
		Introduction to Economics B	1前		2		○			1						
		Introduction to Sociology	1前		4		○				1					
		International Law	1前		4		○			1						
		Regional Development and World Economy	1前		4		○				1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		Introduction to International Relations	1後		2		○								兼1	
		Culture and Society	1後		4		○			1						
		Japanese Culture	1後		4		○			1						
		Intercultural Communication	1後		2		○								兼1	
		Community Development (Service Learning)	1後		2		○								兼1	
		Politics and Society in Japan	1後		2		○								兼1	
		Qualitative Methods	2前		2		○								兼1	
		Quantitative Methods	2後		2		○								兼1	
		Life and Career Development 1	1後	2			○				1					
		Life and Career Development 2	2前	2			○				1					
		Introduciton to Information Literacy	1前		2		○								兼1	
		Information Literacy	1後		2		○								兼1	
		小計（19科目）		4	44	0		―		4	4	0	0	0		
上級科目	講義科目	International Disputes Settlement Procedures	2後		4		○			1						
		Peace Studies	3前		2		○								兼1	
		International Finance	2後		2		○								兼1	
		International Journalism	2後		2		○								兼1	
		International Political Economy	2後		2		○								兼1	
		Gender and Society	2後		4		○				1					
		Minorities Issues	2後		4		○			1						
		Buddhist Culture	2後		4		○				1					
		Islamic Culture	2後		2		○								兼1	
		Japanese Literature	2後		4		○			1						
		Japanese Popular Culture	2後		2		○								兼1	
		Inter-Cultural History	2後		2		○								兼1	
		Social Development (Service Learning)	3前		2		○								兼1	
		Localization: How to think and act locally (Service Learning)	3前		2		○								兼1	
		Contemporary Japanese Economy A	3前		2		○								兼1	
		Contemporary Japanese Economy B	3前		2		○								兼1	
		Chinese Economy	3前		2		○								兼1	
		Economy of West Asia	3前		4		○				1					
		Economy of South East Asia	3前		4		○								兼1	
		Regional Economic Integration	3前		4		○			1						
		Legal Issues in International Relations	3前		2		○								兼1	
		Minority Politics	3前		2		○								兼1	
		Workshop	2後・3前		2		○								兼1	
		Contemporary Global Issues A	2後		2		○									
		Contemporary Global Issues B	3前		2		○									
		小計（25科目）		0	66	0		―		4	3	0	0	0		
	演習・実習科目	Field Study Seminar	2後・3前		2			○		2	1					
		Field Study A	2後		4			○		2	1					
		Field Study B	2後		2			○			1					
		Internship A	2後・3前		6				○		1					※講義
		Internship B	2後・3前		4				○		1					※講義
		Independent Study A	2後・3前		4			○			1					
		Independent Study B	2後・3前		2			○			1					
		Graduation Seminar	4前・4後	2				○		4	3					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		Graduation Project A	4前・4後		4			○		4	3					
		Graduation Project B	4前・4後		4			○		4	3					
		小計（10科目）		2	32	0		―		4	4	0	0	0		
国際学科科目	講義科目	国際経済論	1前		4		○								兼1	
		南北問題	1後		4		○								兼1	
		日本政治論	1前		4		○								兼1	
		比較文化論	2後		4		○								兼1	
		現代文学論	3前		4		○								兼1	
		日本語教授法	2後		4		○								兼1	
		環境経済論	3前		4		○								兼1	
		東北アジア地域研究（政治）	2後		2		○								兼1	
		ヨーロッパ芸術論	3前		4		○								兼1	
		小計（9科目）		0	34	0		―		0	0	0	0	0		
明治学院共通科目Ⅱ		［D群］														
		１．人文科学系科目														
		ｷﾘｽﾄ教の諸相１	1前		2		○								兼1	
		ｷﾘｽﾄ教の諸相２	1後		2		○								兼1	
		ｷﾘｽﾄ教の諸相３	1前		2		○								兼1	
		ｷﾘｽﾄ教の諸相４	1後		2		○								兼1	
		ｷﾘｽﾄ教の諸相５	1前		2		○								兼1	
		ｷﾘｽﾄ教の諸相６	1後		2		○								兼1	
		ｷﾘｽﾄ教の諸相７	1前		2		○								兼1	
		ｷﾘｽﾄ教の諸相８	1後		2		○								兼1	
		宗教史１	1前		2		○								兼1	
		宗教史２	1後		2		○								兼1	
		宗教史３	1前		2		○								兼1	
		宗教史４	1後		2		○								兼1	
		宗教史５	1前		2		○								兼1	
		宗教史６	1後		2		○								兼1	
		宗教史７	1前		2		○								兼1	
		宗教史８	1後		2		○								兼1	
		哲学１	1前		2		○								兼1	
		哲学２	1後		2		○								兼1	
		哲学３	1前		2		○								兼1	
		哲学４	1後		2		○								兼1	
		哲学５	1前		2		○								兼1	
		哲学６	1後		2		○								兼1	
		哲学７	1前		2		○								兼1	
		哲学８	1後		2		○								兼1	
		倫理学１	1前		2		○								兼1	
		倫理学２	1後		2		○								兼1	
		倫理学３	1前		2		○								兼1	
		倫理学４	1後		2		○								兼1	
		倫理学５	1前		2		○								兼1	
		倫理学６	1後		2		○								兼1	
		倫理学７	1前		2		○								兼1	
		論理学１	1前		2		○								兼1	
		論理学２	1後		2		○								兼1	
		論理学３	1前		2		○								兼1	
		論理学４	1後		2		○								兼1	
		論理学５	1前		2		○								兼1	
		論理学６	1後		2		○								兼1	
		論理学７	1前		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	論理学８	1後		2		○								兼1	
	言語の科学１	1前		2		○								兼1	
	言語の科学２	1後		2		○								兼1	
	言語の科学３	1前		2		○								兼1	
	言語の科学４	1後		2		○								兼1	
	心理学１	1前		2		○								兼1	
	心理学２	1後		2		○								兼1	
	心理学３	1前		2		○								兼1	
	心理学４	1後		2		○								兼1	
	心理学５	1前		2		○								兼1	
	心理学６	1後		2		○								兼1	
	心理学７	1前		2		○								兼1	
	心理学８	1後		2		○								兼1	
	教育学１	1前		2		○								兼1	
	教育学２	1後		2		○								兼1	
	芸術学１	1前		2		○								兼1	
	芸術学２	1後		2		○								兼1	
	芸術学３	1前		2		○								兼1	
	芸術学４	1後		2		○								兼1	
	芸術学５	1前		2		○								兼1	
	芸術学６	1後		2		○								兼1	
	芸術学７	1前		2		○								兼1	
	芸術学８	1後		2		○								兼1	
	日本文学１	1前		2		○								兼1	
	日本文学２	1後		2		○								兼1	
	日本文学３	1前		2		○								兼1	
	日本文学４	1後		2		○								兼1	
	日本文学５	1前		2		○								兼1	
	日本文学６	1後		2		○								兼1	
	日本文学７	1前		2		○								兼1	
	日本文学８	1後		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学１	1前		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学２	1後		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学３	1前		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学４	1後		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学５	1前		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学６	1後		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学７	1前		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学８	1後		2		○								兼1	
	ｱｼﾞｱ言語圏の文学１	1前		2		○								兼1	
	ｱｼﾞｱ言語圏の文学２	1後		2		○								兼1	
	ｱｼﾞｱ言語圏の文学３	1前		2		○								兼1	
	ｱｼﾞｱ言語圏の文学４	1後		2		○								兼1	
	日本文化論５	1前		2		○								兼1	
	日本文化論６	1後		2		○								兼1	
	日本文化論７	1前		2		○								兼1	
	日本文化論８	1後		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化１	1前		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化２	1後		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化３	1前		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化４	1後		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化５	1前		2		○								兼1	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化６	1後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化７	1前		2		○								兼1
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化８	1後		2		○								兼1
	ｱｼﾞｱ言語圏の文化１	1前		2		○								兼1
	ｱｼﾞｱ言語圏の文化２	1後		2		○								兼1
	ｱｼﾞｱ言語圏の文化４	1後		2		○								兼1
	ｱｼﾞｱ言語圏の文化５	1前		2		○								兼1
	ｱｼﾞｱ言語圏の文化６	1後		2		○								兼1
	ｱｼﾞｱ言語圏の文化７	1前		2		○								兼1
	ｱｼﾞｱ言語圏の文化８	1後		2		○								兼1
	２．社会科学系科目													
	法学(日本国憲法を含む)１	1前		2		○								兼1
	法学(日本国憲法を含む)２	1後		2		○								兼1
	政治学１	1前		2		○								兼1
	政治学２	1後		2		○								兼1
	社会学１	1前		2		○								兼1
	社会学２	1後		2		○								兼1
	社会学３	1前		2		○								兼1
	社会学４	1後		2		○								兼1
	社会学５	1前		2		○								兼1
	社会学６	1後		2		○								兼1
	社会学７	1前		2		○								兼1
	社会学８	1後		2		○								兼1
	社会福祉学１	1前		2		○								兼1
	社会福祉学２	1後		2		○								兼1
	経済学１	1前		2		○								兼1
	経済学２	1後		2		○								兼1
	統計学１	1前		2		○								兼1
	統計学２	1後		2		○								兼1
	統計学３	1前		2		○								兼1
	統計学４	1後		2		○								兼1
	歴史学１	1前		2		○								兼1
	歴史学２	1後		2		○								兼1
	歴史学３	1前		2		○								兼1
	歴史学４	1後		2		○								兼1
	歴史学５	1前		2		○								兼1
	歴史学６	1後		2		○								兼1
	地理学１	1前		2		○								兼1
	地理学２	1後		2		○								兼1
	地理学３	1前		2		○								兼1
	地理学４	1後		2		○								兼1
	地理学５	1前		2		○								兼1
	地理学６	1後		2		○								兼1
	文化人類学１	1前		2		○								兼1
	文化人類学２	1後		2		○								兼1
	社会科学概論１	1前		2		○								兼1
	社会科学概論２	1後		2		○								兼1
	社会科学概論３	1前		2		○								兼1
	社会科学概論４	1後		2		○								兼1
	３．自然科学系科目													
	数学１	1前		2		○								兼1
	数学２	1後		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	数学３	1前		2		○								兼1	
	数学４	1後		2		○								兼1	
	数学５	1前		2		○								兼1	
	数学６	1後		2		○								兼1	
	数学７	1前		2		○								兼1	
	数学８	1後		2		○								兼1	
	物理学１	1前		2		○								兼1	
	物理学２	1後		2		○								兼1	
	物理学３	1前		2		○								兼1	
	物理学４	1後		2		○								兼1	
	物理学５	1前		2		○								兼1	
	物理学６	1後		2		○								兼1	
	化学１	1前		2		○								兼1	
	化学２	1後		2		○								兼1	
	化学３	1前		2		○								兼1	
	化学４	1後		2		○								兼1	
	生物学１	1前		2		○								兼1	
	生物学２	1後		2		○								兼1	
	生物学３	1前		2		○								兼1	
	生物学４	1後		2		○								兼1	
	生物学５	1前		2		○								兼1	
	生物学６	1後		2		○								兼1	
	生物学７	1前		2		○								兼1	
	生命科学１	1前		2		○								兼1	
	生命科学２	1後		2		○								兼1	
	情報科学１	1前		2		○								兼1	
	情報科学２	1後		2		○								兼1	
	情報科学３	1前		2		○								兼1	
	情報科学４	1後		2		○								兼1	
	４．健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学系科目														
	健康科学１	1前		2		○								兼1	
	健康科学２	1後		2		○								兼1	
	ｽﾎﾟｰﾂ科学１	1前		2		○								兼1	
	ｽﾎﾟｰﾂ科学２	1後		2		○								兼1	
	ｽﾎﾟｰﾂ方法学１	1前		2		○								兼12	※実習
	ｽﾎﾟｰﾂ方法学２	1後		2		○								兼12	※実習
	ｽﾎﾟｰﾂ方法学３	1前		2		○								兼8	※実習
	ｽﾎﾟｰﾂ方法学４	1後		2		○								兼8	※実習
	５．総合教育系科目														
	環境学１	1前		2		○								兼1	
	環境学２	1後		2		○								兼1	
	環境学３	1前		2		○								兼1	
	環境学４	1後		2		○								兼1	
	環境学５	1前		2		○								兼1	
	環境学６	1後		2		○								兼1	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学１	1前		2		○								兼1	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学２	1後		2		○								兼1	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学３	1前		2		○								兼1	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学４	1後		2		○								兼1	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学５	1前		2		○								兼1	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学６	1後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学７	1前		2		○								兼1
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学８	1後		2		○								兼1
	［E群］													
	１．外国語特別演習													
	特別演習ﾌﾗﾝｽ語A	1前		1			○							兼1
	特別演習ﾌﾗﾝｽ語B	1後		1			○							兼1
	特別演習中国語A	1前		1			○							兼1
	特別演習中国語B	1後		1			○							兼1
	特別演習ﾄﾞｲﾂ語A	1前		1			○							兼1
	特別演習ﾄﾞｲﾂ語B	1後		1			○							兼1
	特別演習ｽﾍﾟｲﾝ語A	1前		1			○							兼1
	特別演習ｽﾍﾟｲﾝ語B	1後		1			○							兼1
	特別演習韓国語A	1前		1			○							兼1
	特別演習韓国語B	1後		1			○							兼1
	２．外国語の基礎													
	ｲﾀﾘｱ語の基礎A	1前		1		○								兼1
	ｲﾀﾘｱ語の基礎B	1後		1		○								兼1
	ｱﾗﾋﾞｱ語の基礎A	1前		1		○								兼1
	ｱﾗﾋﾞｱ語の基礎B	1後		1		○								兼1
	ﾀｲ語の基礎A	1前		1		○								兼1
	ﾀｲ語の基礎B	1後		1		○								兼1
	３．外国語研究													
	英語研究1A	2前		2		○								兼1
	英語研究1B	2後		2		○								兼1
	英語研究2A	2前		2		○								兼1
	英語研究2B	2後		2		○								兼1
	英語研究3A	3前		2		○								兼1
	英語研究3B	3後		2		○								兼1
	ﾌﾗﾝｽ語研究3A	3前		2		○								兼1
	ﾌﾗﾝｽ語研究3B	3後		2		○								兼1
	中国語研究3A	3前		2		○								兼1
	中国語研究3B	3後		2		○								兼1
	ﾄﾞｲﾂ語研究3A	3前		2		○								兼1
	ﾄﾞｲﾂ語研究3B	3後		2		○								兼1
	ｽﾍﾟｲﾝ語研究3A	3前		2		○								兼1
	ｽﾍﾟｲﾝ語研究3B	3後		2		○								兼1
	韓国語研究3A	3前		2		○								兼1
	韓国語研究3B	3後		2		○								兼1
	英語特別研究101	1前		2		○								兼1
	英語特別研究102	1後		2		○								兼1
	英語特別研究111	1後		2		○								兼1
	英語特別研究112	1前		2		○								兼1
	英語特別研究113	1後		2		○								兼1
	英語特別研究114	1前		2		○								兼1
	英語特別研究115	1後		2		○								兼1
	英語特別研究116	1前		2		○								兼1
	英語特別研究117	1後		2		○								兼1
	英語特別研究118	1前		2		○								兼1
	ﾌﾗﾝｽ語特別研究111	1後		2		○								兼1
	ﾌﾗﾝｽ語特別研究112	1前		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ﾄﾞｲﾂ語特別研究111	1後		2		○								兼1	
	ﾄﾞｲﾂ語特別研究112	1前		2		○								兼1	
	ｽﾍﾟｲﾝ語特別研究111	1前		2		○								兼1	
	ｽﾍﾟｲﾝ語特別研究112	1後		2		○								兼1	
	中国語特別研究111	1後		2		○								兼1	
	中国語特別研究112	1前		2		○								兼1	
	韓国語特別研究111	1後		2		○								兼1	
	韓国語特別研究112	1前		2		○								兼1	
	４．西洋古典語研究														
	ｷﾞﾘｼｱ語研究A	1前		2		○								兼1	
	ｷﾞﾘｼｱ語研究B	1後		2		○								兼1	
	ﾗﾃﾝ語研究A	1前		2		○								兼1	
	ﾗﾃﾝ語研究B	1後		2		○								兼1	
	５．留学生関連科目														
	日本の歴史と文化A	1前		2		○								兼1	
	日本の歴史と文化B	1後		2		○								兼1	
	日本の社会と政治経済A	1前		2		○								兼1	
	日本の社会と政治経済B	1後		2		○								兼1	
	日本の科学と技術A	1前		2		○								兼1	
	日本の科学と技術B	1後		2		○								兼1	
	日本語研究1A	2前		2		○								兼1	
	日本語研究1B	2後		2		○								兼1	
	日本語研究2A	2前		2		○								兼1	
	日本語研究2B	2後		2		○								兼1	
	日本語研究3A	2前		2		○								兼1	
	日本語研究3B	2後		2		○								兼1	
	６．異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究														
	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究A	2前		2		○								兼1	
	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究B	2後		2		○								兼1	
	７．情報処理関連科目														
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究1A	1前		2		○								兼1	※実習
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究1B	1後		2		○								兼1	※実習
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究2A	1前		2		○								兼1	※実習
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究2B	1後		2		○								兼1	※実習
	８．自然科学関連科目														
	物理学方法論A	1前		2		○								兼1	※実習
	物理学方法論B	1後		2		○								兼1	※実習
	化学方法論A	1前		2		○								兼1	※実習
	化学方法論B	1後		2		○								兼1	※実習
	生物学方法論A	1前		2		○								兼2	※実習
	生物学方法論B	1後		2		○								兼2	※実習
	９．健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学関連科目														
	ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究1A	1前		2				○						兼1	
	ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究1B	1前		2				○						兼1	
	ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究2A	1前		2				○						兼1	
	ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究2B	1前		2				○						兼1	
	ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究3A	1後		2				○						兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究3B	1後		2				○						兼1	
	10. 総合教育関連科目														
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習101	2前		2				○						兼1	※講義/集中
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習201	2前		2				○						兼1	※講義/集中
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究101	1後		2		○								兼1	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究102	2前		2			○							兼1	集中
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究201	1後		2		○								兼1	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究202	2前		2			○							兼1	集中
	ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘﾃﾗｼｰ研究１	1前・1後		2			○							兼1	
	ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘﾃﾗｼｰ研究２	1前・1後		2			○							兼1	
	11. 特別学科科目														
	社会学概論A	1前		2		○								兼1	
	社会学概論B	1後		2		○								兼1	
	12. 短期留学認定科目														
	ｵｾｱﾆｱ研究	1後		4				○						兼1	集中
	ｲｷﾞﾘｽ研究	1後		4				○						兼1	集中
	ｱﾒﾘｶ研究	2前		4				○						兼1	集中
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ研究	2前		4				○						兼1	集中
	韓国研究	2前		4				○						兼1	集中
	ﾀｲ研究	2前		4				○						兼1	集中
	ｽﾍﾟｲﾝ研究	2後		4				○						兼1	集中
	中国研究	2前		4				○						兼1	集中
	ﾄﾞｲﾂ研究	2前		4				○						兼1	集中
	ﾌﾗﾝｽ研究	2前		4				○						兼1	集中
	［I群］														
	Japanese History 1	2前		2		○								兼1	
	Japanese History 2	2後		2		○								兼1	
	Current Issues 4	2後		2		○								兼1	
	小計（300科目）		0	604	0		－		0	0	0	0	0		
合計（431科目）			42	884	0		－		4	4	0	0	0		

学位又は称号	学士(国際学)	学位又は学科の分野	文学関係、法学関係、経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
国際学部国際キャリア学科の卒業要件： １．卒業に要する総単位数は、学術英語科目24単位(うち必修24単位)、明治学院共通科目12単位（うち必修4単位）、初級科目22単位（うち必修12単位）、上級科目34単位（うち必修2単位）、フリーゾーン38単位、総合計130単位以上とする。 ２．明治学院共通科目の外国語基本科目、外国語研究、留学生関連科目のうち、英語を除く１ヶ国語８単位を選択必修とする。 履修科目の登録の上限：1・2年次　各学期23単位/年間46単位 3年次以降　各学期24単位/年間48単位	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際キャリア学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学術英語科目	学術英語科目Ⅰ	Introductory Seminar - Reading & Writing Sections 1A	このコースは、前期に開講される演習科目のIntroductory Seminar 1に対応して設定されている。Introductory Seminar 1で扱われる国際社会の様々な問題やテーマに関する講義や論文を、正しく理解・分析・統合するための基礎学習能力の向上を目指す。また基礎学習能力を応用してデスカッションやデイベートをしたり、レポートを書いたりすることによってアカデミック・コミュニテイーに参加するために必要な自発的な学習スキルと気質を学習者自身が獲得できるようにすることも目標とする。	
		Introductory Seminar - Reading & Writing Sections 1B	このコースは、後期に開講される演習科目のIntroductory Seminar 2に対応して設定されている。Introductory Seminar 2で扱われる国際社会の様々な問題やテーマに関する講義や論文を、正しく理解・分析・統合するための基礎学習能力の向上を目指す。また基礎学習能力を応用してデスカッションやデイベートをしたり、レポートを書いたりすることによってアカデミック・コミュニテイーに参加するために必要な自発的な学習スキルと気質を学習者自身が獲得できるようにすることも目標とする。	
		Critical Reading & Writing 1A	このコースは、前期に実施されるもので、読解力、批判的思考力、さらに読解した文献への批評を書く能力の発達を目標とする。また、このコースでは、繰り返し読むことの重要性を指導し、「書くこと」は「考えること」の一種であることを認識させる。 プロセス・ライテイング（考えることを教える事や、アイディアや意味を表現する事を重視する作文の教え方で、構成や文法等の編集は、数回の書き直しの最後に行う）を使い、多様な情報とアイディアを分析して評価し、統合してエッセーを書く技能を育成する。	
		Critical Reading & Writing 1B	このコースは、後期に実施されるもので、読解力、批判的思考力、さらに読解した文献への批評を書く能力の発達を目標とする。また、このコースでは、繰り返し読むことの重要性を指導し、「書くこと」は「考えること」の一種であることを認識させる。 プロセス・ライテイング（考えることを教える事や、アイディアや意味を表現する事を重視する作文の教え方で、構成や文法等の編集は、数回の書き直しの最後に行う）を使い、多様な情報とアイディアを分析して評価し、統合してエッセーを書く技能を育成する。	
		Multi-Media Communication & Research Writing 2A	本コースの前期は、幅広い分野の論文を学生に批判的に検討させ、次に、研究論文を幾つかの段階に分けて、書かせていく。すなわち、導入、先行研究の検討、研究目的と方法、分析結果、考察、結論である。これにより、学生に論文の書き方を実践的に指導する。	
		Multi-Media Communication & Research Writing 2B	本コースの後期は、複数の情報源(論文、新聞、テレビ・ラジオ放送、インターネット情報など）を利用して、多様な見解や視点を考慮した、マルチメディア・ドキュメンタリィーを学生たちが制作して発表することを最終目標とする。したがって、このプロジェクトは学生のアカデミック・リテラシイの学習成果を具体化する作品となる。	
	学術英語科目Ⅱ	Tutorial/Lab 1A	このコースは、英語で専門分野を学習したことがない１年生が、英語を運用して大学の講義を理解し、必要な課題を実行していくことを支援するために提供される。学生の能力や受講する講義の特徴が異なるため、個々の学生のニーズに対応することが必要になってくる。そのため、一対一の個人教授システムを採用する。また、このコースは、学生のエッセイやレポートに対して適切な批評や助言を提供し、論文作成を必要に応じて支援する。１年の前期に実施する。	
		Tutorial/Lab 1B	このコースは、英語で専門分野を学習したことがない１年生が、英語を運用して大学の講義を理解し、必要な課題を実行していくことを支援するために提供される。学生の能力や受講する講義の特徴が異なるため、個々の学生のニーズに対応することが必要になってくる。そのため、一対一の個人教授システムを採用する。また、このコースは、学生のエッセイやレポートに対して適切な批評や助言を提供し、論文作成を必要に応じて支援する。１年の後期に実施する。	

		Academic & Seminar Skills 1A	このコースは、１年生を対象に、高校の英語学習から大学での英語運用能力の獲得学習へと、学習の変化を円滑にさせる。さらに、海外の大学に留学するために必要な技能の取得をねらいとする橋渡しの役割を果たすコースである。また、個々の大学生の自意識を高め、自分の考えに自信を持ち、発展させていく態度を育成して、先生に命じられなくても自分で学習していくような、自発的な学習意欲を育成させる。同時に、速読力や語彙力等の英語における総合学習技能を指導する。前期に実施する。	
		Academic & Seminar Skills 1B	このコースは、１年生を対象に、高校の英語学習から大学での英語運用能力の獲得学習へと、学習の変化を円滑にさせる。さらに、海外の大学に留学するために必要な技能の取得をねらいとする橋渡しの役割を果たすコースである。また、個々の大学生の自意識を高め、自分の考えに自信を持ち、発展させていく態度を育成して、先生に命じられなくても自分で学習していくような、自発的な学習意欲を育成させる。同時に、速読力や語彙力等の英語における総合学習技能を指導する。後期に実施する。	
		Tutorial/Lab 2A	このコースは２年生を対象に、引き続き英語を運用して大学の講義を理解し、必要な課題を実行していくことを支援するために提供される。学生の能力や受講する講義の特徴が異なるため、個々の学生のニーズに対応することが必要になってくる。そのため、一対一の個人教授システムを採用する。また、このコースは、学生のエッセイやレポートに対して適切な批評や助言を提供し、論文作成を必要に応じて支援する。前期に提供される。	
		Tutorial/Lab 2B	このコースは２年生を対象に、引き続き英語を運用して大学の講義を理解し、必要な課題を実行していくことを支援するために提供される。学生の能力や受講する講義の特徴が異なるため、個々の学生のニーズに対応することが必要になってくる。そのため、一対一の個人教授システムを採用する。また、このコースは、学生のエッセイやレポートに対して適切な批評や助言を提供し、論文作成を必要に応じて支援する。後期に提供される。	
		Academic & Seminar Skills 2A	このコースは、２年生を対象に、大学での英語運用能力の獲得学習へと、１年次に引き続き、指導をしていく。さらに、海外の大学に留学するために必要な技能の取得をねらいとする橋渡しの役割を果たすコースである。また、個々の大学生の自意識を高め、自分の考えに自信を持ち、発展させていく態度を育成して、先生に命じられなくても自分で学習していくような、自発的な学習意欲を育成させる。同時に、速読力や語彙力等の英語における総合学習技能を指導する。前期に提供される。	
		Academic & Seminar Skills 2B	このコースは、２年生を対象に、大学での英語運用能力の獲得学習へと、１年次に引き続き、指導をしていく。さらに、海外の大学に留学するために必要な技能の取得をねらいとする橋渡しの役割を果たすコースである。また、個々の大学生の自意識を高め、自分の考えに自信を持ち、発展させていく態度を育成して、先生に命じられなくても自分で学習していくような、自発的な学習意欲を育成させる。同時に、速読力や語彙力等の英語における総合学習技能を指導する。後期に提供される。	
		Tutorial 3A	このコースは英語で学習する本学科の3年生を支援することを目標とし、一対一の個人教授システムで、個々の学生のニーズに対応することがねらいである。また、このコースは、学生のエッセイやレポートに助言や批評を提供し、論文指導を必要に応じてサポートする。前期に提供される。	
		Tutorial 3B	このコースは英語で学習する本学科の3年生を支援することを目標とし、一対一の個人教授システムで、個々の学生のニーズに対応することがねらいである。また、このコースは、学生のエッセイやレポートに助言や批評を提供し、論文指導を必要に応じてサポートする。後期に提供される。	
		Tutorial 4A	このコースは英語で学習する本学科の4年生を支援することを目標とし、一対一の個人教授システムで、個々の学生のニーズに対応することがねらいである。また、このコースは、学生のエッセイやレポートに助言や批評を提供し、論文指導を必要に応じてサポートする。特に、Graduation Projectに対して手厚く指導していく。前期に提供される。	
		Tutorial 4B	このコースは英語で学習する本学科の4年生を支援することを目標とし、一対一の個人教授システムで、個々の学生のニーズに対応することがねらいである。また、このコースは、学生のエッセイやレポートに助言や批評を提供し、論文指導を必要に応じてサポートする。特に、Graduation Projectに対して手厚く指導していく。後期に提供される。	

	Communication in the 21st C	このコースは、英語を社会・学校・会社等の幅広いコンテキストで、効果的かつ外交的に運用できるような英語運用能力を育成することを目標とする。高度な英語を駆使できるようにするため、本コースでは、十分な言語・多文化間のコミュニケーション・スキルの指導と、学生の英語に対する講師からの助言、批評、激励を学生に提供する。	
	Communication in the 21st C - Discussion Section	このコースは、Communication in the 21st Cの内容に関して、講師が補足説明を行い、学生の理解を助ける。さらに、学生同士が内容について確認し合い、批評し合うことで、友好的な雰囲気の中で、英語運用能力の向上を目指していく。	
明治学院共通科目Ⅰ	キリスト教の基礎 A	(英文)This course familiarizes students with basic knowledge of the various types of Christian thinking in its Western tradition. Mutual influences with other currents of Western philosophical thought are also examined. The students are not urged to participate in Christian belief. Instead, by offering some perspectives that are firmly embedded in Christian thinking, the course encourages students to establish their own perspectives and develop their own interest in learning more about Western arts and culture. (和訳)このコースは、キリスト教の歴史の中でも特に西洋の伝統において起こってきた様々な思想を取り上げる。また、西洋哲学とキリスト教思想の相互の影響について考察する。学生はキリスト教信仰を持つように強制されることはない。むしろ、キリスト教思想に根を下ろす様々な考え方を学ぶことを通じて、学生が各々の独自の視点を形成することを目指す。また、キリスト教思想の基礎的な知識を身につけることで、キリスト教思想に触発された西洋の芸術や文化に目を開いて行く。	
	キリスト教の基礎 B	(英文)People who are involved in Christian faith have struggled to solve questions that they face in their times and societies. This course familiarizes students with the various types of the 20th century Christian thinking that have emerged beyond the boundaries of Western-centric tradition. So-called Liberation Theologies, including Feminist Theology, Black Theology, Womanist Theology, Asian Theology, and Latin American Liberation Theology, are examined. (和訳)キリスト教信仰に関わる人々は、自分たちの時代が直面するさまざまな問題に答えを出そうと努力してきた。このコースは、キリスト教の歴史の中でも、特に20世紀の神学、および、伝統的な西洋中心的思想に対抗して興隆した神学思想を取り上げる。いわゆる「解放の諸神学」、つまり、女性神学、黒人神学、黒人女性神学、アジア神学、ラテン・アメリカの解放の神学などを取り上げる。	
	フランス語 1A	春学期開講。フランス語初習者を対象とし、初歩的な文法事項を確実に身につけることを目標とする。具体的な授業の進め方としては、まず、初級フランス語に必要な文法事項を、講師が簡単な例文をとりあげながら丁寧に説明する。次に、練習問題を実際に解いてみる作業を通じて、今度は学生一人一人が文法の知識を身につけることが要求される。そして学んだ事項を完全に自分のものとして習得するためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
	フランス語 1B	秋学期開講。春学期に引き続き、初歩的な文法事項を確実に身につけることを目標とする。具体的な授業の進め方としては、春学期と同様、まず、初級フランス語に必要な文法事項を、講師が簡単な例文をとりあげながら丁寧に説明する。次に、練習問題を実際に解いてみる作業を通じて、今度は学生一人一人が文法の知識を身につけることが要求される。そして学んだ事項を完全に自分のものとして習得するためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
	フランス語 2A	春学期開講。フランス語初習者を対象とし、平易なフランス語の文章の読解力を身につけることを目指す。具体的な授業の進め方としては、まず、教科書各課のフランス語テクストを読むうえで必要な初級文法事項を講師が解説する。次に、各課のフランス語の文章を学生一人一人が読み解く。最後に、テクストの発音練習を講師の指導のもとで行なう。なお、完全に自分のものとして習得するためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
	フランス語 2B	秋学期開講。春学期に引き続き、平易なフランス語の文章の読解力を身につけることを目指す。具体的な授業の進め方としては、春学期と同様、まず、教科書各課のフランス語テクストを読むうえで必要な初級文法事項を講師が解説する。次に、各課のフランス語の文章を学生一人一人が読み解く。最後に、テクストの発音練習を講師の指導のもとで行なう。なお、完全に自分のものとして習得するためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	

中国語 1A	発音から始めて初級程度の語彙と文法を学ぶ。中国語の初習者を対象とし、中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力をつけることを目指す。春学期に「中国語１Ａ・２Ａ」を、秋学期に「中国語１Ｂ・２Ｂ」の2科目をそれぞれ同時に履修する。１Aでは基礎文法を中心に授業を展開し、その習得を目指す。	
中国語 1B	初級程度の語彙と文法を学ぶ。中国語の初習者を対象とし、中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力をつけることを目指す。春学期に「中国語１Ａ・２Ａ」を、秋学期に「中国語１Ｂ・２Ｂ」の2科目をそれぞれ同時に履修する。１Bでは、基礎文法を中心に授業を展開し、その習得を目指す。	
中国語 2A	発音から始めて初級程度の語彙と文法を学ぶ。中国語の初習者を対象とし、中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力をつけることを目指す。春学期に「中国語１Ａ・２Ａ」を、秋学期に「中国語１Ｂ・２Ｂ」の2科目をそれぞれ同時に履修する。２Aでは、発音や会話に重点をおいた指導を行い、簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。	
中国語 2B	初級程度の語彙と文法を学ぶ。中国語の初習者を対象とし、中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力をつけることを目指す。春学期に「中国語１Ａ・２Ａ」を、秋学期に「中国語１Ｂ・２Ｂ」の2科目をそれぞれ同時に履修する。２Bでは、発音や会話に重点をおいた指導を行い、簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。	
ドイツ語 1A	基礎文法を詳しく学び、ドイツ語の基本構造を理解することを目的とした科目。講師の文法説明に加えて、音読や練習問題にも取り組むことによって、各学習者の理解をより深める。ドイツ語１Bと合わせて基本語彙を習得し、運用できるようになる。読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指し、基礎的文法力を養成する。言語を通じて、ヨーロッパの中核にあり、日本との関わりも深いドイツ語圏の文化を学ぶ。	
ドイツ語 1B	基礎文法を詳しく学び、ドイツ語の基本構造を理解することを目的とした科目。講師の文法説明に加えて、音読や練習問題にも取り組むことによって、各学習者の理解をより深める。ドイツ語１Aと合わせて基本語彙を習得し、運用できるようになる。読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指し、基礎的文法力を養成する。言語を通じて、ヨーロッパの中核にあり、日本との関わりも深いドイツ語圏の文化を学ぶ。	
ドイツ語 2A	基礎文法を含むテキストを用い、読解力、コミュニケーション能力を養成することを目的とした科目。ドイツ語圏の文化や日常生活のさまざまな場面に題材を求めた、読解テキスト、聴きとり練習、会話練習等に取り組む。ドイツ語２Ｂと合わせて習得語彙700語（ドイツ語1ABの語彙を含める）を目指す。読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指し、ドイツ語の運用能力を高める。言語を通じて、ヨーロッパの中核にあり、日本との関わりも深いドイツ語圏の文化を学ぶ。	
ドイツ語 2B	基礎文法を含むテキストを用い、読解力、コミュニケーション能力を養成することを目的とした科目。ドイツ語圏の文化や日常生活のさまざまな場面に題材を求めた、読解テキスト、聴きとり練習、会話練習等に取り組む。ドイツ語２Ａと合わせて習得語彙700語（ドイツ語1ABの語彙を含める）を目指す。読む、書く、聴く、話す能力の全体的向上を目指し、ドイツ語の運用能力を高める。言語を通じて、ヨーロッパの中核にあり、日本との関わりも深いドイツ語圏の文化を学ぶ。	
スペイン語 1A	スペイン語の基本文法を様々な活動を通じて身につけていく。話す、聴く、書く、読むという基本4技能のバランスの取れたコミュニケーション能力の身に着けるための基本的な訓練を行う。世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語を学び、簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指すと同時に、スペイン語圏の社会・文化への関心と理解を深める。	

スペイン語 1B	スペイン語１Aに引き続きスペイン語の基本文法を様々な活動を通じて身につけていく。話す、聴く、書く、読むという基本4技能のバランスの取れたコミュニケーション能力の身に着けるための基本的な訓練を行う。世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語を学び、簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指すと同時に、スペイン語圏の社会・文化への関心と理解を深める。	
スペイン語 2A	世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語を学び、簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指す。基本４技能のうち、特にスペイン語を聴く能力と話す能力を涵養するため、実践的な練習を積み重ねていく。また、スペイン語圏の社会・文化への関心と理解を深める。	
スペイン語 2B	スペイン語2Aに引き続き、基本４技能のうち、特にスペイン語を聴く能力と話す能力を涵養するため、実践的な練習を積み重ねていく。世界約20ヶ国の公用語であるスペイン語を学び、簡単なコミュニケーションが出来るようになることを目指すとともに、スペイン語圏の社会・文化への関心と理解を深める。	
韓国語 1A	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。文字と発音の基礎に続き、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学び、自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。「読む」、「書く」技能に中心を置く。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。真摯にして明るく楽しい授業を目指す。	
韓国語 1B	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。前期で学習した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、また用言の終止形に加えて、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、実践的な表現力を養う。「読む」、「書く」技能に中心を置く。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。真摯にして明るく楽しい授業を目指す。	
韓国語 2A	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。文字と発音の基礎に続き、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学び、自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。「聞く」、「話す」技能に中心を置く。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。聞く、話す、読む、書く、の4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力を養成する。	
韓国語 2B	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。前期で学習した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、また用言の終止形に加えて、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、実践的な表現力を養う。「聞く」、「話す」技能に中心を置く。発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。聞く、話す、読む、書く、の4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。	
フランス語研究 1A	春学期開講。初級フランス語の知識をすでに身に付けた学生を対象とする授業。フランス語で書かれた文章の講読を中心に授業を進めながら、フランスの新聞、雑誌、小説、論文などを読むために必要な語学力の育成を目指す。一文の意味を正確につかむとともに、文章の流れや構築を把握し、テクスト全体の内容を理解することができるようになるために、授業中はまず学生に一定量の文章を訳してもらい、それについて講師があらためて解説する。当然ながら、自宅での予習および復習が不可欠である。	

フランス語研究 1B	秋学期開講。春学期に引き続き、フランス語で書かれた文章の講読を中心に授業を進めながら、フランスの新聞、雑誌、小説、論文などを読むために必要な語学力の育成を目指す。一文の意味を正確につかむとともに、文章の流れや構築を把握し、テクスト全体の内容を理解することができるようになるために、授業中はまず学生に一定量の文章を訳してもらい、それについて講師があらためて解説する。当然ながら、自宅での予習および復習が不可欠である。	
フランス語研究 2A	春学期開講。初級フランス語の知識をすでに身に付けた学生を対象とし、会話や作文などの実践的領域を中心にトレーニングを重ねていく。具体的な授業の内容としては、まず、会話文の暗記や発音練習などを通して、実践に役立つ表現を習得する。次いで、フランス語の文法や文章の構造を説明し、それを練習問題を通して学ぶ。さらに、フランス語の聞き取りにも挑戦する。こうした訓練を毎週継続することで、フランス語の実践能力および表現能力を徐々に高めていきたい。そしてそれにはもちろん、学生一人一人の予習および復習が不可欠である。	
フランス語研究 2B	春学期開講。春学期に引き続き、会話や作文などの実践的領域を中心にトレーニングを重ねていく。具体的な授業の内容としては、春学期と同様、まず、会話文の暗記や発音練習などを通して、実践に役立つ表現を習得する。次いで、フランス語の文法や文章の構造を説明し、それを練習問題を通して学ぶ。さらに、フランス語の聞き取りにも挑戦する。こうした訓練を毎週継続することで、フランス語の実践能力および表現能力を徐々に高めていきたい。そしてそれにはもちろん、学生一人一人の予習および復習が不可欠である。	
中国語研究 1A	一年次の初級中国語の学習を一通り終えた学生を対象に、中級レベルの中国語を身に付けることを目指す。初級の発音や基本文法事項の再確認をしながら、より実用的な中国語表現の「読み」「書き」「話し」「書く」運用能力を高めていく。春学期に「中国語研究１Ａ・２Ａ」を、秋学期に「中国語研究１Ｂ・２Ｂ」の2科目をそれぞれ同時に履修する。１Aでは、中級文法を解説し、その習得を目指す。	
中国語研究 1B	一年次の初級中国語の学習を一通り終えた学生を対象に、中級レベルの中国語を身に付けることを目指す。初級の基本文法事項の再確認から始めて、より実用的な中国語表現の「読み」「書き」「話し」「書く」運用能力を高めていく。春学期に「中国語研究１Ａ・２Ａ」を、秋学期に「中国語研究１Ｂ・２Ｂ」の2科目をそれぞれ同時に履修する。１Bでは、中級文法を解説し、その習得を目指す。	
中国語研究 2A	一年次の初級中国語の学習を一通り終えた学生を対象に、中級レベルの中国語を身に付けることを目指す。初級の発音や基本文法事項の再確認から始めて、より実用的な中国語表現の「読み」「書き」「話し」「書く」運用能力を高めていく。春学期に「中国語研究１Ａ・２Ａ」を、秋学期に「中国語研究１Ｂ・２Ｂ」の2科目をそれぞれ同時に履修する。２Aでは、発音や会話に重点をおいた指導を行い、やや発展的なコミュニケーションができるようになることを目指す。	
中国語研究 2B	一年次の初級中国語の学習を一通り終えた学生を対象に、中級レベルの中国語を身に付けることを目指す。初級の基本文法事項の再確認から始めて、より実用的な中国語表現の「読み」「書き」「話し」「書く」運用能力を高めていく。春学期に「中国語研究１Ａ・２Ａ」を、秋学期に「中国語研究１Ｂ・２Ｂ」の2科目をそれぞれ同時に履修する。２Bでは、発音や会話に重点をおいた指導を行い、やや発展的なコミュニケーションができるようになることを目指す。	
ドイツ語研究 1A	ドイツ語1AB、2ABの既習者を対象にして、「購読」に重点をおきながら、ドイツ語の基礎文法・基本語彙の定着および中級ドイツ語への橋渡しを目指す科目。テキストの読解を中心に扱いつつ、初級文法の復習・補足を行う。文法項目では現在完了形を一つの重点として、ドイツ語研究1Bと合わせて、以降の文法事項（「受動態」、「関係文」、「接続法」、「分詞構文」、「冠飾句」等）を可能な限り扱ってゆく。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の読み物をとりあげるよう心がける。	

	ドイツ語研究 1B	ドイツ語1AB、2ABの既習者を対象として、「購読」に重点をおきながら、ドイツ語の基礎文法・基本語彙の定着および中級ドイツ語への橋渡しを目指す科目。テキストの読解を中心に扱いつつ、初級文法の復習・補足を行う。文法項目では現在完了形を一つの重点として、ドイツ語研究1Ａと合わせて、以降の文法事項（「受動態」、「関係文」、「接続法」、「分詞構文」、「冠飾句」等）を可能な限り扱ってゆく。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の読み物をとりあげるよう心がける。	
	ドイツ語研究 2A	ドイツ語1AB、2ABの既習者と対象にして、「表現」に重点をおきながら、ドイツ語の基礎文法・基本語彙の定着および中級ドイツ語への橋渡しを目指す科目。会話や作文を授業の中心に据えつつ、初級文法の復習・補足を行う。文法項目では現在完了形を一つの重点として、ドイツ語研究２Ｂと合わせて、以降の文法事項（「受動態」、「関係文」、「接続法」、「分詞構文」、「冠飾句」等）を可能な限り扱ってゆく。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
	ドイツ語研究 2B	ドイツ語1AB、2ABの既習者を対象にして、「表現」に重点をおきながら、ドイツ語の基礎文法・基本語彙の定着および中級ドイツ語への橋渡しを目指す科目。会話や作文を授業の中心に据えつつ、初級文法の復習・補足を行う。文法項目では現在完了形を一つの重点として、ドイツ語研究２Ａと合わせて、以降の文法事項（「受動態」、「関係文」、「接続法」、「分詞構文」、「冠飾句」等）を可能な限り扱ってゆく。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
	スペイン語研究 1A	1年次で習った基本文法を復習しながら、身近なテーマについて自分から何かを伝えることができるように、単語から文を、文から文章を作る練習をしていく。動詞の活用語尾を覚えることから一歩進んだ表現力を身につけよう。映画などを題材として、スペイン語圏と日本の文化の違いや共通点についても考えていく予定。	
	スペイン語研究 1B	新しい文法事項を少しずつ取り入れながら、身近なテーマについて、単語から文へ、文から文章へと表現力をつける練習を行う。春学期に引き続き、映画などを題材としてスペイン語圏と日本の文化の違いや共通点についても考えていく予定。	
	スペイン語研究 2A	1年次で習った基本文法および頻出表現を復習しながら、身近なテーマについて自分からなにかを伝えることができるように、会話練習などを行う。リスニング能力の向上、語彙力の増強を目指したトレーニングも行う。また、毎回最新ニュースなどを例に取って、スペイン語圏の話題や動向についてもふれていく。	
	スペイン語研究 2B	1Aに続き、身近なテーマについて自分からなにかを伝えることができるように、会話練習などを行う。必要な文法事項は適宜学習する。リスニング能力の向上、語彙力の増強を目指したトレーニングも行う。また、毎回最新ニュースなどを例に取って、スペイン語圏の話題や動向についてもふれていく。	
	韓国語研究 1A	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、語彙力の拡充をはかる。なお、「条件を表す」、「依頼する」、「根拠を述べる」、「感嘆を表す」といった、より洗練された談話戦略的な表現(ストラテジー)の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。 「読む」「書く」能力の向上を目指す。語彙、文法の増強と共に、実践的に表現しうる能力をさらに発展させる。明るく楽しい授業を目指す。	
	韓国語研究 1B	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、語彙力の拡充をはかる。なお、「条件を表す」、「依頼する」、「根拠を述べる」、「感嘆を表す」といった、より洗練された談話戦略的な表現(ストラテジー)の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。 「読む」「書く」能力の向上を目指す。 語彙、文法の増強と共に、実践的に表現しうる能力をさらに発展させる。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。明るく楽しい授業を目指す。	
	韓国語研究 2A	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、様々な文法を学ぶ。加えて、語彙力の拡充をはかる。なお、「条件を表す」、「依頼する」、「根拠を述べる」、「感嘆を表す」といった、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。「話す」「聞く」能力の向上を目指す。発音の練習を重視する。韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く、話す、読む、書く、の4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。	

		韓国語研究 2B	韓国語の基礎の学習を終えた学習者を対象とする。既に獲得した基礎の上に、命令形、連体形などの諸形と判断法といった文法を学ぶ。語彙力の拡充もはかる。なお、「願望を表わす」、「買い物をする」、「絵葉書を書く」、「ほめる」といった、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。「話す」「聞く」能力の向上を目指す。発音の練習も重視する。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く、話す、読む、書く、の4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。	
		集中日本語 1	本コースは、初めて日本語を学ぶ人を対象とする。ひらがな、カタカナ、基本的な漢字を学ぶとともに、日本語の４つの技能、すなわち「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」能力を総合的に伸ばしながら、日本語能力の基礎を築くことを目指す。クラスでは「正確さ」のための練習とともに、「流暢さ」の習得のための様々な活動を行う。コース修了時までに初級前半の基本的な文型・語彙の学習を終え、身の回り、日常生活で必要とされる簡単な事柄を日本語で理解し、表現できる能力を身に付けることを、目標とする。	
		集中日本語 2	本コースは、ひらがな、カタカナ、基本的な漢字の学習を終え、非常に基本的な日本語の知識を持った学生を対象とする。主教材として初級の総合教科書を使用し、「話す」「聞く」能力を伸ばすことを中心に、「読む」「書く」力も養い、日本語の総合的な能力を高めることを目指す。コース終了時までに、 (1)日常生活でまわりの人と日本語でコミュニケーションがスムーズにとれる、(2)自分のこと、自分の考えなどを日本語で言える、(3)基本的な漢字を読んで書けるようになることを、目標とする。	
		集中日本語 3	本コースは、初級文法を終え、基本的な日本語の知識を持った学生を対象とする。初級文法の復習を行いながら中級へスムーズに移行できるように授業を展開する。総合的なテキストを用い、読解、スピーチ、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通し、四技能を総合的に養成することを目指す。コース終了時までに、 (1)身近な事象について正確さを持って、ある程度詳細に話す、(2)一般的事象について簡単に説明し、意見を述べる、(3)簡単な意見文を書けるようになることを、目標とする。	
		集中日本語 4	本コースは、中級前半の日本語学習を終了した学生を対象とする。日本の社会的、文化的なトピックについての文章を理解し、新しい語彙、表現を学習しながら読む力を伸ばし、また、さまざまな活動を通してコミュニケーション能力を高めることを目指す。ディスカッション、スピーチ、インタビュー、プレゼンテーションなどの活動を通して、幅広い話題について説明し、自分の意見を的確にわかりやすく伝えられるようになることを、目標とする。	
初級科目	演習科目	Introductory Seminar 1	1年生が対象で、本学科における学習の基礎（読み方、書き方、発表方法、勉強方法など）を習得しながら、同時に本学科の幅広いテーマ群を学生に認識させることを目標とする。３人の教員が担当し、週２回実施し、１回を講義に、１回を討論にあてる。討論は小グループで実施され、３人の教員が同時に参加して、学生間の討論を促進させる。同じテーマを異なる領域から考察していく醍醐味と、異なる領域相互の関連性を認識できる。このセミナーの共通テーマは、「国際社会から見た日本社会の文化的・経済的・社会的な特徴の検討」である。 （オムニバス方式／全28回） （2回　合場敬子／ガイダンス・イントロダクションおよびまとめ） （4回　M. Watson／国際社会からみた日本文化と文学の特徴についての講議） （4回　合場敬子／国際社会からみた日本社会の特徴についての講義） （4回　山本恭久／日本経済と国際経済の関り方についての講義） （14回　M. Watson・合場敬子・山本恭久／国際社会から見た日本社会の文化的・経済的・社会的な特徴に関する多面的なディスカッション）	オムニバス方式

		Introductory Seminar 2	1年生が対象で、本学科における学習の基礎（読み方、書き方、発表方法、勉強方法など）を習得しながら、同時に本学科の幅広いテーマ群を学生に認識させることを目標とする。３人の教員が担当し、週２回実施し、１回を講義に、１回を討論にあてる。討論は小グループで実施され、３人の教員が同時に参加して、学生間の討論を促進させる。同じテーマを異なる領域から考察していく醍醐味と、異なる領域相互の関連性を認識できる。このセミナーの共通テーマは、「国際社会から見た日本社会の文化的・経済的・政治的な特徴の検討」である。 （オムニバス方式／全28回） （2回　A. Vesey／ガイダンス・イントロダクションおよびまとめ） （4回　阿部　望／国際社会からみた日本経済・アジア経済・ヨーロッパ経済の特徴についての講義） （4回　A. Vesey／国際社会からみた日本社会の特徴についての講義） （4回　吉井淳／日本及び世界の国際関係・紛争解決のありかたに関する講義） （14回　阿部　望・A. Vesey・吉井　淳／国際社会から見た日本社会の文化的・経済的・政治的な特徴に関する多面的なディスカッション）	オムニバス方式
	講義科目	Global History A	この授業は多様な一次資料（日記、記録、手紙、地図、図面、写真、建築物など）を通して、１８世紀からの世界史を勉強する。テーマは「探検者の体験」、「地図作製と他地域・他文化の想像」、「帝国主義と人間関係」、「現代メディアの影響と個人世界観」を含む。世界史の生の文献を検討しながら各種類の資料分析方法を学び、クラス討論で学生の批判的思考の能力を向上させるのが重要な目標である。更に学生の英語作文能力の強化のため論文指導も重視する。評価は授業参加、資料分析の論文と期末発表による。	
		Global History B	この授業は世界史の二次資料（学術書、学術誌の論文、ドキュメンタリー）で世界史学を検討する。テーマは「生物学とヨーロッパ帝国の普及」、「オリエンタリズム」、「視覚文化と物質文化史」、「社会の発展・衰弱と環境の関係」、「戦争と平和運動」、「冷戦」を含む。世界史の専門家の書籍を読みながら、学術書の読解力を強化しクラス討論で学生の批判的思考の能力を向上させるのが重要な目標である。更に学生の英語作文能力の強化のため論文指導も重視する。評価は授業参加、学術書の評価論文と期末の研究論文・発表による。	
		Introduction to Economics A	本講義では、経済を分析するための2つの方法のうちの一つである「ミクロ経済学」の入門編を取り扱う。企業や家計の意思決定、特定産業の価格と生産の決定などが検討対象となる。ここでは、経済を構成している個々の経済主体、具体的には、企業、家計、個人の行動に焦点を当てる。ミクロ経済学は、それぞれの経済主体がどのように選択し、またその決定に何が影響しているのかを分析する。ミクロ経済学は身近な学問領域であり、本講義でも現実に起こっている経済問題を取り扱い、それが理論的にはどのように解釈できるかを、なるべく平易にかつ現実に即して説明する。	
		Introduction to Economics B	本講義では、経済を分析するための2つの方法のうちの一つである「マクロ経済学」の入門編を取り扱う。マクロ経済学においては、経済全体の行動、とりわけ全般的な失業率、インフレ率、経済成長率、貿易収支などの集計量の動きを分析する。集計された数値からは、個々の企業や家計が何をしているかはわからないが、経済が全体としてあるいは平均的にどのように動いているかを知ることができる。マクロ経済学も身近な学問領域であり、本講義でも現実に起こっている経済問題を取り扱い、それが理論的にはどのように解釈できるかを、なるべく平易にかつ現実に即して説明する。	
		Introduction to Sociology	この講義では、社会学の本質的な考え方や基本概念を学ぶ。それらを身につけることで、様々な社会を包括的に理解する能力の獲得を目指す。内容としては、個人を取り巻いている社会「構造」に、３つの主要概念から接近してゆく。１つ目は階級、２つ目はジェンダー、３つ目はエスニシティである。前半の講義では、この３つの概念を理解する素地を作り、後半の講義では、この３つの概念の理解と、それらが映し出す社会的不平等や差別の問題を考察する。概念の区切りごとに、感想や質問を書いてもらい、それを基にクラスで議論をしてゆく。	
		International Law	講義形式で行い、国際法の全体を把握することを目標とする。具体的には、第一に、現代国際法の概要を理解すると同時に、関連する幾つかの分野において詳細な知識を得ることを目指す。第二に、国際法に関する専門用語の正確な理解を得ることを目指す。第三に、法律的な考え方に慣れ親しむことを目指す。最後に、映像教材を使い、幾つかの事例研究を取り上げながら、国際社会で生起する紛争を国際法との関連で理解できるようになることを目指す。	

		Regional Development and World Economy	世界経済動向の構成を、国際経済の地域性と地域間相互依存性の観点から学習します。国際協力・ビジネスの現場では、例えば、世界金融危機の北アフリカ地域への影響のように、その現場の地域性を考慮した世界経済的事件の分析が必要となります。この分析の枠組みを構成する理論に関して、基礎的な経済学の応用として学習します。理論の学習とともに、国際経済の地域性と地域間相互依存性の現状に関して、最新の統計、ニュース、国際機関等のレポートの学習により理解を深めます。各自が自身での分析の視点を持つことを目標とします。	
		Introduction to International Relations	現代の国際関係を理解するための幅広い基礎を身につけることを目標とする。代表的な国際関係理論と歴史的な視点や知識（歴史感覚）を基本としながら、政治、経済、文化をまたぐグローバルな相互関係を分析するためのツールを学ぶ。オバマのアメリカ、中国やインドなどBRICｓの発展、ナショナリズムや民族・宗教の問題、国連やEUなど国際組織、開発援助、環境問題、文化接触、多国籍企業、メディア、テロなど、多岐に渡る国際問題を取り上げ、ビデオなども用いながら、その分析方法を体系的に学ぶ。	
		Culture and Society	日本の社会と文化を国際的な観点から分析する。永遠の人気を有する「日本人論」の文献では日本は民族的・文化的・経済的に「同質的」な社会だと言われてきた。その同質性のイメージは適切であるかを検証する。日本の人口の民族構成、富の配分、社会階層・階級性、そして年齢・性別・性的志向による相違点を詳細に分析すると、意外な多様性と不平等性が見出される。その中で、「同質国家」というイメージがどう保たれているかを明らかにするため、教育・宗教・マスコミなど各種の制度、慣習、さらに「世間」の影響等を多角的に分析する。	
		Japanese Culture	この講義では、能を通じて日本文化の重要な要素を学習する。能の筋書きは、伝説、民話、宮廷恋愛、戦記もの、詩など、多様な出典から取られている。授業では、どのようにそのような出典から劇的な話に変容したのかを理解するために、出典を読んだり、戯曲と比較する。その結果として、能の豊富な文化的伝統を探索することができる。また、能がどのように感情、心理、印象的な登場人物の豊かさ（幅広い年齢と社会的身分の男女、幽霊、龍神、他の超自然的存在など）を表現しているのかを分析する。	
		Intercultural Communication	この講義は、文化の多様性と複雑さを、学生がより深く理解する能力を発達させ、在学中さらに卒業後の人生において起こりうる、グローバリゼーション時代に特有の挑戦に学生が対応できるように設計されている。主要なテーマは、直接的相互関係の力学、文化間の紛争形態、自民族中心主義と人種差別主義に与える社会的影響、文化の価値志向性、コミュニケーションの非言語的様相、言語使用、ステレオタイプ、関係の発達と文化間の適応である。	
		Community Development (Service Learning)	この講義では、講義と実習を通して、１）市民活動についての理解を深める、２）実践者として身につけるべき態度や基本的な技術を習得する、３）市民活動への参加を通して、自らと社会（社会問題）の関係について知ると共に、社会の一員としての自身の責任について考えることを目標とする。NGOやNPOなどの活動事例を基に、市民活動についての理解を深めると共に、実習を通して実践者として臨む上で求められる態度や基本的な技術とは何かを考えていく。実習は地域で行われている市民活動に参加し、体験を通して得た気づきや学びを深める。	
		Politics and Society in Japan	現代日本の政治と社会の主要な論点を、学生たちが授業を通じて概観することを目的としている。授業は三部構成になっている。第一部は、戦後日本の一般的な政治発展について、第二部は、政治力学、主に選挙と政党について、最後は市民社会とジェンダーについてである。この授業はセミナー形式で行われ、毎回指定された文献がある。毎回、一人の学生がレポーターとなり、指定された文献を要約し、コメントをし、文献への疑問を授業中に発表する。講師がこれらに対してコメントをし、クラス全体で議論をしていく。	
		Qualitative Methods	本講義は質的調査法と総称されるさまざまな研究調査方法を学ぶ。具体的にはまず、調査方法に関連する理論の考察、および先行研究のレビュー、研究目的の設定、仮説の立て方をはじめとする調査の手順を学ぶ。その後、インタビュー、観察などの代表的な技法を実践的に学び、収集したデータを分析し、レポートを作成する。講義はこれらの課題を通して質的調査の実践的知識の習得を目指すとともに、社会システムや社会現象への洞察力を養い、調査データを適切に分析・評価し、理論立てて議論・報告するなどの能力を鍛錬することも目標とする。	

		Quantitative Methods	次の項目を３０回で講義・実習する。国際学および社会科学と数量分析、母集団と標本・標本特性値、確率変数と確率分布、コンピュータによるデータ処理とグラフ技術の習得、標本抽出と正規分布（同時に実習と中間レポート）、確率変数の関数理論、正規母集団からの統計量の分布、統計的推定と検定の考え方、平均と区間推定、最小二乗推定量、相関と分散分析、多変量解析、仮説検定理論、さまざまな回帰分析である。最後に学生は、個人課題実習とファイナルレポートを作成する。	
		Life and Career Development 1	本科目の目的は、国際的な広い視野をもちながら、将来の生き方を設計する能力を身につけることである。本科目の内容は以下の３点を計画している。第一に、自己分析＋コミュニケーション能力の育成（ワークショップ技法、グループワーク）を行う。第二に、大学卒業後の社会生活（仕事、家族、コミュニティについて）について、社会で活躍する卒業生による経験談などを通して学ぶ。第三に、多角的なものの見方を養うために大学カリキュラム（ボランティア、インターンなど）等、資源や制度の活用を行う。	
		Life and Career Development 2	本科目の目的は、キャリア教育に必要な能力、すなわち、学生が自ら課題を発見・認識し、課題解決のための方策を考え、その成果を発表する力をつけることである。そのため、近年、ビジネスや福祉、開発分野で用いられるようになっている実際の事例研究を重視したケースメソッド手法を活用する。ケース（事例）は、FASIDなどが発行する既存のケースから、企業、NPO(福祉、開発、環境分野など)、行政にまたがり、国際的な視野が広がるものを選定し、グループワークやディベートを通して、課題解決能力および発信能力の向上を目指す。	
		Introduciton to Information Literacy	本講義の目標は、情報収集・発信の基本的なリテラシーを身につけることである。その第一歩として、コンピュータ操作の基礎を実習形式で学ぶ。第一に、手を動かす時間を多く取り、必要なスキルを経験的・直感的に身につける。第二に、学んだスキルや身につけた動作で「何ができるか」ということを常に考え、学期末までにある程度の自分なりの問題意識を作る。実習を通じて、コンピュータを、ただ「使うだけ」の受動的な姿勢から脱却し、自らの学生生活を充実させるツールとして使いこなす、積極的な姿勢を身につけることを目指す。	
		Information Literacy	この講義では、実習形式を通じて、学生が映像制作の基本的な技能を体得することを目指す。本講義は三部構成になっている。第一部は、映像編集の一連のノウハウ（素材収集、トリミング、エフェクト処理など）の修得である。第二部は、映像表現を巡る諸々の概念修得である。最後は、上記一と二を実践する、学生自身による映像制作のミニプロジェクトである。学生は、講義の始めに２、３人のプロジェクトチームを組み、関連する作業を進めてゆく。最終的な成果物として、各チーム１５分程度のミニドキュメンタリーを制作し、発表する。	
上級科目	講義科目	International Disputes Settlement Procedures	国際裁判所や国際法廷に焦点を当てるのが、この授業である。具体的には、国際司法裁判所、投資紛争解決国際センター、ＷＴＯの紛争解決機関を中心に学ぶ。学習の目標は三つある。第一に、国際法の基本的な概念や用語を理解する。第二に、どのように国際法が国際紛争に適用されているかを理解する。第三に、様々な国際裁判者や国際法廷の組織や手続きを理解する。学生は一学期に少なくとも一度、国際司法裁判所が扱った事例についてロ頭発表しなければならない。	
		Peace Studies	自分は既にヒロシマ・ナガサキを知っているかのように思っている日本人学生が多いが、本当に知っていると言えるだろうか。この講義では、広島・長崎両市への原爆投下、およびそれによって開幕した我々の生きる核時代を検討する。内容としては、原爆投下をめぐる歴史上の争点、原爆被害の実態、戦後の核軍備競争と軍縮への努力、戦後続けられた核実験による被害、今日の核兵器の危険、原発の危険をどう考えるか、等を内容として予定している。	
		International Finance	国際金融において最も重要な変数のひとつは為替レートである。本講義では、(1)為替レートが動くことの意味、(2)安定化のための方策とその費用、(3)安定化の歴史および展望について、経済学の観点からの理解を学ぶ。加えて、経済学的な考え方を習得してもらうことも重視する。したがって、分析方法の説明についても十分な時間を割く。講義の後半では、国際政治との相互作用に注目した「政治経済学」的な視点を導入し、為替レート政策をめぐる国内・国際政治についても議論する。	

		International Journalism	社会問題や文化現象を中心的なテーマとし、それらを的確かつ効果的に表現できる視点と方法を学ぶ。紙媒体、写真、ビデオというマルチメディアジャーナリズムに焦点を当てる少人数のワークショップ型講座で、実践を強調する。三種類のメディアの基礎を学んだ上で、出版された記事、エッセー、写真集、ビデオを学生同士で分析・批評する。その学習を生かし、最終的に学生は、自分の作品をマルチメディアで制作、発表し、学生同士で再度批評し合う。	
		International Political Economy	この授業は国際政治経済の問題とアプローチの両方に焦点を当てる。現代の国際政治経済を理解するために本質的である批判的分析を主に行っていく。講義の後半では、幾つかの地域（北アメリカ、ヨーロッパ、第三世界、アジアと日本）におけるグローバリゼーションを検討する。国際政治経済におけるグローバリゼーションに関係する既存の研究を、学生自身が分析できるようになることを目標とする。そのため、三つの短い論文と学期末論文を作成する。	
		Gender and Society	授業を通じて、みなさんが日常生活で、全く意識しなかったり、仕方ないとあきらめたり、とてもこだわったり、無視しようとしている問題の多くが、「ジェンダー」に関係していることに気づいてもらう。まず、日本における本質的なジェンダー関係を理解し、それを他の地域のジェンダー関係と比較していく。さらに、地球規模で展開しているジェンダーが核となった問題を検討する。講義が中心だが、各テーマの最後にリアクションペーパー（講義に対する感想や疑問を書いたもの）を作成してもらい、できるだけクラスの中で議論をしてゆく。	
		Minorities Issues	この講義は現代日本における民族的、文化的少数者集団を扱う。第一に、日本における外国人（特に、韓国人、中国人、ブラジル人、フィリピン人）の社会的状況を学ぶ。第二に、日本における二つの重要な少数民族集団（琉球人とアイヌ）と文化的に定義された少数者集団（部落民）について学ぶ。第三に、経済的な少数者（貧困層、ホームレス、片親世帯など）について考える。その他、セクシュアリティにおける少数者、医療における少数者、社会的・政治的少数者について学ぶ。	
		Buddhist Culture	この授業の目的は、現代日本の中での仏教文化の多様性、また国際交流としての仏教の役割を探ることである。授業では毎回、現代の寺院で認められる建築物や儀式、人物等を紹介し、それを通して仏教の教理や伝統を説明する。その上、仏教文化の例を取り上げ、近年に普及してきた文化論（物質文化論、視覚文化論等）を検討する。さらに出家と在家が、現在の社会問題、倫理問題にどのように対応するかも取り上げる。他に、基本的仏教用語、修行の過程、神仏集合、社会参加仏教、医療倫理問題、外国への日本仏教の普及、等を取り上げていく。	
		Islamic Culture	本講義では、まず、死後世界観から、人類が「信じてきたこと」を考え、この疑問の入り口とします。死の意味づけは世界の意味づけ（世界観）の要となるものです。死後世界を見直すことで、自己と宗教・文化を見直すことを目指します。次に、イスラームの現世・来世に関する考え方を学びます。これらを通して、イスラームの世界観の基礎と時代による変遷を知り、異文化を理解することを試みます。異文化の価値観の理解を目指すと同時に、受講者自身の死と生に関するイメージと対比させながら、自らの問題として考えることを望みます。	
		Japanese Literature	欧米における『平家物語』研究はすでに１００年以上の長い歴史がある。この授業では、欧米の研究者、翻訳者、読者はどのように『平家物語』を理解し、評価してきたのかを検討する。比較文学的な立場から日本の『平家物語』第１巻～第６巻を読む。そして、『平家物語』がどのように英訳され、他の国々にどのように受け入れられてきたのかを考える。この事例をもとに、日本の古典文学を他の言語に翻訳することが可能かという問題を考える。	
		Japanese Popular Culture	この授業は、日本の大衆文化の人類学的考察を通じて、学生の日本の文化と社会に関する知識と理解を向上させる。民族誌的事例研究を通じて、過去と現在の文化的アイコンを詳しく調べる。文化的アイコンには、現代のポップアイドル、キャンペーンガール、コスプレーヤー、宝塚の演技者、アニメの主人公、明治時代の芸者、江戸時代の高級娼婦などが含まれる。これらの例を日本文化と社会のより広い文脈において検討し、それによって、社会的意味や文化的価値は構築され、制度化され、特別に作られるという仕組みを理解することができる。	

		Inter-Cultural History	この講義では、ある文化が異なる文化との遭遇を通して、どのように変化してゆくかを、歴史的に、複合的に考えることを目指す。そのため、異なる文化が出会ったとき、どのような問題が発生し、相互の文化にどのような影響を与えつつ変化してゆくのかを、理論的モデルと実証面から検討する。講義の前半では、文化の遭遇、衝突、受容、変容などに関する理論的枠組みについて説明し、次にこれらの問題を、映像資料を使いながら、イスラム社会のジレンマ、東南アジアの歴史経験、ファッション、スポーツ、医療などについて具体的に検討する。	
		Social Development (Service Learning)	このクラスでは、社会開発のメカニズムを自分自身の体験を通して学ぶ。また、経験を体験に落とし込む自己分析法を体得する。半年間継続して、地域団体や地方自治体、NPO/NGO、国際・政府機関の活動に参加し、活動経験を積みながらジャーナル（活動日記＆分析）を書く。毎週のクラスで報告し、体験分析について質疑応答し学びを深める。担当教員だけでなくクラスメイト、体験提供先の関係者のコメント（衆目評価）を最大限に活用できるように分析を深め、最終的には自分自身の社会開発における位置づけを探る。各回で学んだことを確実に次に生かせるように自覚を持ってほしい。	
		Localization: How to think and act locally (Service Learning)	本講義は、学生が地域でのボランティア活動に従事しながら学ぶ「サービス・ラーニング」である。一方で、フィールドワークを通じて、地域経済の疲弊、地域コミュニティの瓦解、地域生態系の劣化などの現状を具体的に学びながら、その背景にある経済システム、そしてグローバル化の問題を考察する。他方で、それらの諸問題に対処するために、その地域に潜在してきた文化的な活力を再評価し活かす地域活動（地元学）に参加することを通じて、今世界の各地で注目されている「ローカリゼーション」の意義を学ぶ。	
		Contemporary Japanese Economy A	日本経済の戦後60年間における変遷をたどるとともに、そうした変動の特徴、構造の変化、そして政策課題を総合的に明らかにする。具体的には、日本経済のミクロ的側面（企業や家計など）、マクロ的側面（成長・物価・国際収支など）、さらには経済の構造的特徴といった多くの側面から理解を深め、日本経済に関する一つの体系的理解を得ることを目標とする。その場合、最近の各種学問領域の成果をできるだけ取り入れて学問領域横断的な接近をできる限り試みる。それと同時に、初等経済学をうまく活用することも目指す。	
		Contemporary Japanese Economy B	日本経済の全体像を一つの新しい角度から整理することにより、日本経済の体系的理解をさらに深めることを意図している。第1に、日本経済の国際的側面（貿易、直接投資、対外金融、地域統合の問題など）を重点的に取り上げること、第2に、経済システムを国際比較した場合の日本経済の諸特徴という視点から理解を深めること、第3に、少子高齢化・グローバル化といった大きな条件変化が日本経済をどのように変えつつあるかを理解すること、そして第4に、こうした分析から明らかになる経済政策の課題を明らかにする。	
		Chinese Economy	本講義は経済制度の移行が実施される以前とその後における中国社会が抱える経済的・社会的諸問題を比較分析することである。講義の内容は下記の通りである。第一部では、経済政策の展開系譜（歴史的変遷の背景や経済政策の展開とその帰結）を考察する。第二部では、経済制度の移行と社会構造の変容（農業政策の転換と農村社会、企業改革と失業問題、労働力の移動と労働力市場の形成問題など）を考察する。最後に、移行期の中国経済と社会（地域間経済格差の問題、国民間の所得階層分解、政治腐敗の諸要因など）を検討する。	
		Economy of West Asia	中東アラブ諸国、イラン、トルコ、イスラエル、から成る西アジア経済を、経済的境界、経済的制約、経済的機会、の三点からの接近により学習する。グローバル化は世界地域の地理的境界と経済的境界の不一致をもたらしたが、西アジア経済の経済的境界の多層構造を、ヒト、資源、資金、の流れの観察を通して理解した上で、境界の多層構造がもたらす地域的経済制約及び経済発展への機会について基礎的な経済学の応用として学習する。各自が自身での分析の視点を持ちつつ、西アジア経済現況への理解を深めることを目標とする。	
		Economy of South East Asia	東南アジア諸国の経済発展の過程と背景を考察する。東南アジア諸国の現状と将来の課題についても議論する。日本と東南アジア諸国の間の過去と現在の経済関係を概説した後、この地域における日本の将来の役割についても議論する。具体的には、タイとフィリピンの経済発展の比較、アジアの通貨危機の影響、ベトナムの市場経済への移行、ミヤンマーの現状などを扱っていく。この授業を通じ、学生は東南アジア地域や経済問題に一層の関心と問題意識を持ってほしい。	

		Regional Economic Integration	本講義では、経済のグローバル化の一環として注目されている地域経済統合について検討する。これは世界中のいくつかの地域で観察されるが、本講義ではその中で最も地域統合が進展しているヨーロッパを取り上げる。ヨーロッパが現在直面している経済の諸問題およびそれへの政策的対応に関して、地域経済統合の観点から考察する。その内容は、以下の4つの部分からなる。 第1部　EU経済の概観（歴史的変遷、経済の特徴、制度と予算）、 第2部　EUにおける経済通貨統合の進展と問題点、 第3部　EUにおける経済問題と経済政策、 第4部　EUの加盟拡大、である。	
		Legal Issues in International Relations	本講義は現代国際法の基本的輪郭を説明し、そのうえ、アジア地域における実際の紛争事例を国際法の視点から考察を行う。これらの内容を通じて、受講者に国際法の基礎知識を身につけてもらい、アジア地域を含め、現実の国際社会の諸問題を国際法から分析する能力を取得してもらう。講義の主な内容として、国際法の基本的概念、基本原則、アジアにおける国際法の受け入れ・発展の歴史、中台関係、朝鮮半島問題、東アジア地域の領域・海域紛争、日米安保、日本と国連の関係、アジア統合等が含まれる。	
		Minority Politics	この講義では政治学の基本的な考えを学ぶ。具体的には、政治的秩序形成の中でマイノリティ（従属的地位にある集団）とマジョリティ（支配的地位にある集団）がどのように構成されており、また、構成されていくのかを、＜多文化主義＞、＜デモクラシー＞という二つの主要概念から考える。前半の講義では二つの主要概念を巡る多様な考えかたを理解する。後半の講義では事例としてヨーロッパにおけるマイノリティ問題を取り上げ、この主要概念からの分析を試みる。毎回の講義でコメントカードを提出してもらい、これに対する応答を講義の初めに行う。	
		Workshop	ワークショップは、通常の講義で提供されない特別な知識や技能を訓練するために与えられる単位として設計されている。ワークショップを履修したいと考える学生は、ワークショップの性格と学修目標を記載した提案書を作成し、ワークショップで指導を受けたいと考える教員に提出する。その提案書がその教官から承認されなければ、ワークショップは開講できない。ワークショップの完了時に、学生は学修目標に到達できたことを示す書類を提出し、指導教官はそれを分析し、評価をつける。	
		Contemporary Global Issues A	本講義では、経済、政治、文化に関わるグローバリゼーションの諸相の分析の他、多様性を増す各地域の文化や社会についての内容にも言及する。専門的な内容が英語で講義されることになるので、学生は２年生の後期以降受講できるようにする。	
		Contemporary Global Issues B	本講義では、経済、政治、文化に関わるグローバリゼーションの諸相の分析の他、多様性を増す各地域の文化や社会についての内容にも言及する。専門的な内容が英語で講義されることになるので、学生は３年生の前期以降受講できるようにする。	
	演習・実習科目	Field Study Seminar	担当する教員がテーマごとに学生を募集し、１週間から２週間程度、海外の地域に引率し、特定のテーマ（現地調査、現地大学生との交流、施設訪問など）について学習させるField Studyのための授業である。Field Studyの履修を希望する学生は、必ず履修することが必要で、この授業で、Field Studyの事前勉強と事後の成果検証を行う。事前勉強では、現地での学習を迅速に進められるように入念な準備が求められる。また、事後の成果検証では、Field Studyで学んだことを、報告会での発表や、報告書などで発信することが望ましい。	
		Field Study A	担当する教員がテーマごとに学生を募集し、２週間程度、海外の地域に引率し、特定のテーマについて学習させる。国際機関の訪問、現地学生との討論の実施、社会調査、エコツーリズムに関する学習など、多様な学習を提供する。担当教員が全行程にわたって、付き添い、指導を行う。この授業の履修を希望する学生は、Field Studyの事前準備と事後の成果検証を行うField Study Seminarを必ず履修しなければならない。また、１週間程度のField Studyを履修したい学生は、Field Study Bを履修する。	

		Field Study B	担当する教員がテーマごとに学生を募集し、１週間程度、海外の地域に引率し、特定のテーマについて学習させる。国際機関の訪問、現地学生との討論の実施、社会調査、エコツーリズムに関する学習など、多様な学習を提供する。担当教員が全行程にわたって、付き添い、指導を行う。この授業の履修を希望する学生は、Field Studyの事前準備と事後の成果検証を行うField Study Seminarを必ず履修しなければならない。また、２週間程度のField Studyを履修したい学生は、Field Study Aを履修する。	
		Internship A	国際学部で提供するインターンシップの目的は、国内外のさまざまな機関での実務研修･就業体験（インターンシップ）を通して、本学部の教育目的である「現在のグローバル化しつつ、他方でますます混乱しつつある国際社会において、地球社会の諸相を理解すること」、および教育目標である「政治、経済、文化、芸術など専門的な知識をもちつつ世界を包括的に把握できる、人間的に深みと幅のある魅力的な個人を育てること」を実現することである。インターンシップ･プログラムは、上記の目的を達成するために非常に有益な機会を提供するとともに、学生諸君のキャリア開発にも大いに資するものと確信する。　内容は「インターンシップB」（4単位）と同じであるが、こちらは6単位でより長期に実施される。	講義　10時間 実習 170時間
		Internship B	国際学部で提供するインターンシップの目的は、国内外のさまざまな機関での実務研修･就業体験（インターンシップ）を通して、本学部の教育目的である「現在のグローバル化しつつ、他方でますます混乱しつつある国際社会において、地球社会の諸相を理解すること」、および教育目標である「政治、経済、文化、芸術など専門的な知識をもちつつ世界を包括的に把握できる、人間的に深みと幅のある魅力的な個人を育てること」を実現することである。インターンシップ･プログラムは、上記の目的を達成するために非常に有益な機会を提供するとともに、学生諸君のキャリア開発にも大いに資するものと確信する。　内容は「インターンシップA」（6単位）と同じであるが、こちらは4単位でより短期に実施される。	講義　10時間 実習 110時間
		Independent Study A	インデイペンデント・スタデイーは、学科で提供されていない、特定の課題を自主的に研究・学習することにより単位を取得する為のコースである。受講者は学習の目標と計画書を指導教官に提出して、承認を得た上で学習を開始し、必要に応じてアドバイスを受ける。指導教官は受講者の学習成果を示す論文や作品を評価して成績をつける。インデイペンデント・スタデイーAは4単位を与えるものであり、その意味で、このプロジェクトの実質的内容が4単位の講義科目のそれに対応することが必要である。	
		Independent Study B	インデイペンデント・スタデイーは、学科で提供されていない、特定の課題を自主的に研究・学習することにより単位を取得する為のコースである。受講者は学習の目標と計画書を指導教官に提出して、承認を得た上で学習を開始し、必要に応じてアドバイスを受ける。指導教官は受講者の学習成果を示す論文や作品を評価して成績をつける。インデイペンデント・スタデイーBは2単位を与えるものであり、その意味で、このプロジェクトの実質的内容が2単位の講義科目のそれに対応することが必要である。	
		Graduation Seminar	グローバルスタディーズに関する４年間の総仕上げとして、本学科の学生はGraduation Project AまたはGraduation Project Bを行わなければならない。そのため学生は、本学科の専任教員の中から、自分が指導を受けたい教員を選び、その教員が提供するGraduation Seminarを履修しなければならない。この科目の履修により、Graduation Projectの完成に向けて、教員の指導を受けながら、万全の準備をすることができる。また、Graduation Projectは英語で記述または表現されるため、Tutorial 4Aや4Bで英語のサポートも受けながら進めていく。	
		Graduation Project A	Graduation Project Aは、Ａ４サイズで２０頁以上の英語による論文の作成が最終成果物となる。内容については、Graduation Seminarの指導教官から助言を受け、４年間の知識や経験を総動員する。また、留学やインターンシップによる知見もテーマ選定に役立つであろう。英語については、１年次から学術英語科目によって力をつけるが、特に英語の論文作成に関しては、Tutorial 4A,4Bを受けながら、学術英語担当教員からも支援を受ける。成果物は発表会などを通じて発表し、作成した学生同士がそれぞれの論文からさらに学ぶことができるであろう。	

		Graduation Project B	Graduation Seminar Bは、４年生までに様々な科目で書いた小論文を再検討、再構成したportfolioや事例研究、特定のプロジェクトの実践とその報告などを紙にプリントした論文等のほか、non-traditional mediaによるもの（ウエブサイト、ソフトウエア、映画ないしDVD、設計図等）を創作する。内容については、Graduation Project A同様、Graduation Seminarの指導教官から助言を受け、４年間の知識や経験を総動員する。また、留学やインターンシップによる知見もテーマ選定に役立つであろう。成果物は発表会などを通じて発表し、作成した学生同士がそれぞれの論文からさらに学ぶことができるであろう。	
国際学科科目	講義科目	国際経済論	（１）２つのグローバリゼーションと２つの世紀末資本主義、（２）戦後日本資本主義の成立と変容、（３）韓国資本主義の外生的循環構造とNICs型従属、（４）ポスト冷戦と中国の「改革・解放」、（５）アジアの「工場化」と通貨金融危機―冷戦体制の編成替えとアジア、（６）冷戦体制の解体・再編と日本	
		南北問題	私たちは自然の中でしか生存できない（自然の論理）、私たちはお金なくして生活できない（市場の論理）そして社会のあり方は人々が決める（政治の論理）という３つのロジックから前述の格差と貧困を解明していきます。講義は、南北問題を説明する理論編と南北問題を映像資料ないし適宜お呼びする外部の専門家の検証などからなる実際編の２つのパートから構成されています。ランダムになされる全履修者へのアンケート結果は必要に応じて、このセット・メニューの中で反映されます。	
		日本政治論	１９２０年代から現代までの日本の政治を、歴史的に解説してゆく。その際に、内閣や議会、政党、軍部、官僚、占領軍といったアクターに注目するだけでなく、天皇や宮中の動きにも注意を払ってゆく。ここから、戦前と戦後の違いだけでなきう、戦前と戦後の連続性もまた見えてくるだろう。すでに歴史と化した６０年代や７０年代の政治や社会についても、できる限り詳しく論じてゆきたい。人数によっては、講義の後に質疑応答の時間を設け、期末試験の代わりにレポートを課す場合がある。	
		比較文化論	明治の西洋からの新制度や文化の受容のむつかしさを森鴎外は「普請中」と譬えた。その後の戦時をはさみアジアとのかかわりを通じて、戦後にはアメリカとの接触を通してさらに異なる「日本」のアイデンティティが形成された。今年度は明治４（1871）年から明治政府の要人ら百余名が２年間西洋を視察し、その後の「西洋化」の方向を決定的なものにした「岩倉使節団」の経験をたどる。また明治大正の社会変化を分析した著作のなかに文化の形成過程を見てみよう。	
		現代文学論	いままでも、川上弘美、綿矢りさ、金原ひとみ、本谷有希子、リリー・フランキー、町田康、山田詠美、小川洋子等々の作家の最新作をとりあげた。今年も、新しい作家の、いちばん新しい作品、出版されたばかりのものを読んでいく予定だ。それ故、とりあげる作品がぎりぎりまで決まらないこともあるので注意すること（つまり、欠席すると、次回とりあげる作品が分からなくなることもある）。まず全員をいくつかのグループに分け、それぞれのグループが特定の作品を担当する。担当することになったグループは、授業時、発表を行う。その発表をもとにディスカッションを行うが、もちろん、全員がその作品を読んでこなければならない	
		日本語教授法	国文法では、動詞の活用の種類を知る方法として、動詞の否定形を作り、「書かない」なら「～ない」の前がア段の動詞は、五段活用の動詞であると整理する。外国人が日本語を学習する場合には、順序が逆で、動詞の種類(五段活用)を知ることによって、初めて動詞の否定形(書かない)を作ることを習う。日本語を教えるには、日本語の音声、文法、語彙、文字など、日本語全般を客観的に捉えた知識が必要になるほか、外国語教授法に関する知識や教具・教材などの実践的な使用方法などの知識も必要である。日本語教授法の「入門」という意味で、その概略を紹介する。実際の授業風景を随時ビデオで紹介しながら、授業を進める予定である。	
		環境経済論	ごみ問題・農業問題・水問題など身近で具体的な環境問題を取り上げ、現状・問題点・解決のポイントを解説するとともに、環境問題を理解するうえで重要な自然科学、とりわけ生態学の基礎知識、概念を紹介する。教科書は熊本一規『日本の循環型社会づくりはどこが間違っているのか？』(合同出版,2009)。	

	東北アジア地域研究（政治）	文化・文明の序列による階層的な華夷世界秩序の中にあった東アジアで、文化・文明的「辺境」にあった日本は、華夷秩序の否定を通じて「近代＝西欧化」こそが唯一の「進歩」「発展」であるとし、近隣諸国への「近代」の強要を正当化した。しかし、その一方で、否定したはずの中華的論理によって日本の優越性を誇張することで対外膨張・侵略を正当化していったという側面もある。今日の社会にも色濃く残存する自己と異なる世界観への不寛容性に留意しながら、世界観の変容や、文化・文明意識がどのように対外認識や対外政策に反映されたのかを考える。	
	ヨーロッパ芸術論	ヨーロッパ近代の視覚中心主義の源流をを古代ギリシャ、イスラム世界の視覚理論、そしてヨーロッパ中世、ルネサンスの光の形而上学に探り、近代ヨーロッパにおける広汎な支配を考究する。参考文献は、エンゲルハルト・ヴァイグル「近代の小道具たち」青土社、ジャン・マリー・アポストリデス「機械としての王」みすず書房、ロイ・ストロング「ルネサンスの祝祭」平凡社、ミシェル・フーコー「監獄の誕生」など。	
明治学院共通科目Ⅱ	ｷﾘｽﾄ教の諸相１	「タナハ／旧約聖書」の第一部である「モーセ五書」（聖書の最初の５つの書）には、古代の先進地域である西アジアの一角に生きたイスラエル人・ユダヤ人の法的伝統が残されている。大帝国の支配下に置かれながらも、神に選ばれた「神の民」であるという自覚をもった人々の間で練り上げられた理念を、歴史的社会的背景に照らして理解する。受講者には、レスポンス・ペーパーやグループ・ディスカッションなどにおいて、法と正義の問題を、現代社会の諸問題との関連を意識しながら主体的に考察する事が求められる。	
	ｷﾘｽﾄ教の諸相２	ユダヤ教とキリスト教において聖典とされる「タナハ／旧約聖書」の中からいくつかの物語を取り上げ、文書の成立史や物語において前提される社会の仕組みなどを学びながら、それらにおける人間像を理解することを目標とする。ただし、モーセやダビデなどの著名な男性ではなく、女性の人物に光をあて個々の物語を考察することによって、「タナハ／旧約聖書」の人間像の多様性に重点を置く。文書成立時代の歴史的背景に照らして文書を理解することを主眼とするが、時間が許す範囲で西欧における受容史にも触れる。	
	ｷﾘｽﾄ教の諸相３	新約聖書の四つの福音書は、イエスについて知るための基本的資料である。しかし四つの福音書におけるイエスのイメージは、かなり異なっている。この授業では、福音書の語るイエス像がどのように異なるのか、何故このような違いが生じたのかを、当時の歴史的状況の中で考え、キリスト教の成立の経緯についての理解を深めることを目標とする。具体的には、イエスの活動の前提となる古代ユダヤ教の経緯と状況を確認した後、イエスの活動、十字架事件以降の弟子たちの活動、諸福音書の立場などを検討する。	
	ｷﾘｽﾄ教の諸相４	西洋文明の成立にキリスト教が根底から深く関わっていることはよく知られている。この授業ではまず、キリスト教が西洋世界の構造とどのように結びついたのかを確認し、さらに近代以降その影響を地球規模に拡大していった過程を辿る。この過程でキリスト教と非西洋的諸文明との出会いが生じるが、非西洋文明の持つ可能性に着目しながら、さまざまなタイプの文明とキリスト教とがどのような関係を結んでいるのかについても考察を深めてゆきたい。	
	ｷﾘｽﾄ教の諸相５	ヨーロッパ思想の源流にはギリシャ思想とユダヤ・キリスト教思想の二つの大きな思潮があり、キリスト教思想自体、古くはギリシャ哲学から中世そして近代哲学に至るまでそれぞれの時代の哲学諸思想との対立、融合、相互補完をくぐりぬけてきた。本講義では、この二大潮流を通時的に概観し、西洋哲学における諸課題の検討を通して、ヨーロッパ思想の形成と展開に大きな影響を及ぼしたキリスト教思想について深く理解することを学習目標とする。	
	ｷﾘｽﾄ教の諸相６	本講義では、聖書にみられる政治的概念、古代教父たちの政治思想、中世キリスト教政治思想、公会議運動の政治思想的意義、宗教改革者たちの政治思想など、キリスト教とデモクラシー、あるいは教会と国家の関係をめぐって蓄積されてきたキリスト教政治思想における主要な伝統について講義する。キリスト教、とりわけプロテスタンティズムが近代デモクラシーの思想的かつ実際的な展開に果たした役割を明らかにすることによって、キリスト教と政治との関係についての理解を深めることを学習目標とする。	
	ｷﾘｽﾄ教の諸相７	キリスト教は支配勢力として弱者や少数者に対し抑圧的に振舞ってきた歴史を持つ一方で、それとは全く反対に数多くの「抵抗者」を生み出してきた。本講義では、キリスト教の「抵抗」の論理をその由来にさかのぼって整理し、この論理が、非キリスト教文化圏、とりわけ近代以降の東アジア地域の中でどのように受けとめられ、展開されてきたのかを確認し、さらに現代社会の諸問題にどのように生かされるべきかを学ぶ。	

ｷﾘｽﾄ教の諸相８	戦後65年が経とうとしている今もなお、日本の戦争責任は戦後責任とあわせて問われ続けている。戦争の加害者と被害者との間に和解は成立しうるのだろうか。日本とアジアの関係を中心に戦後処理のあり方を考えながら、すぐれて聖書的な概念でもある「和解」の可能性をキリスト教の視点から探り、戦争の記憶と和解という重い問題にキリスト教はどのように答えようとしているのか、答え得るのかを考察する。	
宗教史１	ユダヤ教史を扱う本講義では、第二神殿崩壊（後1世紀）までをカバーし、特にトーラー（モーセ五書）と預言者の関わり、神殿中心の伝統と律法解釈中心の伝統の平行性に注目する。時代史の手引きを省かず、後世のキリスト教やイスラームとの関係も視野に入れる。またユダヤ学の知見を取りいれ、一般的なユダヤ教像を多少とも修正することを目指し、歴史意識の背後に横たわる自文化中心性や、知りもしない他者への無責任な言説に対する嗅覚を高めることを目標とする。	
宗教史２	第二神殿崩壊（西暦1世紀）以後、口伝律法（ミシュナー・タルムード）の集成により、ユダヤ教は今日につながるそのよりどころを確立した。本講義では、この過程を、テクストと歴史の両面から学んでゆく。また同根の啓示宗教であるキリスト教やイスラームの形成期についても、ユダヤ教との関連から考察する。日本のユダヤ文化理解は、聖書時代と近世以降に終始しがちだが、講義ではユダヤ学の知見も取りいれこの欠落を埋めるとともに、キリスト教やイスラームとの関連をふまえた、多角的な解説を行なう。	
宗教史３	本講義では、そのテーマを「キリスト教史１（１～１２世紀）」として、キリスト教の成立から中世キリスト教（１２世紀まで）の歴史を講義する。どのようにキリスト教が誕生し伝わり生きられてきたか、ヨーロッパの土台となったキリスト教文化の形成について考察しながら、西洋文化への理解を深めることを目標とする。具体的には、殉教、修道制、秘跡、典礼、教会と国家の関係、霊性、キリスト教芸術等について、時折映像資料を用いながら講義する。	
宗教史４	本講義では、そのテーマを「キリスト教史２（１３～２１世紀）」とし、ヨーロッパ社会に変革をもたらした１３世紀のキリスト教及びその後現代に至るまでのキリスト教史を講義する。具体的には、１３世紀の都市の発達、使徒的福音主義的運動、托鉢修道会、教会分裂、ルネサンス、宗教改革、近代及び現代キリスト教の諸活動、日本のキリスト教、そして現代のキリスト教のあり方について、時折映像資料を使用しながら具体的に講義する。	
宗教史５	本講義ではまず中世のキリスト教の基本的特徴と教会制度の成立過程について概観し、次いで中世の宗教文化の基層を形作っている民衆の宗教世界に目を転じてゆく。さらに、カタリ派などの異端運動やエックハルトらの神秘主義思想、終末論・千年王国運動などを紹介してゆく。その後、ルターやカルヴァンらの宗教改革運動の展開をたどりながら、それがヨーロッパの文化と社会にどのような変化をもたらしたかを見てゆく。さらに、ユダヤ人迫害や魔女狩りなどの宗教的迫害の背景について考察する。	
宗教史６	ヨーロッパの近代化のなかで宗教の社会的位置づけがどう変わっていったのかを、近代科学、啓蒙主義、宗教的寛容、政教分離などの諸テーマを通して考察した後、それに続く19～20世紀に生まれてくる思想・芸術・政治運動に宗教がどのような影響を与えていたのかを、ロマン主義、精神分析、ナチズム、対抗文化運動などのトピックを通して考えてゆく。また、ユダヤ人やアフリカ系アメリカ人などのマイノリティーの視点から、近代文化と宗教とのかかわりについて考察する。	
宗教史７	アヘン戦争、第2次アヘン戦争の敗北、洋務運動、変法運動、義和団戦争と、目まぐるしい変化を遂げた中国の近代史は、「近代化」への苦闘の歴史ということもできる。この「近代化」の過程が実はキリスト教抜きでは語り尽くせないということはあまり注目されていない。授業では、キリスト教が具体的にどのように中国の「近代化」に関わったのかという問題を中心テーマとして講義を進める。中国の伝統的宗教意識、政治、社会の動きや日本との関係にも注意を払う。	
宗教史８	清朝崩壊、中華民国の成立、日本との戦争、中華人民共和国成立、文化大革命、改革開放、そしてオリンピック開催。これら過去100年の中国の歴史に、キリスト教はどのような影響を与え、それに対し中国社会はどのように反応してきたのだろうか。本講義では、清末～辛亥革命から現代中国に至るまでのキリスト教の歴史を、中国の政治、社会の動きや日本との関係にも注意を払いながら概観し、現代中国社会におけるキリスト教の可能性を展望する。	

哲学１	近代哲学の創始者とも称される１７世紀の哲学者デカルト(Rene Descartes, 1596-1650) が著した代表作『方法序説 Discours de la Methode』（１６３７年刊）は、その知名度は高いものの、実際に読んでみると、内容を理解するのに苦労する書物である。この著作が書かれた17世紀に固有の思想的背景などに触れながら解説する。	
哲学２	近代哲学の創始者とも称される１７世紀の哲学者デカルト(Rene Descartes, 1596-1650)が著した代表作『方法序説 Discours de la Methode』（１６３７年刊）は、その知名度は高いものの、実際に読んでみると、内容を理解するのに苦労する書物である。この著作が書かれた17世紀に固有の思想的背景などに触れながら解説する。 『方法序説』の後半（第４ー６部）では、主として、彼が打ち出した新たな「形而上学」、「自然学」の内容が紹介される。これを読むことを通じて、哲学史の基礎知識を習得する。	
哲学３	西洋思想において「Harmonia ハルモニア」と言われる概念が果たした役割は余り知られていない。実は１８世紀に至るまで、世界の数理的存在構造は音楽的なものであると考えられ、それは「ハルモニア」と称されてきた。この「ハルモニア」なる概念を巡って、音楽・科学・哲学・神学の有機的連関を追うことにする。春学期は、特にピュタゴラス＝プラトン主義的な象徴主義について、古代から１７世紀までを概括する。	
哲学４	西洋思想において「Harmonia ハルモニア」と言われる概念が果たした役割は余り知られていない。実は１８世紀に至るまで、世界の数理的存在構造は音楽的なものであると考えられ、それは「ハルモニア」と称されてきた。この「ハルモニア」なる概念を巡って、音楽・科学・哲学・神学の有機的連関を追うことにする。秋学期は、デカルトを中心として、１７世紀における「ハルモニア」概念の崩壊について概説する。	
哲学５	初期近代までのユダヤ哲学の潮流を、主要な何人かの思想家をとりあげ、1年がかりで展望します。春学期は古代イスラエルにおける神の理解から、イスラーム経由のギリシア哲学移入（9世紀）、中世屈指の哲学者マイモニデス（12世紀）までを、概説史的に紹介します。啓示（聖典）と理性（アリストテレス哲学）というふたつの基準をもつユダヤ哲学をとおし、近代以前の哲学のもっとも基本的な関心を理解します。	
哲学６	初期近代までのユダヤ哲学の潮流を、何人かの思想家をとりあげ、1年がかりで主要な展望します。秋学期は啓示（聖典）と理性（アリストテレス哲学）という真理のふたつの指標の関係を、哲学者たちがどのように論じたかを、各論的にとりあげます。中世ユダヤ哲学の頂点に立つマイモニデス、ヘブライ語訳で熱心に読まれたイスラーム哲学者アヴェロエス（イブン・ルシュッド）（ともに12世紀）から、ユダヤ教から破門され西洋哲学に名を残したスピノザ（17世紀）までをとりあげます。	
哲学７	２０世紀英国の哲学者 ラッセル (Bertrand Russell, 1872-1970) の『哲学入門 The Problems of Philosophy 』(1912年) の第１～７章を読み進める。	
哲学８	２０世紀英国の哲学者Ｂ．ラッセル (Bertrand Russell, 1872-1970) の『哲学入門 The Problems of Philosophy 』(1912年) の第８～１５章を読み進める。	
倫理学１	倫理学の基本問題である「善悪とは何か」、「正義とは何か」、「平等とは何か」、「普遍的な善悪の基準はあるか」、「自由と責任」、「道徳と幸福」などの倫理学の基本問題を、日常的な経験から題材を取り、日常的な語彙を用いて考える。倫理学の理論にかんする講義も取り入れるが、最小限にとどめ、担当者と受講生、受講生どうしの討論を主体に進めることによって、他者とコミュニケーションをとりつつ主体的に思考する訓練を兼ねる。	
倫理学２	倫理学の代表的な理論一つを主題的に取り上げ、他のさまざまな理論とも比較しつつ、掘り下げて解説し、倫理学の基本的な考え方を学ぶ。カント倫理学、功利主義、道徳感情論、分析倫理学、討議倫理学などが取り上げられる。理論の理解が主になるが、できるだけ日常的な道徳的経験に照らして考えることを促し、受講生が主体的に倫理学的に思考することを促す。	

	倫理学３	ヨーロッパの哲学の一部としての倫理学の歴史を、古代・中世に焦点を当てて学ぶ。古代ギリシャからルネッサンス前までの倫理学の理論を通史的に解説する。理論の理解が主になるが、あわせて時代的背景、文化的背景なども解説し、ヨーロッパの歴史と文化の理解を促す。	
	倫理学４	ヨーロッパの哲学の一部としての倫理学の歴史を、近代・現代に焦点を当てて学ぶ。ルネッサンスから20世紀までの倫理学の理論を通史的に解説する。理論の理解が主になるが、あわせて時代的背景、文化的背景なども解説し、ヨーロッパの歴史と文化の理解を促す。	
	倫理学５	現代社会が直面する倫理的問題のうち、いわゆる生命医療倫理学に属する倫理的問題を考える。たとえば、クローン技術、生殖補助医療、安楽死・尊厳死、脳死臓器移植などを取り上げる。生と死、人としてのアイデンティティ、科学技術の可能性と限界をめぐって哲学的に考え、各自の意見を形成することを促すとともに、倫理学的思考の基本を学ぶ。	
	倫理学６	現代社会が直面する倫理的問題のうち、生命医療倫理学以外のさまざまな分野を扱う。たとえば、環境倫理学、戦争と平和の倫理学、ビジネス倫理学、情報倫理学などのいわゆる応用倫理学に属する問題を取り上げる。現代を生きるわれわれにとって喫緊の加田をめぐって哲学的に考えることを促すとともに、倫理学的思考の基本を学ぶ。	
	倫理学７	少人数（20名以内）で対話しつつ倫理的問題を考えると同時に、対話の作法と技法とを学ぶ。倫理学的なテキストを読みながら対話するか、日常的な道徳的経験をめぐる参加者の発言をもとに対話するかのいずれかの形を取る。受講生どうしの対話を主体に進めることによって、他者とコミュニケーションをとりつつ主体的に思考する訓練をも兼ねる。	
	論理学１	序論では伝統的論理学の由来､論理学の意義、ロゴスについて等､お話する予定です。内容としては､思考の根本原理､概念､判断、演繹推理の中の直接推理までを扱います。演繹推理の中の間接推理以降は秋学期に勉強します。	
	論理学２	演繹推理の中の間接推理、誤謬論、帰納推理､類比推理、探求の方法を扱います。間接推理は次のことを学びます。１.定言三段論法、２.仮言三段論法、３.選言三段論法、４.仮言選言三段論法 その他。誤謬論は､１.形式的誤謬、２.言語的誤謬、３.資料的誤謬以上の三つを学びます｡帰納推理､類比推理は以下のことを扱います。１.それぞれの推理はどのような推理なのか、２.完全帰納推理と不完全帰納推理、探求の方法は１.観察と実験、２.記述と説明、３.原因と結果、４.因果の決定法、５.探求方法の誤謬 その他に分けて学びます。	
	論理学３	「現代論理学」の基礎である「命題論理」と「述語論理」の仕組みを、テキストを中心として解説する。	
	論理学４	「現代論理学（＝記号論理学）」の完成によって引き起された哲学的問題（パラドックス）に対する論理学的アプローチを概括する。	
	論理学５	所謂伝統的論理学の概念論、判断論、推理論の前半を取り上げます。図などを用いることによって、明解な説明を心がけます。時間があれば、記号論理学についてもその初歩を概説します。	
	論理学６	所謂伝統的論理学の推理論の後半を取り上げます。図などを用いることによって、明解な説明を心がけます。時間があれば、記号論理学についてもその初歩を概説します。	

論理学７	推論はいついかなる場合「正しい」とされるのか？　この問いに答えうる、体系的な手段を与えることが論理学にとっての一つの課題である。本コースにおいては、命題論理（意味論、構文論）、そしてこれを部分として含む、より広範な述語論理（意味論、構文論）を学ぶことにより、推論の妥当性の問題にたいし（部分的な）回答を与える。春学期は命題論理を扱う。	
論理学８	推論はいついかなる場合「正しい」とされるのか？　この問いに答えうる、体系的な手段を与えることが論理学にとっての一つの課題である。本コースにおいては、命題論理（意味論、構文論）、そしてこれを部分として含む、より広範な述語論理（意味論、構文論）を学ぶことにより、推論の妥当性の問題にたいし（部分的な）回答を与える。秋学期は述語論理を扱う。	
言語の科学１	日常生活で観察される言語に関する事象をとりあげ、それを言語学的に見たらどのように説明されるのかを考えていく。英語が映画らしく聞こえなかったりするのはなぜだろうか。新語は　どんな構造になっているのか、若者言葉の特徴、言葉遊びの面白さは何に由来するのか、コミュニケーションはどのように成り立っているのかなど具体的な問題をとりあげながら、それれらはどのような言語の特徴が関わっているかを探り、言語学への世界へ導いていく。	
言語の科学２	言語の普遍的な特徴をとらえたうえで、音声的な特徴、語の構成、意味の単位、文の成り立ち、コミュニケーションの方法等についてどのような研究がなされているかを具体的な例を用いて概観していく。言語学と関連する様々な分野についても取り上げ、外国語学修の方法論、言語のバリエーションなどについて考えていく。	
言語の科学３	日本語の歴史１、日本語、琉球語、アイヌ語の歴史と、さらに韓国語、中国語、オランダ語、英語など日本に入ってきた言語がどのように日本語にかかわってきたのかを概観する。日本へどのような人々が入ってきて、それらの人々の言語がどのように日本語とかかわってきたかを古代から現代まで概観する。	
言語の科学４	日本語の歴史２：日本の様々な方言を扱い、現代日本語がどのように作用しているのか。敬語、漢字の使用、言葉遊びなど日本語の社会的側面について取り上げる。	
心理学１	心理学の基礎的分野のうち、知覚、学習、記憶、思考、言語の分野の研究内容を概観し、心理学の研究方法や知見を学び、人間行動の仕組みについての理解と洞察を深めることを目的とする。内容としては、心理学の歴史と分野、視覚系情報処理、感覚量と物理量、視空間の異方性、視覚の成立と発達、条件付けの２種、条件付けの応用、記憶の神経機構、脳内の情報検索の方法、思考の種類、創造的思考、ＫＪ法、失語症、言語の神経機構、等を予定している。	
心理学２	心理学の基礎的分野のうち、動機付け、知能、性格、社会の分野の研究内容を概観し、心理学の研究方法や知見を学び、人間行動の仕組みについての理解と洞察を深めることを目的とする。内容としては、動機づけと情動、視床下部と摂食動機、同性愛者の脳、内発的動機づけ、情動２要因理論、知能の測定、知能の発達、素質と環境、類型論と特性論、性格の測定、性格の発達とアタッチメント、社会的環境の認知と帰属理論、社会的動機づけ、説得と態度変化、等を予定している。	
心理学３	生理心理学は、脳を始めとする中枢神経系の働きと人間の行動との関係を生理学的な手法を用いて探る心理学の領域である。この講義では最新の認知神経科学の知見を紹介しながら、高次な脳の機能がどのように心の働きを担っているかについての理解を深める。内容としては、脳の基本的仕組み、脳の機能の研究方法から、脳による認知的処理、脳の性差、左右差、脳機能障害といったトピックを扱い、どのような科学的アプローチにより研究が行われてきたか、これまでにどのようなことが明らかにされたのか解説する。	
心理学４	認知心理学は、人間の持つ複雑な認知システムを実験的手法によって明らかにすることを目的としている。この講義では、記憶、言語、イメージ、意思決定といった認知心理学の主要なトピックを概観し、どのような科学的アプローチによって研究が行われてきたか、これまでにどのようなことが明らかにされてきたかを解説する。またさまざまなデモンストレーションや簡単な実験を体験しながら、人間の認知的処理の性質について理解を深める。	

	心理学５	誕生から死まで、生涯発達心理学の観点から、人間の心についての理解を深めることを目標とし、人が生きるプロセスについてこれまでの研究で明らかになっているポイントを押さえながら、各発達段階の特徴を解説する。内容としては、乳児期の言葉と認識による心的世界の始まり、幼児期の情動の発生と自己意識の成長、児童期の対人関係の広がりや科学的思考の始まり、青年期のアイデンティティの模索や就職結婚、成人期の親になるための準備などである。	
	心理学６	人格はどのように形成されるのかについて学び、自分自身とのつきあいや他者とのつきあいなどにどう生かすかについて理解を深めることを目的とする。人格の理解の仕方、形成のされ方、査定の方法などについて事例を含めて理解する。内容としては、人格の形成と遺伝、類型論と特性論、親子関係や友人関係と人格形成、発達課題と人格形成、防衛機制、人格のアセスメント（質問紙法、投影法）、人格の障害、人格の変化などを予定している。	
	心理学７	社会心理学の各分野における研究例と理論を概観し、社会心理学がテーマとする心と社会との関係を学び、社会的存在としての人間理解を目指す。内容としては、社会的認知、印象形成、認知的不協和理論、帰属理論、成功失敗の原因帰属、社会的促進、社会的手抜き、キティジェノビーズ事件、傍観者効果、援助行動、対人魅力、説得的コミュニケーション、集団、同調、斉一性への圧力、服従、内集団びいき、囚人のジレンマ、などを予定している。	
	心理学８	臨床心理学は、１人１人の個性について理解し、適応に関する働きかけの臨床的知見を蓄積し体系化した学問である。授業での知識を青年期の課題にどう生かすかを含めて検討する。まず臨床心理学の定義及び歴史について概観し、臨床心理アセスメント、心理療法、地域援助などについて事例を交え理解を深める。内容としては、質問紙法、投影法、来談者中心療法、家族療法、交流分析、学校臨床、不登校、病院臨床、地域援助などを予定している。	
	教育学１	これからの教育について，学生自身が自らの考えをまとめるために，この講義は組織される。これまで学生は，学習者の立場で「教育」を捉えてきた。しかし，学習者の立場だけでは限界がある。これからの教育をどのようにしていったらいいかという課題に迫るため，様々な立場から教育について考え，学生自身の考えをまとめさせる。学校，教師，教育改革という3つのテーマを取り上げ，検討する。1学校は何をしているか，どのような課題があるか。2教師は何をしているか，どのような課題があるか。3国内外でどのような教育改革が行われているか，どのような課題があるか。	
	教育学２	人間にとって教育はなぜ必要か、あるいは必然かを再確認する。また近代公教育における教育と政治の関係を探究する。あわせて日本の戦前と戦後の教育を概観する。教育学は人間理解の学でもある。さまざまな事例を紹介しながら人間理解、児童・生徒理解を深めたい。教育はまた人間形成の営みである。その際、人間を越えた何者（究極的実在・宇宙的生命）かとの関係を問い、その意味を探究する。	
	芸術学１	ヨーロッパの思想の重要な根幹のひとつがキリスト教である。本講義では毎回スライドを映写しながら、キリストの生涯を受胎告知、キリストの伝道中のさまざまな言動、キリストの逮捕、磔刑、復活、昇天とさまざまな画家の作品で順を追って見てゆくが、そのさいにその背後にあるヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによって、それらの作品とその背後にある考え方のより深い理解に到達することが本講義の目的である。また可能なかぎり、質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
	芸術学２	ヨーロッパの思想の重要な根幹のひとつがキリスト教である。本講義では毎回スライドを映写しながら、使徒言行録、聖母伝、旧約聖書、諸聖人、最後の審判など、キリストの生涯をのぞくキリスト教美術のテーマをさまざまな画家の作品で見てゆくが、さのさいにその背後にあるヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによって、それらの作品とその背後にある考え方のより深い理解に到達することが本講義の目的である。また可能なかぎり、質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
	芸術学３	本講義ではヨーロッパ美術の変遷をある特定の時代に限って通覧する。具体的にあつかうものは、古代ギリシア、古代ローマ、初期キリスト教、ビザンティン、初期中世、ロマネスク、ゴシックの時代の絵画および彫刻である。それらを見るにあたって、それらの背後にある当時のヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによってそれらの作品のより深い理解に到達することが本講義の目的である。本講義では毎回スライドによって作品を映写し、可能なかぎり質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	

芸術学４	本講義ではヨーロッパ美術の変遷をある特定の時代に限って通覧する。具体的にあつかうものは、15～16世紀のイタリア、ネーデルラント、ドイツの、一般的にルネサンスおよびマニエリスムと呼ばれる時代の作品である。それらを見るにあたって、それらの背後にある当時のヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによってそれらの作品のより深い理解に到達することが本講義の目的である。本講義では毎回スライドによって作品を映写し、可能なかぎり質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
芸術学５	本講義ではヨーロッパ美術の変遷をある特定の時代に限って通覧する。具体的にあつかうものは、17～18世紀のイタリア、スペイン、ネーデルラント、フランスの一般的にバロックおよびロココと呼ばれている時代の作品である。それらを見るにあたって、それらの背後にある当時のヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによってそれらの作品のより深い理解に到達することが本講義の目的である。本講義では毎回スライドによって作品を映写し、可能なかぎり質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
芸術学６	本講義ではヨーロッパ美術の変遷をある特定の時代に限って通覧する。具体的にあつかうものは、19～20世紀のロマン主義、印象派、世紀末芸術、キュビズム、表現主義、シュールレアリスムなどである。それらを見るにあたって、それらの背後にある当時のヨーロッパ人の考え方を具体的な言葉で考えることによってそれらの作品のより深い理解に到達することが本講義の目的である。本講義では毎回スライドによって作品を映写し、可能なかぎり質疑応答を行なうことによって、学生自らに考えさせるような授業を行なう。	
芸術学７	本講義では古代から現代にかけての西洋音楽の変遷を、歴史的・宗教的・政治的背景と関連づけながら、ジャンルごとに具体的な音楽作品を通して読み解いていく。古代から現代までの西洋音楽の変遷をたどることにより、各時代における音楽の社会的役割と位置づけを理解する能力を養う。具体的にあつかうのは「楽譜の発展」、「宗教曲」、「歌曲」である。時代的には古代、中世、ルネサンス・バロック、古典派、19世紀、世紀末から現代という区分けを行なう。	
芸術学８	本講義では古代から現代にかけての西洋音楽の変遷を、歴史的・宗教的・政治的背景と関連づけながら、ジャンルごとに具体的な音楽作品を通して読み解いていく。古代から現代までの西洋音楽の変遷をたどることにより、各時代における音楽の社会的役割と位置づけを理解する能力を養う。具体的にあつかうのは「ピアノ曲」、「交響曲」、「オペラ」である。とりあげる作曲家はJ.S.バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ショパン、シューマン、ブラームス、マーラー、ストラヴィンスキーなどである。	
日本文学１	今日の小説はもとより、漫画やアニメにも見られる「物語」とは何かを考えていく。そして、「物語」を通して、古代人やわたしたちは「人間」について、どのように考えていたのかをとらえ、今も昔も変わらない「人間観」をすくいとっていく。具体的に『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』の抜粋本文を読んでいく。折々に近現代の小説や、漫画・アニメの物語性にも触れ、古代の物語が現在に生き、古代人も私たちと同じように、「人間」とは何か、「人はどう生きるのか」を考えていた様子をとらえていく。	
日本文学２	現代的で、思わず笑ってしまうような愉快な古典文学の世界を体験する。しかし、そのなかから、今も昔も変わらない「常識」と「個性」のせめぎあいや、「社会」と「個人」の葛藤などについても考えていく。具体的に『源氏物語』若紫巻の抜粋本文と、王朝の奇談とも言われる『虫めづる姫君』（いずれも注釈・現代語訳付）を読んでいく。折々に近現代の小説や、漫画・アニメの物語性にも触れ、古代の物語が現在に生き、古代人も私たちと同じように、「人はどう生きるのか」を考えていた様子をとらえていく。	
日本文学３	中世の歌舞劇である「能」の台本詞章を読み、作品を鑑賞する。また、能作品のよりどころとなった王朝や中世の物語や和歌にもふれつつ、ことば（詞章）とかたち（舞・所作）としらべ（音楽）の美として形づくられる、中世芸能の人間表現について考え学んでゆきたい。 　春学期は女を主人公（シテ）とする作品をとりあげる。伊勢物語や源氏物語をめぐる恋の曲（〈井筒〉〈葵上〉など）、さらには母子再会を主題に持つ狂女物の世界（〈隅田川〉など）をめぐって、そこに形づくられた女の愛執のすがたとしらべを、ながめ聞きとりたい。	

日本文学４	中世の歌舞劇である「能」の台本詞章を読み、作品を鑑賞する。また、能作品のよりどころとなった王朝や中世の物語や和歌にもふれつつ、ことば（詞章）とかたち（舞・所作）としらべ（音楽）の美として形づくられる、中世芸能の人間表現について考え学んでゆく。 　春学期に引き続き、女の執心を描く作品を取りあげる。伊勢物語を典拠とし、世阿弥の完成させた夢幻能様式の代表曲〈井筒〉。田楽能〈汐汲〉をもとに、古今集の和歌や源氏物語須磨巻を背景にした恋慕の曲〈松風〉などを取りあげる。 ▪	
日本文学５	文学者が「戦争」や「戦後」という《出来事》をどのように記憶し、言語化したかを丹念に読解する。アジア太平洋戦争敗戦から60年以上が経過した時間的隔たりにおいて、あるいは「戦争」がテレビの向う側の出来事でしかないような感覚的隔たりにおいて、私たちはいかにして戦争の「記憶」を享受できる（できない）のだろうか。本来言語化不可能であるはずの出来事の「記憶」をそれでも言葉にした作家の営みの痕跡・集積（記録）を読みとっていきたい。	
日本文学６	自己の作り上げた強烈で絢爛な虚構世界で戯れた谷崎潤一郎、および自らの自意識の「嘘」を糾弾しては、その泥沼の中でのたうちまわった太宰治をとりあげる。前半は谷崎潤一郎の「痴」＝「知」的な初期短篇作品を読む。後半は「真実」に翻弄されながら、「ウソ」と「ホントウ」の狭間を振幅し続けた太宰治の中期短篇作品を読む。文学作品における「虚構」と「真実」の境界が融合するような瞬間をとらえたい。	
日本文学７	古典、近現代を問わず、日本語で書かれた文学作品を取り上げ、そこに描かれた人間（個人および集団）について掘り下げて考える。またそれらの人間を生み出した作家そのものをも凝視したい。そこから得られるものは、おそらくテクストと向き合う「わたし」および「わたしたち」についての省察である。春学期は近世（18世紀）の作家上田秋成が著した「雨月物語」を精読する。いくつかの作品を取り上げ、現代を生きる者にも無縁ではない人間存在の根源的な問題を受講者に提示したい。 ▪	
日本文学８	古典、近現代を問わず、日本語で書かれた文学作品を取り上げ、そこに描かれた人間（個人および集団）について掘り下げて考える。またそれらの人間を生み出した作家そのものをも凝視したい。そこから得られるものは、おそらくテクストと向き合う「わたし」および「わたしたち」についての省察である。秋学期は芥川龍之介の初期作品を精読する。「鼻」「羅生門」などを取り上げ、二十歳前後の青年であった芥川龍之介が抱え込んでいた自意識にかかわる問題を受講者に提示したいと考えている ▪	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学１	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。「1」はテーマを「フランス語圏の文学」または「ロシア語圏の文学」とし、春学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学２	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。「2」はテーマを「ドイツ語圏の文学」とし、春学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学３	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。「3」はテーマを「スペイン語圏の文学」とし、春学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学４	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。「4」はテーマを「英語圏の文学」とし、春学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学５	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。「5」はテーマを「フランス語圏の文学」または「ロシア語圏の文学」とし、秋学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学６	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。「6」はテーマを「ドイツ語圏の文学」とし、秋学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学７	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。「7」はテーマを「スペイン語圏の文学」とし、秋学期に開講する。	

ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学８	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。「8」はテーマを「英語圏の文学」とし、春学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文学１	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。 「1」はテーマを「現代中国の文学」とし、春学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文学２	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。 「2」はテーマを「現代中国の文学」とし、秋学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文学３	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。 「3」はテーマを「中国の古典文学」とし、春学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文学４	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、社会的・時代的コンテクストなども参照しながら論じる。 「4」はテーマを「中国の古典文学」とし、秋学期に開講する。	
日本文化論５	日本近代文学における《出版》をめぐる問題について、作品ができるまで／できてから、という二つの側面から考察する。 はじめに、筆やペンを走らせて原稿用紙の升目に文字を埋め込むという身体行為の痕跡から、作家の“肉筆”が複製可能な“活字”へと変質する際に生起する様々な《葛藤》や《戯れ》を看取する。次に、昭和初年代に大流行した廉価な全集本（いわゆる円本）ブームを例に挙げ、書物が“商品”として流通する際の出版社のメディア戦略に注目することで、文学（者）が大衆化していく様相を捉える。	
日本文化論６	《文学》と《視覚性》が交錯する瞬間のインパクトに触れる。 文学作品の内容を読む前に我々が触れ、目にする統一的に配置された文字や美しい挿絵など書物を構成する【装幀】から、日本近代文学の変遷をたどる。次に、従来の言語表現を乗り越えようとしていた1920～30年代の文学者にとって《映像》という新たな表現媒体はいかなるものであったのかを探る。映像の持つ力に魅せられ、映画的手法を摂取した作家、実際に映画制作に携わった作家の言説を具体的に挙げながら考察する。	
日本文化論７	日本文化の独自性と、異なる文化に根ざす者同士の共生の可能性ついての知見を深めることを目標としつつ、そのために必要とされる研究方法論の獲得をめざして、グループによるテーマ研究を行う。授業は所定のテーマに関するグループ研究と全体ディスカッション、プレゼンテーションおよび履修者個々の論文作成を中心として行われる。いわゆる講義科目ではなく、ワークショップ的な内容となる。その過程で、授業担当者が文献調査の方法、論文作成技法、プレゼンテーションのスキル等について、適宜指導を行う。	
日本文化論８	日本文化の独自性と、異なる文化に根ざす者同士の共生の可能性についての知見を深めることを目標としつつ、そのために必要とされる研究方法論の獲得をめざして、グループによるテーマ研究を行う。授業は所定のテーマに関するグループ研究と全体ディスカッション、プレゼンテーションおよび履修者個々の論文作成を中心として行われる。いわゆる講義科目ではなく、ワークショップ的な内容となる。その過程で、授業担当者が文献調査の方法、論文作成技法、プレゼンテーションのスキル等について、適宜指導を行う。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化１	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。 「1」はテーマを「フランス語圏」あるいは「ロシア語圏」とし、春学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化２	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。 「2」はテーマを「ドイツ語圏」とし、秋学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化３	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。 「3」はテーマを「イタリア語圏」あるいは「英語圏」とし、春学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化４	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。 「4」はテーマを「スペイン語圏」とし、春学期に開講する。	

ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化５	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「5」はテーマを「フランス語圏」あるいは「ロシア語圏」とし、秋学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化６	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「6」はテーマを「ドイツ語圏」あるいは「英語圏」とし、秋学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化７	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「7」はテーマを「スペイン語圏」とし、春学期に開講する。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化８	ヨーロッパおよびヨーロッパで生まれた言語の形成する文化圏について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「8」はテーマを「イタリア語圏」とし、春学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文化１	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「1」はテーマを「中国語圏」とし、春学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文化２	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「2」はテーマを「中国語圏」とし、秋学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文化４	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「4」はテーマを「韓国･朝鮮語圏」とし、秋学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文化５	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「5」はテーマを「イスラム圏」とし、春学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文化６	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「6」はテーマを「イスラム圏」とし、秋学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文化７	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「7」はテーマを「タイ」とし、春学期に開講する。	
ｱｼﾞｱ言語圏の文化８	アジアおよびアジアで生まれた言語の形成する文化圏の文学について、地理･歴史･社会･日本とのかかわりなど多面的に論じる。「8」はテーマを「タイ」とし、秋学期に開講する。	
法学(日本国憲法を含む)１	法学の基礎知識および基本的な考え方を身につけることを目標とする。法の基本的な枠組みが、どのような構想や歴史的背景の下に成り立っているかを中心に講義を進める。法学１では主に民法と憲法（人権）を中心に、身の回りの法律問題や人権（自由権・平等権・生存権など）の問題を取りあげる。交通事故や差別・人権侵害などの具体的な事例を挙げて、「一般常識」ではどのような結論になるのか、そしてそれが法的にはどのように説明されるのかということから、社会における法の役割やそれぞれの法制度のしくみの概要について学ぶことを予定している。	
法学(日本国憲法を含む)２	法学１で学んだ法学の基礎知識・基本的な考え方を前提に、社会における法の役割やそれぞれの法制度のしくみをより深く考察することを目標とする。法学２では、民法の基礎（財産法と家族法の概要）に加えて、憲法（統治）、刑法の基礎（犯罪と刑罰のとの関係）など基本三法を中心に講義を行いながら、特に、憲法・民法・刑法の各法分野において基本的な裁判例を多数紹介するとともに、その中でも重要な位置付けを与えられているものを幾つか選定して、裁判所の法適用および問題解決のための法理論の当否および学説の反応など、より掘り下げた検討を適宜行う予定である。	
政治学１	本講義では、政治・政治学についての基礎的な概念を理解するとともに、市民はどのようにして政治に関わっているのかを検討する。本講義の目標は、政治についての基礎的な理解を得るのに加えて、今後様々に政治との関わりのある生活をする受講者が政治についての多様な視点を獲得することを目標とする。具体的には国会、内閣、官僚、政党制、選挙制度等の仕組み、世論、政治意識等の項目を取り上げて概説する。また講義では、政治に関する問いを設定し、問いについての情報や視点を紹介しつつ、教員と学生がともに答え・対応策を探すことも行う。	

政治学２	本講義では、市民が政治に参加する手段といして、最も身近な選挙・投票を中心に取り上げるとともに、政治に関するトピックも取り上げて検討する。本講義の目標は、政治参加を通して、市民はいかに政治に関わる存在であるかについて理解を深めることにある。また政治に関わるトピックとして、たとえば、なぜ政府は必要か、政府は何をすべきか、直接民主主義は議会制民主主義よりもよいのか、自衛隊は廃止か存続すべきか、日本が鯨を取ることになぜ反対する国や人がいるのか等があげられる。	
社会学１	社会理論に関する入門的講義科目である。社会学の古典に関する基礎知識を得ること、および、それらを参考に自ら社会学的な思考を組み立てることを目標とする。社会学の古典的な理論について、問いの立て方、対象の設定、考察に関するデータの収集、分析の方法などを比較しながら考察する。それを通して、社会学の成り立ちや学問としての特徴を学ぶと同時に、現代社会において我々が問題に直面した時、どのように考えていくか、社会理論の出発点を探る。	
社会学２	社会理論に関する入門的講義科目である。近代から現代にかけて、社会学理論の展開を学びつつ、学説や分析の発展について理解することを目標とする。他分野と同様、社会学においても学説史や論争の上に理論を展開させてきた経緯がある。具体的な理論、社会政策、社会問題などを取り上げながら、論争や分析の過程、現実社会と理論的一般化の関係、「社会について考える人々」についてさらに考えることの意味や方法などを考究し、社会学的思考の力を高めていく。	
社会学３	社会学の基本的な論点の一つである集団や相互行為についての基礎的な知識を学習し、その上で実際の現象を社会学的に考察する講義科目である。具体的な集団やネットワークもしくは行動などについて、社会的な視点から分析する力をつけることを目標とする。日常的な場面、やり取り、人間関係などを題材に、そこに込められた意味や機能などを読み解いていく。なお、授業内容の関係で、ジェンダー論、差別論などの具体的な社会問題にも言及する。	
社会学４	社会集団やネットワークあるいはコミュニティなどについて、現在の諸問題を参考に考察する講義科目である。現代社会において、組織、ネットワーク、コミュニティなどが持つ意味について理解するとともに、将来に向けてどのようなコミュニティなどが求められるのか、自ら考察できるようになることを目標とする。関連する学術用語を確認しつつ、理論的な歴史を概観しつつ、具体的なコミュニティやネットワークなどに関する多様な視点を確認し、実践において何が求められてきたのかを考察する。	
社会学５	グローバルな社会から、身近な範囲まで、広く「地域」に焦点をあてた社会学的考察に関する講義科目である。現代社会の中で「われわれ」の地域がどのように形成されるか、また、その中で辺境や境界がどのように生まれ、どのような意味を持たされていくか、などについて理解を広げることを目標とする。他の社会について学ぶことは自己の見直しにつながるが、現代社会という観点から、近代化、発展、合理性などの概念を再考しつつ、地域や差異についての理解を深める。	
社会学６	地域や民族などの観点から、現代社会における「自他」の関係について考察することを目標とする講義科目である。近代化の過程で「未開」がつくられていくように、「他」の社会に関する考察は、厳しい自己相対化の作業を迫るし、言語や基本的な概念についても再確認を求めることになる。それについて、具体的な事例あるいは理論的考察を重ねることで、継続的に「われわれ」の社会について自省し、新たな問いの創造につなげるための発見と練習とをめざす。	
社会学７	文化、メディア、コミュニケーションについて、その成り立ちと意味を考察する講義科目である。私たち人間は、さまざまな人間関係の中で成長してきた。その中でどのように他者とかかわってきたのかを学び、それについて社会学的に考察し、新たな実践につなげることを目標とする。家族、学校、宗教、文化等、広範な社会の中から具体的なコミュニケーションの場面を選び、それについて複合的に考察する方法を学ぶ。メディア分析、統計データ利用などの方法にもかかわる。	

社会学８	文化・メディア・表象に関する社会学の講義科目である。他者との関係やコミュニケーションのあり方の多様性について、具体的な事例を通して学ぶとともに、それについて能動的に考察、議論できる力を身につけることを目標とする。たとえば、家族というものについて、私たちはかなり共通のイメージを持ちえるが、実際には多様な家族のかたちがありえる。それらについて、各種メディア、社会学の古典的理論など広範な論拠によりつつ考察し、また、議論などを通して、人間関係一般にもかかわるような社会学的視点を習得していく。	
社会福祉学１	この授業では，社会福祉を考える時に必要な基本的な視点を提供していきます．こうした視点を身につければ社会福祉の全体像が次第に見えてくるはずです．授業では，社会福祉の存在理由、歴史、対象、基本構造等を学んでいきます．社会福祉とは，私たちの生活のあらゆる場面に関係する事柄を対象としており，扱う内容はきわめて多岐にわたります．社会福祉に対するみなさんのイメージからスタートして，様々な視点から社会福祉を見ていくことで，その全体像を把握することを目指します．	
社会福祉学２	社会福祉にはその対象とされる数多くの「問題」が存在します．授業では，昨今注目を集めている論点を毎回一つずつ取り上げます。この授業では「社会福祉学１」で学んだ「社会福祉を考える際の視点」を使い，現在直面している「問題」について考えていきます．こうした「問題」は，それぞれの人のおかれている立場や考え方によって，捉え方が全く違ってきます．多数の「選択肢」を考えられるようになることで，社会福祉をより深く，より批判的に捉えられるようになることを目指します．	
経済学１	春学期の経済学１では、いわゆるミクロ経済学の基礎について、消費者の需要行動および市場における交換の理論を中心に学ぶ。高校1年次で学習する程度の数式をもちいるため、初めは少し抽象的で難しく感じられるかもしれないが、これらの題材の中に現代の経済学の基本的な考え方が集約されているといっても過言ではない。厳選した少量の内容を丁寧に進めていくので、頑張って着いてきてもらいたい。	
経済学２	他方、秋学期の経済学２では、いわゆるマクロ経済学の基礎について、GDPの概念とその決定のメカニズムを中心に学ぶ。こちらの方は、現実の経済問題に直結する題材である。講義では、高校1年生で習う程度のグラフと数式を用いるが、春学期よりも数学的負担は少ないので、恐れる必要はない。それよりも、毎日のニュース及び新聞などで報じられている経済問題に日ごろから関心をもってもらいたい。講義でも時事的な話題に頻繁に触れる予定である。	
統計学１	「統計学の基礎」をテーマとし、統計学２とあわせて標準的な入門コースを講義する。統計学１では、主として記述的方法を説明する。目標とする内容は以下の通り。１．度数分布、分布のグラフ化、基本統計量、２.データの標準化、平均寿命、ジニ係数など基本統計量に関連する諸概念、３．分割表とその分析とくに分割表の独立性の検定、４.散布図、２次元分布、条件付分布などの数量変数間の関係に関わる諸概念、５.相関係数とその意味、６.単回帰モデルと最小２乗法。	
統計学２	「統計学の基礎」をテーマとし、「推測」に関わる内容を中心に講義する。講義内容は以下の通り。確率の基礎概念、条件付確率とベイズの規則、確率変数、確率分布、期待値、分散、２項分布、大数法則、中心極限定理、正規分布、標本抽出、点推定、区間推定、仮説検定、比率・平均の推定・検定、比率・平均の差の検定、適合度検定。なお、統計学１、２をあわせて標準入門コースを構成するが、両者の内容はある程度独立しており、どちらか一方だけ履修することもできる。	
統計学３	「データの基礎」をテーマとし、統計学４とあわせて履修することを薦めている。講義はすべて実習で、「R」を用いて、実際のデータ解析を行いながら、統計学の基礎知識およびコンピュータによるデータ解析の技術を習得させることを目標する。統計学の内容は、統計学１のそれに準拠し、これに加えてできるだけ現実的な例題を扱わせるため、重回帰モデルの解析なども学ばせる。	
統計学４	「データの基礎」をテーマとし、講義はすべて実習で、実際のデータ解析を行いながら、統計学の基礎知識およびコンピュータによるデータ解析の技術を習得させることを目標する。統計学の内容は、統計学２のそれに準拠するが、主としてモンテカルロ法による実験を通して、統計データに基づく推測の方法および考え方を学習させる。統計学３（春学期）を履修するなど、「R」の操作を習得していることを前提にする。	

	歴史学１	歴史を学ぶということは、年号を暗記したり、人名・地名を記憶したりすることではない。歴史を学ぶということは、どう生きるのかという問題に向き合うことである。生きてゆくために我々は様々な決断を迫られるが、どの立場、どういった視点に立つかによって、自分自身や他者、周りの出来事の見え方は大きく変わってくる。歴史学とは、そうした我々の足元を見つめ直すきっかけを与えてくれる学問のはずである。歴史・歴史観の反映である様々な立場・視点の存在を知り、自身の「生き方」を考える一助としたい。	
	歴史学２	歴史学は「自己認識の学だ」とも言われる。自己認識の学である以上、人は古代史や中世史、あるいは外国史を学ぶ場合でさえ、自身が生きている「現代史」という時代に対して全く無関心でいることは、事実上できないはずである。本講義において、「歴史学と現代社会」の関係を問うことの理由も、正にこの点に存するのである。自身が生きている現代という時代の構造を考えてみたいと思う。	
	歴史学３	19世紀中盤から第二次世界大戦までの近代東アジア世界について、日本と中国・朝鮮の関係史を中心に概説する。国家レベルの政治史・外交史と同時に、それ以前とは比べ物にならないほどに増大した東アジアにおける「人の移動」に注目し、近代東アジアと日本の関係史を多角的に考察する。　歴史的観点から東アジアと日本の関係を捉えること、また、国家レベルのみならず「地域」や「民衆」の視点から歴史を把握する視点を養うことを目標とする。	
	歴史学４	第二次世界大戦後の東アジアと日本の関係史を概説する。特に第二次世界大戦の戦後処理、東アジアにおける「冷戦」の成立に焦点を当てて、東アジアの「現代」とは何かを考察する。 歴史的観点から東アジアと日本の関係を捉えること、また、国家レベルのみならず「地域」や「民衆」の視点から歴史を把握する視点を養うことを目標とする。	
	歴史学５	最初に日本と西洋の科学思想史全般について話したあと、共同して一書を読み進めていくことを通じて、世界史的にみた日本史の流れを解説する。 歴史哲学の手法を通して、日本文化の特質をつかむことも目指す。	
	歴史学６	最初に歴史の意義や歴史家の存在全般について話したあと、共同で一書を読み進めて、江戸時代の制度、文化、生活を理解していく。 江戸時代の日本人の生き方をみていくことを通じて、日本の伝統的な「粋（いき）」などと呼ばれる生き方の良さを再発見する。	
	地理学１	地理学は，人と具体的な土地との関わりや，そこにおいて生起する諸問題について，様々なスケールと多角的な視点から研究する学問である．本講義は，おもに近代都市の形成に焦点をあて，地理学の視点を学修する．日本並びに欧米における主要な都市を取り上げ，都市の形成史，近代化，都市が抱える経済・社会的問題，人と物の流れ，都市の建造環境など，都市を取り巻く物理的・社会的環境について考察を加える．内容に即した映像を交えながら講義を行う．	
	地理学２	人文地理学が問題とする社会的に形成される空間を，特に福祉の観点から考察を加える．このことは，社会的に形成される空間とは何か，その空間にどのような福祉の問題が存在しているのかを考えることでもある．具体的な事例として，刑務所や団地，寄せ場などの特定の施設や地域，都市を取り上げ，それらの沿革や取り巻く社会状況，生起する諸問題を空間の形成過程において検討し，福祉の問題を考察していく．毎回，内容に即した映像を交えて講義を行う．	
	地理学３	世界システムとは世界経済を多元的国家システムとしてとらえる見方である。その世界システムがいかに形成されてきたのかについて理解した上で、世界がいかに結び付きあって相互に関係しあっているのか、その結果どのような状況が現在あるのか、具体的な事例を通して検討していく。すなわち、世界の諸地域が、今日世界システムにおいてどのように位置づけられ、世界全体で進められてきた近代化の過程をいかに経験してきたのかを、主に植民地時代から現代にかけて歴史的に検討する。	
	地理学４	都市とは何か、その成立過程から経済構造、社会構造を学んでから、個別具体的な事例から都市の具体的なすがたやその機能を検討する。具体例として、ヨーロッパ、アメリカなどの先進工業国の摩天楼がそびえる都市に加えて、近年では発展が目覚しいアジア等の旧植民地や中近東における巨大都市。日本の都市も取り上げる。これらの都市に着目して、都市に求められてきた機能や役割の変化から、世界がいかに再編されてきたのか、グローバル化がいかに展開してきたのか、考えていきたい。	

地理学５	日本の風土に根ざした伝統的な宗教文化を、講義での知識とレポートの作成を通じて理解することを目的とする。まず、日本の宗教文化を生み出した日本の自然環境や歴史・文化的環境を概観する。次に、実際に日本の風土でどのような宗教文化が展開し、変容し、継承されてきたのかについて検討する。具体的事例として、宗教行事や暦、祭り、聖地への旅、現代における伝統的宗教活動などを取りあげ、それが今日に至るまでいかに継承されてきたのかについて考えていきたい。	
地理学６	都市やグローバリゼーションに関する様々な研究アプローチを取り上げながら、先進地域と発展途上地域双方における都市空間が、資本主義社会の歴史的諸局面においてどのように捉えられてきたのかを考察する。まず、近代における都市の発達を概観してから、ジェントリフィケーション、労働移動、労働力の女性化、都市貧困、国際移民などの都市に関連する諸現象を取り上げ、これらを捉える地理学的視角をグローバルな歴史的経済過程と関連づけながら学んでいく。授業の中では、主に日本とフィリピンの事例を取り上げる予定である。	
文化人類学１	「文化人類学」は、地球上のさまざまな「民族」や「文化」の比較を通じて、「人間」を総合的に理解しようとする学問である。本講義では、文化人類学の基礎的な考え方を、世界各地のさまざまな習慣やライフスタイルを具体的に取りあげながら学習し、「国際社会の一員にふさわしい」教養と素養の習得を目指す。春学期は、文化人類学の基礎的な用語や理論を学ぶ。講義の前半では、文化人類学のキーワードである「文化」についての基本的な考え方を紹介する。講義の後半では、家族・贈与・結婚・祭りなどの身近な題材をとりあげて、「社会」（特に「人と人とをつなぐ」装置）についての基本理論を学習する。	
文化人類学２	「文化人類学」は、地球上のさまざまな「民族」や「文化」の比較を通じて、「人間」を総合的に理解しようとする学問である。本講義では、文化人類学の基礎的な考え方を、世界各地のさまざまな習慣やライフスタイルを具体的に取りあげながら学習し、「国際社会の一員にふさわしい」教養と素養の習得を目指す。秋学期は、「未開社会」「伝統社会」の研究として発展してきた文化人類学が、近年、「文明社会」「近代社会」の問題にどのように取り組んでいるのかを学ぶ。講義では、文明の衝突、宗教、貧困、開発、医療、癒しなどの問題を、具体的な事例を通じて紹介し、それらに対する文化人類学的なアプローチを学ぶ。	
社会科学概論１	古代ギリシャ社会における社会思想の展開を紀元前五世紀の初め頃から次の世紀の初頭のソクラテスの死に至るまでの期間に重点を置いて扱う。理解のためには歴史的背景に関する知識が重要なので、まずそれから始め、さらにギリシャ人の基本的倫理観について知ってもらうためにギリシャ悲劇のような文芸作品にも触れ、最終的にソフィストたちとソクラテスの社会思想を対比させながら話を進める。この時間では古代ギリシャ社会において出現した、様々な社会思想ないし倫理学がどのような歴史的・社会的背景の下に生まれ、そしてそこで生じた様々な社会哲学的理論が後世（特に近代社会）にどのような影響を与えているのかを講じていきたい。	
社会科学概論２	実際のところ、プラトンの生涯は現実政治に翻弄され続けたものだった。理想主義の代名詞のように評されることの多い彼の思想も、実はこういった現実との格闘なしには生まれ得なかったのであり、彼がひたすら正義を求めてやまなかったのもこのことと無関係ではない。講義ではこういった歴史的・社会的背景をも明らかにしつつプラトンの社会思想を語っていきたい。西洋の古典古代世界（古代ギリシャ・ローマ世界）を代表する哲学者の一人であるプラトンの思想・哲学は、現在に至るまでプラトニズムと呼ばれる形で、道徳、法律、宗教、科学的思考といった様々な方面に強い影響を与えているが、この時間では特に彼の社会哲学及び道徳哲学的側面に注目し、人が正しく生きるべき理由とそのために必要な社会のあり方に関する彼の思想を学んでいく。	
社会科学概論３	ホッブズ、ロック、ルソーといった名前は高校の社会科の教科書でもなじみかと思われるが、この時間では彼らがどのような歴史的状況の中で、どのようなやり方で独自の思想を形成していったかを「社会契約説の発生と衰退」という思想史的視点から具体的に説明していこうと考える。西洋近代、特に十七世紀から十八世紀において一世を風靡したのみならず、現代においても人々の社会的共生を考える際には政治思想としてなお重大な意味を持つ「社会契約説」の概念を知るため、その発生から衰退までの期間における主要な論者たちの思想を比較しつつ学んでゆきたい。	

社会科学概論４	一般に正反対の立場とみなされるカント哲学と功利主義には意外と共通する側面がある。この時間では両者の違いだけではなく、この共通する面にも目を向けながら話をしていきたい。なお講義の最後の方で、テロリズムに対してこれらの二種類の哲学はどう対処しうるのかを解説することで、両者の相違点と共通点に対する理解を深めたいと考えている。ヨーロッパ近代における重要な道徳及び社会思想の源泉であり、現代においても英米の道徳哲学では主流思想の一つである功利主義の思想を、それとしばしば対比される形で述べられるカントの道徳哲学と比較しながら学んでもらいたいと思っている。	
数学１	『数学１』は、高校時代に数学をあまり履修してこなかった学生や、今後数学をあまり使わない分野に進む学生を対象として、数学を理解してもらう講義である。整数論から題材を採ったり、身近な現象から確率の考え方の初歩を教えたりしている。年度や担当教員によって、内容が多少変わりうる科目である。 現在では、日常に潜む数理を題材に、数学の論理・論法の初歩を学ぶことを目指している。 数学と親しみ、数学を楽しむことに重点を置き、より広い視点で見た数学の全体像や数学的な考え方を学ぶ。	
数学２	初等整数論を通して数学的思考法を学ぶ。各回にテーマを設け、これに沿う問題を示しながら数学的思考力を身につける。『数学１』の続編であるが、身近な生活に溢れている数学的事象をとりあげ、数学の楽しさ、面白さを伝えることを目的とする点では、『数学１』と同じ。 この講義では、整数の諸性質を中心に素数の性質、合同式など、一番単純で平易な「整除の理論」を中心とし、それに日常生活への応用を付けながら、数学的思考について学ぶ。	
数学３	（線型代数学　Ⅰ） 現代の数学にとって必要不可欠な素養である「線型代数学」の初歩を講義する。 行列の理論とは、数を使って組み立ててきた数学を「行列」と呼ばれる新しい対象に対して組み立ててみようとする理論である。前期に当たる『数学３』では、行列の四則計算を主に学ぶ。目標は、行列の四則演算（特に掛算と割算）が自由にできるようになることである。また行列には、行列式と呼ばれる量があって、これが色々な場面で重要な働きをする。この意味や計算方法を覚えるのも重要な内容である。	
数学４	（線型代数学　Ⅱ） 『数学３』で学習した行列の基本的な計算方法――四則演算・行列式の計算など――の応用として、連立一次方程式の一般的解法を学習する。連立方程式は、歴史的には行列の理論を生み出す母体になった問題である。このため、行列の理論の応用としては、最も適切な応用例になっている。 連立一次方程式を理論的に考えていくためには、ベクトルの一次独立・一次従属といった新しい考え方が必要になる。また、行列の性格を知る上で重要な行列の階数（ランク）などもここで講義する。	
数学５	（微分積分学　Ⅰ） 現代の数学にとって必要不可欠な素養である、微分積分学の基礎を講義する。この講義では微分の方に重点を置き、積分は″微分の逆演算″として考え、あまり詳しくは取り扱わない。微分は接線を引くために工夫された計算方法で、前期はこうした歴史的発展に合わせて講義を進める。 重要な特殊関数――三角関数・指数関数・対数関数――といったものや、これらを合成して得られる特殊関数の微分が自由にできるようになることが目標である。	
数学６	（微分積分学　Ⅱ） 『数学５』で学んだ「特殊関数の微分」を材料として、微分法を理論的に使って関数の性質を知る方法について講義する。 この講義は内容を大きく二つにわけ、前半は「関数のTaylor展開」を中心に進める。後半は「複素関数をどのように理解するか」をテーマとする。Taylor展開は歴史的に見ても重要な理論で、これによって人間の″関数というものの見方″が大きく変わったのである。その代表的な例が、指数関数と三角関数を結びつけた Eulerの定理で、これが理解できればこの講義の目的は達せられたといえるだろう。	

	数学７	（初等整数論　Ⅰ） この講義では、数学の発展に大きく寄与してきた『初等整数論』について解説する。初等整数論は古代の人々の数に対する興味から生まれたが、その簡明さ、面白さは現在に至っても全く失われていない。それを理解していくことによって、数学的な思考を身につけることが、この講義の目標である。 『数学７』では、『整除の理論』について講義する。これについては、昔から美しい理論の作れることが知られていたが、最近では「現代暗号」などに急に応用が拡がり、注目を集める分野になっている。	
	数学８	（初等整数論　Ⅱ） 『数学７』の続編である。『数学７』では有理数までしか扱わなかったが、『数学８』では古代ギリシャに発見された無理数について、さらに近代になって発見された超越数がについて、歴史に沿う形で講義していく。実用的に見る限りでは、無理数と有理数はほとんど違いがないといってもよい。これを理論的に区別して考えていくところが数学的で、『数学８』は『数学７』より理論的である。	
	物理学１	身近な日常生活に表れる様々な自然現象を例にとりながら、物理の基礎知識について講義します。屈折、反射、回折、干渉といった波の性質が、日常生活のどのような側面に現れているか考えます。また、光と色の関係、目に見えない光について学びます。固体、液体、気体といった物質の相、熱と温度の概念について勉強します。日常生活で使われている機械、道具などに、物理の基礎知識がどのように応用されているか、技術と科学の関係についてもお話する予定です。	
	物理学２	我々は物理法則と地球からの観測、観察をどのように組み合わせて,星や宇宙について統一的な理論を構築してきたのかという点を中心に講義します。 星の性質、星の分類といった静的なところからはじめて、星の一生という星の動的な側面を勉強します。銀河、銀河集団といった宇宙の大規模構造と宇宙原理の関係、膨張宇宙と放射背景の発見、素粒子論とビッグバン理論を勉強し、ミクロな世界とマクロな世界が密接に関係していることを学びます。	
	物理学３	距離や時間は誰から見ても同じ絶対的なものではなく、見る人の動いている速さによる相対的なものです。たとえば、一万光年の星は光の速さで一万年の距離にあるということだが、これはあくまでも地球から見てということで、その星に向かって光速度cに近い速さで進んでいるロケットから見ると短くなります。短くなって一光年ということになると、一年ちょっとで行けてしまうのですが、この一年ちょっとというのはロケット内の時計で計った時間であり、地球の時間は一万年以上過ぎているわけです。こうして時間も相対的なのだ。	
	物理学４	光は波としても振舞う(電磁波)が、粒子(光子)としても振舞う。電子も粒子としても波としても振舞う。このことは量子力学での状態の遷移によって説明される。量子力学は直接的には原子・分子・原子核・素粒子といった超小さいものの世界の出来事を扱うものであるが、大きな物も小さなものが集まっているもので、その振る舞いは量子力学で説明される。原子のまわりをまわっている電子の波の状態から周期表にあるいろいろな元素の性質も説明できる。	
	物理学５	この講義では、身の回りにある物や自然現象がどのように物理学と深く関わっているのかについて学習します。例えば、楽器の音色がどのようにして生じるのか、カミナリはどうやって発生するのか、夕焼けはなぜ赤いか、液晶テレビはどうやって映像を表示しているか、などなじみの深い物事・疑問を科学的な視点からもう一度考えていきます。また、物理学史としての先人の偉業を学ぶ事で、科学的な思考方法を理解し、現代社会を生きるために必要不可欠な科学的知識と素養を身につけます。	
	物理学６	我々が日常とても体験できないような世界の事が、科学技術の発展と実験や観測の工夫によって徐々に明らかになってきました。この講義ではミクロの世界や宇宙の事に関して現代の物理学でどこまでわかってきたのか、どのような事がまだわからないのかについて学習します。また、普段は気にする事も無いミクロの世界の現象から、広大な宇宙全体の成り立ちについて考えをめぐらせるによって、論理的思考によって裏付けられた科学的な世界観を理解し、大学生としてふさわしい教養を身につけます。	

化学１	テーマは「化学の基礎」。化学は「物質の科学」であり、物質が原子を最小構成要素として、その組み合わせにより成立しているという、化学的な物質観を学習する。本科目では、まず原子の個性（元素の違い）を知り、化学結合の原動力として働く電子の役割について理解する。基礎的な事柄として、「物質の構造」のほか、「物質の状態（物質の三態）」や「物質の反応」などを主なテーマとして展開していく。私たちは衣食住のあらゆる場面において、化学（物質）と深く関わりあいながら生活しており、学生がそのことに気づき、また理解することによって、より化学（物質）に対する興味関心を高めることを本科目の目標とする。	
化学２	テーマは「生活の化学」。本科目では、生活に関連する様々な物質を正しく理解するために必要となる基礎をまず学習し、その後、身のまわりにある具体的な物質を取り上げて解説していく。我々はお腹がすいたら食事をし、また、病気になったら薬を飲んだりするが、食物も薬物もすべて「物質」であり、私たちは日々様々な物質に囲まれ、助けられながら生活している。学生がそのことに気づき、そして日常生活に用いられている物質が化学的にどのような構成をとっているのかを知ることにより、結果として、いのちと暮らしを守るために役立てられるようになることを本科目の目標とする。	
化学３	テーマは「環境の化学」。本科目では、まず地球環境を、気体である大気、液体である水、固体である土壌に分け、それぞれの化学的側面を学習する。次いで、人間により環境中に放出されて人間生活を脅かす存在になってしまった、二酸化炭素・フロン・塩素系農薬などの炭素化合物、水銀・カドミウム・放射性元素などの重金属類の特性と有害性について触れていく。私達を取り巻く環境に存在する、種々の天然物質と人間の営みにより生み出される人工物質とを理解し、地球環境の変化を正しく理解する力を身に付けることを目標とする。	
化学４	テーマは「生命の化学」。本科目では、生命体の基本構成物質である種々の炭素化合物（有機化合物）について学習する。はじめに、有機および高分子化学の基礎を学び、次いで、生命体の具体的な構成成分である糖質・蛋白質・脂質について理解し、その後、遺伝子の構造と機能や、生体内の物質の流れ（代謝）と生体機能維持物質（ホルモンとビタミン）について学習する。私達人間を含めあらゆる生物を構成している基本的な物質について、その化学的構造と機能を理解することを目標とする。	
生物学１	「ヒトを含めた動物への科学的理解を深めること」が本科目のテーマです。特に、多様な種がもつ行動や生態、社会の進化的意味を探ります。生物学の基礎となる「進化と遺伝」について解説した後、動物行動学（ethology）や行動生態学（behavioural ecology）の考え方を学びます。さまざまな種の具体的な映像やデータを示すことにより自然への関心を高め、認識を深めます。授業全体を通して、データの読み方や解釈の仕方についても重点をおき、自分で考える習慣を身につけます。	
生物学２	テーマは「進化」。46億年もの長い時間をかけて、現在さまざまな生物が共存する地球。声なきものの命にも目をやり、気持ちを寄せ、現在に至る生物の歴史を学んでいきます。本科目では、実物や画像などの教材をたくさん用い、普段見ることのない生物についても知識を増やしていきます。新聞記事等の身近な話題にも目をやります。各生物の特徴をとらえながら、その起源や要因について考え、どのような歴史を経て現在に至ったのかについて、ワークシートを活用することにより理解を深めます。	
生物学３	「ヒトを含めた動物への科学的理解を深めること」が本科目のテーマです。特に、多様な種がもつ行動や生態、社会の進化的意味を探ります。行動生態学の考えにもとづき、雄と雌の関係、親と子の関係、仲間や敵との関係等について論じます。また、利己的遺伝子という観点から個体の死や他種の操作といった現象についても考えます。さまざまな種の具体的な映像やデータを示すことにより自然への関心を高め、認識を深めます。授業全体を通して、データの読み方や解釈の仕方についても重点をおき、自分で考える習慣を身につけます。	
生物学４	テーマは「ゲノムサイエンス」。あなた自身を形作る生命の設計図「ゲノム」。今、生命を扱う技術は「ゲノム」レベルで行われています。本科目では「ゲノム」を通して命をとらえる視点を養い、ゲノムサイエンスを応用した技術についても思考を深めていきます。実物や画像などの教材をたくさん用いた基礎知識の解説に加え、科学雑誌や新聞記事等から厳選した身近な話題を取り上げ、ワークシートを活用することにより効果的に知識を身につけていきます。	

生物学５	テーマは「染色体を理解する」。遺伝現象の真の理解のために、「染色体」をキーワードに、親から子への染色体を介しての遺伝子の伝達機構について、基礎的な染色体の構造や体細胞分裂、減数分裂時の遺伝子の分配機構を理解することにより、有性生殖による子孫がすべて「世界に一つだけの花」になることを学びます。さらに、身近な問題として「染色体異常」を取り上げ、減数分裂時のわずかな失敗（事故）がダウン症（候群）などの染色体異常を引き起こす要因を解説します。	
生物学６	テーマは「ヒトの体」です。知っているようで知らない自分の体。身近な現象から体のしくみについて学びます。生物学の基本的な知識を習得し、興味と理解を深めることが本科目の目的です。近年の医療やバイオテクノロジーの進歩は私たちに大きな影響を与えています。生命のしくみを理解することは今や社会生活において欠かすことができません。身の回りの生命現象に興味を抱き、科学的な思考を身につけていきます。	
生物学７	種を維持し、生命を連続させるしくみはすべての生物にみられる特徴です。連続する生命の中で多様性が生じ、複雑な生物の世界が作られていきます。本科目では、「生物の進化と多様性」をテーマに遺伝や進化のしくみを学びます。生物学の基本的な知識を習得し、興味と理解を深めることが本科目の目的です。近年、生命科学の技術が急速に進歩し、社会に及ぼす影響が大きくなっています。また、生命と環境の関わりも大いに議論されています。生物学の発展を正しく理解するとともに、生命のあり方を考えていきます。	
生命科学１	テーマは「生化学から見た生命現象」。まず、生物において共通にみられる細胞の主要構成成分である水、タンパク質、核酸、糖類、脂質についての知識を身につけた上で、細胞内で見られる物質代謝やエネルギー代謝を食物とあわせて解説する。これにより生命科学の研究方法や考え方を説明したい。	
生命科学２	この講義は、生体に多く見られる生理現象の内、中心的な役割を果たしている血液の作用機序・生命の誕生に関わる周辺の現象を基礎から応用まで紹介・個体の形質を特徴づける遺伝子およびその遺伝子の次世代への伝達方法等の基本を紹介する。また、生命観・倫理観を念頭に置き、免疫反応（STD・HIV、臓器移植）、生殖補助技術（不妊・クローン・ES細胞・ｉＰＳ細胞）、遺伝子組換え（食品・医療・改良開発）など先端技術（バイオテクノロジー）がもたらすものの影響について学生と共に考えていく。	
情報科学１	コンピュータを用いた情報処理の概論について講義を行う。情報処理とは、人間の知的活動そのものであるが、現代の情報量をうまくまとめて必要な時に取り出して利用するにはコンピュータの使用が不可欠である。コンピュータを用いた情報処理の方法と手段を簡単な例を用いながら学ぶ。コンピュータを用いた情報処理の仕組みをデータの構造、ハードウェアの仕組み、ソフトウェアの仕組みから説明する。コンピュータの使用形態であるインターネットについてはその仕組み、利点、欠点を取り上げて講義を行う。	
情報科学２	コンピュータは、ハードウェアとソフトウェアからなる。コンピュータを情報処理の道具として、効率良く使用するためには、ソフトウェアの理解が必要である。ソフトウェアの理解を深めるために、プログラミングの基礎について講義を行う。コンピュータを用いた情報処理の方法と手段を簡単な例を用いながら学ぶ。プログラムの基本的仕組みは、（１）データを出力する、（２）データを加工する、（３）データを入力する、（４）場合分けの処理、（５）繰り返しの処理の５つである。その５つについて、実際のプログラムを作成しながら説明する。	
情報科学３	情報科学の主要な知識全般を春学期の『情報科学３』および秋学期の『情報科学４』を通じて一通り学習する。このうち春学期は、コンピュータに関する基礎知識と企業におけるエンドユーザコンピューティングに関する分野に焦点を当てて講義を行う。『ＩＴパスポート試験』とは、企業などの一般業務部門で情報化推進を担える人材の資格試験である。本講義では、ＩＴパスポート試験での将来的な合格を１つの目標としながら、情報化社会で生きるために必要な基礎知識をしっかりと学習していく。	
情報科学４	情報科学の主要な知識全般を春学期の『情報科学３』および秋学期の『情報科学４』を通じて一通り学習する。このうち秋学期は、インターネットに関する分野に焦点を当てて講義を行う。インターネットは世界規模の情報化を急激に発展させてきた。現在の日本は、従来のインターネットから超高速通信技術を中心とした次世代インターネットへの移行期にある。本講義では、ＩＴパスポート試験での将来的な合格を目指した学習を行うと共に、次世代インターネットの技術と、それがもたらす近未来の情報化社会の姿について学習していく。	

健康科学１	本科目は、現代の青年期における健康問題、特に薬物、飲酒、喫煙、感染症に関して、健康との関わりと予防対策について、保健学的観点から講義を行い、個人および学校生活における青年期の健康づくりについて考察することを目的とする。授業計画は、保健学概論２回、薬物と健康３回、飲酒とからだ３回、喫煙問題３回、感染症と予防３回、青年期の健康総括１回を実施。評価は、出席50%、レポート（各内容の小レポート、ファイナルレポート）50%より行う。教材は、内容に応じて資料配布。	
健康科学２	本科目は、現代社会の成人における健康問題、特に生活習慣病、メタボリックシンドローム、ストレス、労働等を取り上げ、成人期以降の健康づくりについて、保健衛生学的観点から講義を行い、個人や社会における健康づくりについて考察することを目的とする。授業計画は、健康と疾病２回、生活習慣病２回、メタボリックシンドローム２回、ストレス問題２回、労働問題３回、生活環境と健康２回、高齢化問題２回実施。評価は出席50%、レポート（各内容の小レポート、ファイナルレポート）50%より行う。教材は、内容に応じて資料配布。	
ｽﾎﾟｰﾂ科学１	本授業は、現代の健康問題とからだの変化、特に呼吸循環機能や身体組成などについて運動生理学的観点から基礎理論を展開し、からだの機能と運動の関係について理解を深め、学生生活や社会生活において健康維持増進ができる方法について講義を行う。授業計画は、健康と体力２回、呼吸循環機能、骨、身体組成と運動６回、ウエイトコントロール２回、ストレス解消法2回、スポーツ障害予防2回、暑熱障害と運動1回実施。評価は出席50%、レポート（小レポート、ファイナルレポート）50%より行う。教材は教科書を使用。	
ｽﾎﾟｰﾂ科学２	本授業は、健康の維持増進やプロポーションづくり、生活活動における基礎体力の向上等を目的とし、個人が運動、スポーツを行う際の運動計画や実践が安全に効果的に行える基礎能力を身につけるための運動処方の基礎について運動生理学的観点から講義を行う。授業計画は、運動処方（健康管理、形態、体力測定方法）３回、有酸素運動の処方３回、レジスタンス運動処方3回、疲労回復と運動2回、ストレッチングと健康2回、食事と運動2回、評価は出席50%、レポート（小レポート、ファイナルレポート）50%より行う。教材は、教科書を使用	
ｽﾎﾟｰﾂ方法学１	本科目は、青年期における体力づくりをテーマに、各種運動処方論の講義と個人のからだを理解し行動的で健康的な学生生活が送れる体力づくりに関する実践を併用した授業を行う。授業計画は、形態と体力測定論と実施方法2回、体力測定と分析方法2回、柔軟性の運動処方論と実践2回、筋力と筋持久力の運動処方論と実践2回、全身持久性の運動処方論と実践3回、コンディショニング論と実践2回、ウォーキングの効果と実践2回を実施。評価は、出席50%、レポート（各項目の小レポートとファイナルレポート）50%。教材はテキスト使用。	講義　10時間 実技　20時間
ｽﾎﾟｰﾂ方法学２	本科目は、加齢に伴ってボディーコントロールが出来る能力を身につけることを目的とし、からだの機能と運動、栄養管理、健康とプロポーションに関する理論と生涯を通じてスムーズにからだを動かせる運動実践を併用した授業を行う。授業計画は、身体組成と栄養2回、体力測定評価と健康2回、体脂肪と運動実践2回、神経系と運動実践2回、骨格筋機能と運動実践2回、呼吸循環機能と運動実践2回、トレーニング論とスポーツ実践3回。評価は、出席50%、レポート（各項目の小レポートとファイナルレポート）50%。教材は、テキスト使用。	講義　10時間 実技　20時間
ｽﾎﾟｰﾂ方法学３	本科目は、スポーツとコミュニケーションをテーマに、自己のからだ、用具、他者とのコミュニケーションについて、主に、ノンバーバル的な観点から理論と実践を展開する。授業計画は、運動と心拍数、呼吸、体温の変化と運動実践、脳機能と運動実践4回（自己理解）、5感、空間認知と運動技能3回（からだと用具の共存）、アイコンタクト、サインプレー論とスポーツ5回、ボディーコンタクト論と疲労（他者理解と共存）2回実施。評価は、出席50%とレポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）50%。教材は、資料配布。	講義　10時間 実技　20時間
ｽﾎﾟｰﾂ方法学４	本科目は、青年期以降の生活の質を向上させるため、運動やスポーツ活動の実践が行える環境づくりや、生涯スポーツが行える基礎能力を身につけるための講義と実践を併用して行う。授業計画は、健康スポーツ論と運動実践4回、中高齢者スポーツ論と運動実践4回、社会スポーツ論と健康スポーツ実践4回、総合型スポーツ論とスポーツ実践3回実施。評価は、出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）50%。教材は、資料配布。	講義　10時間 実技　20時間

環境学１	テーマは「物質科学の目で見る地球規模の環境」。本科目では、「温室効果ガスと地球温暖化」、「オゾン層の破壊とフロンガス」、「酸性雨と大気汚染」などについて取り上げ、それぞれ物質科学的な観点から解説している。二酸化炭素はなぜ温室効果ガスなのか？紫外線や赤外線とは何か？など、普段よく見聞きする環境に関する科学（化学）の言葉の解説を中心に講義している。また本科目では、環境問題を自然科学的に捉え理解するとともに、環境というキーワードを通じて、自然科学そのものへの興味関心を高めることもあわせて目標としている。	
環境学２	テーマは「物質科学の目で見る暮らしと環境」。本科目では、「水の利用と水質汚濁」、「エネルギーと環境」、「有害化学物質と環境」を主なテーマとして取り上げ、それぞれ物質科学的な観点から解説している。生活排水の処理と環境への負荷、自動車のエンジンと排気ガス、原子力発電のしくみと放射線の影響など、普段暮らしの中でよく見聞きする環境に関する科学（化学）の言葉の解説を中心に講義している。また本科目では、環境問題を自然科学的に捉え理解するとともに、環境というキーワードを通じて、自然科学そのものへの興味関心を高めることもあわせて目標としている。	
環境学３	テーマは「環境と生命」。近年、人間を取り巻く生活環境、社会環境、そしてこれらを基礎的支える地球環境は著しい変化・変貌を遂げ、現在もなお進行している。そして、我々人類のみならず地球上のあらゆる生物の存在すらが脅かされ、結果的に、環境問題への認識が益々高まってきている。そこで本科目では、現代社会における環境問題について概説し、環境の変化がヒト生体にどのような影響を及ぼしているかについて理解を深め、併せて持続可能な環境形成への関心をより一層高めることを目標としている。	
環境学４	テーマは「環境と健康」。現代の人間を取り巻く社会環境、生活環境は、科学技術の進歩により快適で利便性の高いものへと変化した。しかし、その一方で生活習慣病発病率の増加、体力の低下、少子高齢化などという問題にも直面している。生涯を通じ健康で充実した生活を送ることは、多様な自然環境および社会環境の変化のなかにあって重要な課題である。本科目では、環境と健康との関わり、また、生涯にわたって質の高い生活を営むために必要不可欠な身体機能およびその改善法等について理解を深めることを目標としている。	
環境学５	テーマは「生物多様性を理解する」。本科目では、「生物多様性」をキーワードに、生物学の窓を通して環境を見つめる視点を養っていく。基礎知識の解説に加え、科学雑誌や新聞記事等から身近な話題を取り上げ、ワークシートを活用することにより、「生物多様性」を理解していく。加えて、1週間かけて新聞で取り上げられた「環境に関する話題」を1つ選び、それに対する学生自身の思考を掘り下げてレポート（＝『エコノート』）としてまとめたものを毎週提出することにより、最新の情報に目を向ける習慣を身につけ、かつ、環境への関心を最大限に高めていくことを目標としている。	
環境学６	テーマは「環境社会検定試験（eco検定）合格への道」。地球環境の改善・保全と持続可能な社会の形成には、私達一人ひとりが環境問題についての知識を共有し、行動に移していくことが不可欠である。本科目では、問題の原因や構造、法的枠組み等を知ることで、体系的に知識を身につけ、環境社会検定試験（eco検定）への合格を目指していく。加えて、1週間かけて新聞で取り上げられた「環境に関する話題」を1つ選び、それに対する学生自身の思考を掘り下げてレポート（＝『エコノート』）としてまとめたものを毎週提出することにより、最新の情報に目を向ける習慣を養っていく。	
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学１	ボランティアは、市場や国家による人と人との結びつき方とは違い、かけがえのない「わたし（＝自己）」とかけがえのない「あなた（＝他者）」との関係をつなぐ。そんな認識に立った上で、本講義は自治、贈与、親密性、人間の政治という切り口から、ボランティアの入り口となる「出会い」について、講義とワークショップによって文化人類学的に探求する。そして、自分の価値観・世界観を問い直し、生き方を考える。	
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学２	地域は、人の暮らしと仕事によって構成される。本講義は、地域をめぐる学際的な視点を学びながら、そこに生きる人々の暮らしと仕事が織り成す情景を実体的に捉え、彼ら／彼女らの抱える問題を共感するための方法を、講義とディスカッション、フィールドワークによって学ぶ。その上で、ボランティアという営みの可能性を考える。	

ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学３	本講座では、ボランティアとは何か、非営利組織（ＮＰＯ）とは何かという、基本からスタート、基礎知識を習得した後、国内の、福祉、教育、街づくりといった社会的課題に取り組むＮＰＯの活動について、欧米と比較しながら勉強する。多くの課題解決には、政府、企業との協働が不可欠である。どういう観点から、どのような形で、ＮＰＯが行政、企業と協力しているかについても掘り下げた形で講義を行う。	
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学４	日本のＮＧＯの歴史を、先行する欧米のＮＧＯとともに習う。バングラデシュなどには国家をしのぐような大きなＮＧＯが存在し、途上国のオーナーシップを尊重する立場から、こうしたＮＧＯとの連携も活発化している。人材や資金、あるいはマネジメント面での課題も多いが、企業など他のアクターと協力しながら、人間の安全保障、ミレニアム開発目標（ＭＤＧｓ）をキーワードに、世界の市民社会をリードするＮＧＯの今を学ぶ。	
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学５	本講義は、聴覚障害者理解のため、以下の形式で授業を展開する。授業では、講義と手話実技を行う。講義は、聴覚障がい者とは・手話とは・聴覚障がい者とのコミュニケーション方法・聴覚障がい者の生活・災害時・手話の歴史・福祉制度・通訳派遣制度・通訳現場などをテーマとする。手話実技では、ろう者が使っている自然な手話を学び、自己紹介や簡単な日常会話の取得を目指す。	
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学６	本講義は、ボランティア学３を踏まえて、聴覚障害者とのコミュニケーション技法を深めることを目標とする。授業では、講義と手話実技を行う。講義の内容は、聞こえの仕組み・聴覚障がいの分類・中途失聴者・ろう重複障がい者・盲ろう者・転免許等のろう運動・ろう教育・手話通訳士・通訳現場についてなどをテーマとする。手話実技では、ろう者が使っている自然な手話を学び、ろう者と日常会話がスムーズにできるようになることを目指す。	
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学７	環境、地域再生、マイノリティとの協働、アートなどの分野で活躍する実践家や、企業の社会貢献担当者によるリレーレクチャーを聞き、明治学院大学が白金の地域で展開する地域貢献・地域連携のプロジェクトを立案する。それによって、問題・課題発見力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、そして行動力を磨くことをめざす。	
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学８	ボランティア学７を踏まえて、グループワーク（ディスカッションや、現地調査・文献調査）を通じて、プロジェクト案の絞り込みを行い、地域や学内の人々の力を借りながら、実際にプロジェクトを自己満足に陥らない形で実現させる。適宜、ボランティア学７の講師に助言を求める。	
特別演習ﾌﾗﾝｽ語A	春学期開講。フランス語１・２を履修した学生向けの授業。「フランス語を聞き取れるようになりたい」、「フランス語を用いて自分の気持ちを表現したい」というような希望をかなえるために、話す、聞く、読む、書くという、コミュニケーションに必要な四つの能力を同時に養成しながら、フランス語の能力を総合的に高める。会話内容の充実を図るために、映画や小説などフランス文化に関する話題も逐次とりいれて進めていく。学んだ内容を身につけるためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
特別演習ﾌﾗﾝｽ語B	春学期開講。フランス語１・２を履修した学生向けの授業。春学期に引き続き、「フランス語を聞き取れるようになりたい」、「フランス語を用いて自分の気持ちを表現したい」というような希望をかなえるために、話す、聞く、読む、書くという、コミュニケーションに必要な四つの能力を同時に養成しながら、フランス語の能力を総合的に高める。会話内容の充実を図るために、映画や小説などフランス文化に関する話題も逐次とりいれて進めていく。学んだ内容を身につけるためには、自宅での予習および復習が不可欠である。	
特別演習中国語A	１年次に、中国語の初級クラス（「中国語1Ａ・Ｂ」「中国語2Ａ・Ｂ」）に加えて、会話能力も高めたい学生のために設置された科目である。中国語の初習者を対象とし、初級クラスでの学習内容を踏まえ、ネイティブ教員が発音や口語表現に関する練習・指導を重点的に行うことで、会話能力の向上を目指す。１年次の春学期に「特別演習中国語Ａ」を、秋学期に「特別演習中国語Ｂ」を同一年度にセットで履修する。	
特別演習中国語B	１年次に、中国語の初級クラス（「中国語1Ａ・Ｂ」「中国語2Ａ・Ｂ」）に加えて、会話能力も高めたい学生のために設置された科目である。中国語の初習者を対象とし、初級クラスでの学習内容を踏まえ、ネイティブ教員が発音や口語表現に関する練習・指導を重点的に行うことで、会話能力の向上を目指す。１年次の春学期に「特別演習中国語Ａ」を、秋学期に「特別演習中国語Ｂ」を同一年度にセットで履修する。	

特別演習ﾄﾞｲﾂ語A	選択必修の枠外でドイツ語の履修を希望する学生を対象とした、コミュニケーション学習中心の科目。ヒアリングや具体的なシチュエーションを想定した会話練習を授業の中心に据え、特別演習ドイツ語Bと合わせて、初歩的な会話能力の習得を目指す。文法知識の復習・補足は必要最低限に抑える。アーディオ・ビジュアル教材を有効に活用して、文字からではなく、音声からドイツ語を学ぶ姿勢を育成する。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
特別演習ﾄﾞｲﾂ語B	選択必修の枠外でドイツ語の履修を希望する学生を対象とした、コミュニケーション学習中心の科目。ヒアリングや具体的なシチュエーションを想定した会話練習を授業の中心に据え、特別演習ドイツ語Ａと合わせて、初歩的な会話能力の習得を目指す。文法知識の復習・補足は必要最低限に抑える。アーディオ・ビジュアル教材を有効に活用して、文字からではなく、音声からドイツ語を学ぶ姿勢を育成する。担当教員は、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
特別演習ｽﾍﾟｲﾝ語A	スペイン語1A、2Aを履修中の学生を対象に、日常の簡単なコミュニケーションがスムーズに行えるようになるための訓練を行う。スペイン語1A、2Aの学習内容に基づいて、日常でのコミュニケーションが可能になるように主に聞く、話す力に特化し表現力を養成する。	
特別演習ｽﾍﾟｲﾝ語B	スペイン語1B、2Bを履修中の学生を対象に、日常の簡単なコミュニケーションがスムーズに行えるようになるための訓練を行う。スペイン語1B、2Bの学習内容に基づいて、日常でのコミュニケーションが可能になるように主に聞く、話す力に特化し表現力を養成する。	
特別演習韓国語A	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。文字と発音の基礎に続き、基本的なあいさつ表現、基礎語彙、基本的な助詞、用言の活用の基礎を学び、自己紹介の表現をはじめ、実践的な表現を獲得する。待遇法のうち、丁寧な文体を学ぶ。初習者が1AB・2ABを含む、週３コマで学習していくという授業である。文字と発音、語彙、文法の基礎を固めつつ、同時により徹底した発音訓練、会話練習などを行う。 発音の練習も重視し、簡単な表現であっても、初級の段階から実践的に表現しうる能力を養う。明るく楽しい授業を目指す。	
特別演習韓国語B	韓国語の基礎を学ぶ。韓国語の文字と発音、語彙、文法の基礎を獲得する。前期で学習した基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、尊敬形や過去形、また用言の終止形に加えて、接続形などの諸形といった文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、実践的な表現力を養う。1年目の学習者が1AB・2ABを含む、週３コマで学習していくという授業である。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。また韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く、話す、読む、書く、4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。	
ｲﾀﾘｱ語の基礎A	発音から始め、動詞の直説法現在形の理解を目標とし、将来的に各自が関心を持つ技能を発展させていくために、この半年でイタリア語学習の土台を作る。この学習段階では、音声・文字の両面に渡って、理解と産出のどちらも重要であるため、文法項目ばかりではなく、基本的な会話表現の習得も重視する。なお、いわゆる語学の授業ではあるが、異文化理解の側面をおろそかにしないことはいうまでもない。	
ｲﾀﾘｱ語の基礎B	春学期の講義内容（直説法現在形）程度の知識を前提とし、人称代名詞非強勢形や動詞の様々な活用などの文法の学習の比重が増える予定。伊文読解の基礎作りを行う。語学の授業とは言え、異文化理解の側面をおろそかにしないことは、春学期と同様である。	
ｱﾗﾋﾞｱ語の基礎A	最初にアラビア語の文字と発音の説明をし、1日も早くアラビア語の文字の読み書きができるようにする。次いで文法の説明に入り、名詞と冠詞、名詞の性・格などの事項について取り扱う。それとともに適宜既習事項の問題練習を通じて、文法事項の定着を図る。現在、アラビア語は東はイラクから西は北アフリカのモーリタニアに至る22ヵ国、および国際連合の第６番目の公用語として定められている世界の重要言語の１つである。本講義は、日本語や印欧語とはさまざまな点から異なるセム系言語であるアラビア語の学習を通してアラブ・イスラーム世界を理解するための一助とする。	

ｱﾗﾋﾞｱ語の基礎B	「アラビア語の基礎A」の内容を受けて、名詞の数、人称代名詞、前置詞、指示代名詞、形容詞などの各事項について取り扱う。また適宜既習事項の問題練習を通じて、文法事項の定着を図る。さらにこの段階でも使用できる会話表現の練習も取り入れ、会話能力の向上も図る。アラビア語は、イスラームの聖典であるクルアーンの言語である。またアラビア語の語彙はペルシア語やトルコ語などの周辺地域の言語に広く浸透し、それらの言語を豊かなものとしてきた。本講義は「アラビア語の基礎A」に引き続いて、その能力を向上させることを目標とする。	
ﾀｲ語の基礎A	タイ語の発音から学び始め、その後、タイに語学留学した日本人の女子大生とタイの女子大生とのダイアローグ形式で基本的な会話と文法を学ぶ。発声を伴うドリル練習を通して、タイ語の基礎を身に付ける。	
ﾀｲ語の基礎B	春学期開講「タイ語の基礎A」を通して500語程度の単語力と基礎文法が身に付いていると考え、秋学期ではさらにそれを定着させ発展させていく。会話編の最後に簡単なタイ文字の読み書きを学び、単語を読んだり、自分の名前をタイ文字で書く練習をする時間も設ける予定である。	
英語研究1A	この科目は海外旅行をするときに最小限必要な英語の知識と技術の基礎を英語で学ぶことを目標とする。出発前の準備から始まり、出入国・ホテル・レストランでの対応、買い物、金銭の管理などはもちろん、事故や病気など、思いがけない緊急事態に遭遇した時の対応の仕方を学ぶ。授業はすべて英語で行なわれ、ペアワークやグループワークが中心になるが、リスニングとライティングのスキルの向上にも焦点を当てる。	
英語研究1B	この科目は海外旅行を快適で不安のないものにするために必要な英語の知識と技術を学ぶことを目標とする。出発前の準備から、空港・ホテルでの対応、買い物、レストランでの対応、金銭の管理などを始め、思いがけない事故や病気に遭遇した時の対応の仕方を学ぶが、本講座では基礎編である英語研究１Aよりもより高度なスキルの習得を目指す。授業はすべて英語で行なわれ、ペアワークやグループワークが中心になるが、リスニングとライティングのスキルの向上にも焦点を当てる。	
英語研究2A	本講座は英語で文章を書く技能を向上させることが目標である。そのために、（１）学生が適切かつ自然な英語の文を書けるように指導し、（２）自分の考えを論理的にまとめ、読みやすい文章を書けるように指導する。とくに、文を書くときにモニターの働きをする文法の知識と自然な英語を書くために必要な英語の発想を重視した授業を行う。また、パラグラフに関する基礎知識を与える。「文法を意識しつつ英語をたくさん書く」ことを心がけることをクラスのモットーとする。	
英語研究2B	本講座は、英語研究２Aと同様に、英語で文章を書く技能を向上させることが目標である。そのために、文を書くときにモニターの働きをする文法の知識と自然な英語を書くために必要な英語の発想を重視した授業を行う。また、文結合に関して学ぶとともに、パラグラフの展開に関してもさらに詳しく検討する。文法、語彙、発想、文結合、そしてパラグラフの展開について学び、読みやすい英語が書けるようになることを目標とする。したがって、「パラグラフの構成を意識しつつ英語を書く」練習が中心になる。	
英語研究3A	本講座は映画の歴史、撮影・編集技術の変遷を英語で学び、芸術としての映画について造詣を深めるとともに、そうした編集・撮影の技術が変化することが映画の見方そのものに与えた影響を考察することを目標とする。授業はすべて英語で行なうものとし、履修者は毎週クラス内外で鑑賞した映画について英文のレポートが課され、それもとにしたディスカッションに積極的に参加することが求められる。	
英語研究3B	本講座は英語によるカナダ映画への入門を目的とし、カナダの歴史がカナダの映画界に与えた影響を考察する。カナダのフランス語圏でつくられた映画と英語圏で作られたものとの比較・対照、カナダの映画の作り方とアメリカや日本の映画の作り方の比較が大きなテーマとなる。カナダの映画監督についてもふれることになる。履修者は毎週クラス内外で鑑賞したカナダ映画について英文のレポートが課され、それもとにしたディスカッションに積極的に参加することが求められる。	

ﾌﾗﾝｽ語研究3A	春学期開講。中級程度のフランス語力をすでに身に付けた学生を対象とする授業。フランス語で書かれた文学作品や論文などの原書をテクストとして選び、専門的なフランス語の文章を読む力を身につけるとともに、当該分野の基本的な知識を習得することを目指す。具体的な授業内容としては、まず学生に一定量の文章を訳してもらい、それについて講師が内容や文脈を含めて詳しく解説する。一人一人が自宅で予習および復習を行うことが不可欠である。	
ﾌﾗﾝｽ語研究3B	秋学期開講。中級程度のフランス語力をすでに身に付けた学生を対象とする授業。春学期に引き続き、フランス語で書かれた文学作品や論文などの原書をテクストとして選び、専門的なフランス語の文章を読む力を身につけるとともに、当該分野の基本的な知識を習得することを目指す。具体的な授業内容としては、まず学生に一定量の文章を訳してもらい、それについて講師が内容や文脈を含めて詳しく解説する。一人一人が自宅で予習および復習を行うことが不可欠である。	
中国語研究3A	中級中国語の学習を一通り終えて、さらに発展的な中国語の運用能力を求める学生のための春学期に開講される科目。新聞記事などもある程度読めるような力を付けるために、文法だけではなく現代中国事情も合わせて学んでいく。同時に、コミュニケーション能力を高めるために、授業の中でも会話や作文の時間をできるだけとっていく。	
中国語研究3B	中級中国語の学習を一通り終えて、さらに発展的な中国語の運用能力を求める学生のための秋学期に開講される科目。新聞記事などもある程度読めるような力を付けるために、文法だけではなく現代中国事情も合わせて学んでいく。同時に、コミュニケーション能力を高めるために、授業の中でも会話や作文の時間をできるだけとっていく。	
ﾄﾞｲﾂ語研究3A	2年間以上ドイツ語を学んだ既習者を主たる対象として、購読、ヒアリング、作文、会話の練習等、総合的なドイツ語運用能力を高めることを目的とした科目。担当教員は、ドイツ語研究3Bと合わせて、「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のバランスに配慮した授業運営をおこなう。また、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
ﾄﾞｲﾂ語研究3B	2年間以上ドイツ語を学んだ既習者を主たる対象として、購読、ヒアリング、作文、会話の練習等、総合的なドイツ語運用能力を高めることを目的とした科目。担当教員は、ドイツ語研究3Bと合わせて、「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のバランスに配慮した授業運営をおこなう。また、ドイツ語圏への関心を高める内容の教材を選択するよう心がける。	
ｽﾍﾟｲﾝ語研究3A	文法的な知識をたえず振り返って確認しながら、新しい表現に接したり、語彙を増やしたりしていく。受講者のレベルにより、アクティビティを増やしたり、スペイン語の映画鑑賞なども織り交ぜていく予定である。基礎的な段階を終えた人を対象に、言語のコミュニケーション能力の向上を図り、易しい表現を使って文章が書けるようにする。またスペイン語の文化的な背景も理解するように努める。	
ｽﾍﾟｲﾝ語研究3B	文法的な知識をたえず振り返って確認しながら、新しい表現に接したり、語彙を増やしたりしていく。受講者のレベルにより、アクティビティを増やしたり、スペイン語の映画鑑賞なども織り交ぜていく予定である。春学期の学習内容に引き続き、言語のコミュニケーション能力の向上を図り、易しい表現を使って文章が書けるようにする。またスペイン語の文化的な背景も理解するように努める。	
韓国語研究3A	韓国語の基礎の学習を終え、2年以上の学習歴のある学習者を対象とする。基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、話しことばと書きことば、敬意体と非敬意体などの様々な文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、「電話の表現」、「感謝を表す」といった、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。韓国語の基礎の学習を終えた段階で、語彙、文法、表現の増強を図る。発音の練習も重視し、実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点からの面白さも満喫したい。	

韓国語研究3B	韓国語の基礎の学習を終え、2年以上の学習歴のある学習者を対象とする。基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、連体形や接続形、引用形などの様々な文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、「許可を得る」、「提案する」、「意志を述べる」といった、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。発音の練習も重視し、実践的に表現しうる能力を養う。韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。聞く、話す、読む、書く、4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。明るく楽しい授業を目指す。	
英語特別研究101	TOEFL ITPの各セクションのスコアアップを図るには、英語の基礎となる文法事項の確認が欠かせない。本講座は既習の文法事項を復習しながら、リスニングやリーディングセクションにも応用できるしっかりとした英語力を身につけることを目標とする。多くの日本人が苦手とする文法項目を中心に既習事項の理解をより確かなものにする。秋学期科目の英語特別研究102と連係した科目である。	
英語特別研究102	TOEFL ITPの各セクションのスコアアップを図るには、英語の基礎となる文法事項の確認が欠かせない。本講座は既習の文法事項を復習しながら、リスニングやリーディングセクションにも応用できるしっかりとした英語力を身につけることを目標とする。TOEFL ITPの問題を実際に解きながらスコアアップに必要な知識と問題の攻略法を学ぶ。春学期科目の英語特別研究101と連係した科目である。	
英語特別研究111	Speaking (Fall): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Speaking section of the TOEFL iBT, such as speaking spontaneously and using proper English pronunciation. Students will also practice how to communicate effectively with professors and classmates at an overseas university. スピーキング（秋学期）この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTのスピーキング問題の攻略法と、留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供する。適切な発音で自然な英語を話すことに特に焦点が当てられる。留学先の大学で教員や学生同士と効果的にコミュニケーションをとる方法についても指導する。	
英語特別研究112	Speaking (Spring): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Speaking section of the TOEFL iBT, such as speaking spontaneously and using proper English pronunciation. Students will also practice how to communicate effectively with professors and classmates at an overseas university. スピーキング（春学期）この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTのスピーキング問題の攻略法と、留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供する。適切な発音で自然な英語を話すことに特に焦点が当てられる。留学先の大学で教員や学生同士と効果的にコミュニケーションをとる方法についても指導する。	
英語特別研究113	Writing (Fall): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Writing section of the TOEFL iBT, such as writing logically with correct English usage. These skills will also be helpful for completing writing assignments in English at an overseas university. ライティング（秋学期）　この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。英語の文章作法に適った、論理的な英文を書くことに焦点を当て、TOEFL iBTのライティングセクションに対処するスキルを学ぶ。このスキルは留学先の大学で課されるレポート作成にも有効である。	

英語特別研究114	Writing (Spring): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Writing section of the TOEFL iBT, such as writing logically with correct English usage. These skills will also be helpful for completing writing assignments in English at an overseas university. ライティング（秋学期）この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。英語の文章作法に適った、論理的な英文を書くことに焦点を当て、TOEFL iBTのライティングセクションに対処するスキルを学ぶ。このスキルは留学先の大学で課されるレポート作成にも有効である。	
英語特別研究115	Reading & Listening (Fall): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Reading & Listening section of the TOEFL iBT. The skills covered in this class are also essential for studying in English at an overseas university. リーディングとリスニング（秋学期）この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。TOEFL iBTのリーディングとリスニングセクションの問題に対処するスキルに焦点を当てる。この授業で扱うスキルは留学先の大学で英語の授業を受けるのに不可欠なものでもある。	
英語特別研究116	Reading & Listening (Spring): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on skills needed for the Reading & Listening section of the TOEFL iBT. The skills covered in this class are also essential for studying in English at an overseas university. リーディングとリスニング（春学期）　この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。TOEFL iBTのリーディングとリスニングセクションの問題に対処するスキルに焦点を当てる。この授業で扱うスキルは留学先の大学で英語の授業を受けるのに不可欠なものでもある。	
英語特別研究117	Speaking, Integrated Skills (Fall): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on the skills needed for answering the "integrated questions" of the Speaking section of the TOEFL iBT: emphasis is placed on using reading, listening and speaking skills together. スピーキング　インテグレイティドスキル（秋学期）この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。授業ではTOEFL iBTのスピーキングセクションで出題される総合問題（インテグレイティドクエスチョン）に対応するためのスキルの習得に焦点を当て、リーディングとリスニングの力をスピーキングの力と組み合わせて発揮するための訓練を行なう。	
英語特別研究118	Speaking, Integrated Skills (Spring): This course provides strategies for taking the TOEFL iBT, and skills for studying at an overseas university. In particular, the course focuses on the skills needed for answering the "integrated questions" of the Speaking section of the TOEFL iBT: emphasis is placed on using reading, listening and speaking skills together. スピーキング　インテグレイティドスキル（春学期）この科目は主に英語圏の大学に留学することを考えている学生を対象に、TOEFL iBTの攻略法と留学先の大学で学ぶために必要なスキルを提供することを目的とする。授業ではTOEFL iBTのスピーキングセクションで出題される総合問題（インテグレイティドクエスチョン）に対応するためのスキルの習得に焦点を当て、リーディングとリスニングの力をスピーキングの力と組み合わせて発揮するための訓練を行なう。	
ﾌﾗﾝｽ語特別研究111	秋学期開講。フランスへの留学を考えている学生のフランス語運用能力を高めるための、フランス語特訓講座。具体的には、基本的な文法事項を完全に習得すること、基本文型および頻出表現の例文を暗記すること、そうした例文をしっかり発音し、さらには書けるようになること、さらには、聴覚教材を利用してフランス語を聴きとる能力を身につけることを目指す。授業の予習および復習は不可欠。なお、授業を効果的に進めるために、参加希望者が多数の場合は選抜試験を行う。	

ﾌﾗﾝｽ語特別研究112	春学期開講。フランスへの留学を考えている学生のフランス語運用能力を高めるための、フランス語特訓講座。前年度秋学期に引き続き、基本的な文法事項を完全に習得すること、基本文型および頻出表現の例文を暗記すること、そうした例文をしっかり発音し、さらには書けるようになること、さらには、聴覚教材を利用してフランス語を聴きとる能力を身につけることを目指す。授業の予習および復習は不可欠。なお、授業を効果的に進めるために、参加希望者が多数の場合は選抜試験を行う。	
ﾄﾞｲﾂ語特別研究111	短期および長期のドイツ留学を想定し、それらに準備するための科目。留学先の現地での生活を念頭に置いて、実際に使えるドイツ語の習得を目標にドイツ語を学んでゆく。ドイツ語特別研究112と合わせて、初級文法の定着、日常生活に必要な語彙力の形成、初歩的な会話力を身につけることを目指す。授業担当者は、さまざまな観点からドイツ語圏の文化への関心を高める内容の教材を選択するように心がける。	
ﾄﾞｲﾂ語特別研究112	短期および長期のドイツ留学を想定し、それらに準備するための科目。留学先の現地での生活を念頭に置いて、実際に使えるドイツ語の習得を目標にドイツ語を学んでゆく。ドイツ語特別研究111と合わせて、初級文法の定着、日常生活に必要な語彙力の形成、初歩的な会話力を身につけることを目指す。授業担当者は、さまざまな観点からドイツ語圏の文化への関心を高める内容の教材を選択するように心がける。	
ｽﾍﾟｲﾝ語特別研究111	近い将来スペイン語圏で勉強しようと考えている学生を対象とする。語彙力を向上することが重要であると考え、語彙を習うことを中心に据え、文法力、コミュニケーション能力、リスニング能力などオールアラウンドな力を培う。授業ではグループ作業等を中心に、協力して学ぶことが自分の語学力向上につながることを実感してもらうことも目標とするとともに、各自の自律的学習のためのヒント等を提案していく。	
ｽﾍﾟｲﾝ語特別研究112	スペイン語圏で勉強しようと考えている学生を対象とする。語彙力を向上することが重要であると考え、語彙を習うことを中心に据え、文法力、コミュニケーション能力、リスニング能力などオールアラウンドな力を養成することを目的とする。文化的な事柄にも触れ、スペイン語圏での生活に慣れるためのヒントも紹介する。授業ではグループ作業等を中心に、協力して学ぶことが自分の語学力向上につながることを実感してもらうことも目標とするとともに、各自の自律的学習のためのヒント等を提案していく。	
中国語特別研究111	１年次前半の学習を終え、中国への短期留学や、1年以上の長期留学を目指している学習者を対象とする。２年次夏の留学を一つの目標とする。既習の発音、基本構文の習得を確認しながら、中国語表現の読み、聞き、話し、書くというコミュニケーション能力の養成を目標に、実用的な構文・会話を反復練習し、「活きた」中国語に「慣れ」ていく。また、現代中国事情を踏まえ留学準備をサポートする実践的な授業を目指す。	
中国語特別研究112	中国語の基礎の学習を終え、中国への短期留学や、1年以上の長期留学を目指している学習者を対象とする。一年次に学習した発音、基本構文の習熟度を確認しながら、中国語表現を読み、聞き、話し、書くというコミュニケーション能力の向上を目標に、実用的な構文・会話を反復練習し、「活きた」中国語に「慣れ」ていく。また、現代中国事情を踏まえ留学準備をサポートする実践的な授業を目指す。	
韓国語特別研究111	韓国へ短期留学、1年以上の留学を目指している学習者を対象とする。基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、話しことばと書きことば、敬意体と非敬意体などの様々な文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、「電話の表現」、「感謝を表す」、「提案する」、「意志を述べる」といった、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。韓国語の基礎の学習を終え、発音の練習も重視し、実践的に表現しうる能力を養う。韓国語をとりまく韓国の文化についても学ぶ。明るく楽しい授業を目指す。	
韓国語特別研究112	韓国語の基礎の学習を終え、韓国へ短期留学、1年以上の留学を目指している学習者を対象とする。基礎の上に、用言の活用の様々なタイプに習熟し、話しことばと書きことば、連体形や接続形、引用形などの様々な文法を学ぶ。加えて、基礎的な語彙力の拡充をはかり、より洗練された談話戦略的な表現の獲得にも力を注ぎ、実践的な表現力を増強する。 発音の練習も重視し、実践的に表現しうる能力を養う。日本語との対照的な観点から、聞く、話す、読む、書く、の4技能の総合的学習を通じ、コミュニケーション能力の増強を図る。	

ｷﾞﾘｼｱ語研究A	現代ギリシア語の学習テキストを用い、全く初歩の挨拶表現から、動詞・名詞・形容詞の人称変化・格変化などを着実に覚えながら、現在時称・未来時称・過去（アオリスト）時称を段階的に学び、日常の会話が可能となるように指導する。また歴史・考古学的視点からも重要なギリシア世界の『神話』『キリスト教文化』『世界遺産』、そしてエーゲ海の島々の観光地等を画像で紹介しつつ、クレタ文明時代から現代に至る総合的「ギリシア学」を講義する。	
ｷﾞﾘｼｱ語研究B	現代ギリシア語の学習テキストを用い、動詞・名詞・形容詞の人称変化・格変化などを着実に覚えながら、春学期の現在時称に引き続き過去（アオリスト）時称や接続法を段階的に学び、日常の会話が可能となるように指導する。また、歴史・考古学的視点からも重要なギリシア各地の遺跡・世界遺産や、エーゲ海の島々の観光地等も画像等で紹介しつつ、クレタ文明時代から現代に至るギリシアの文化遺産にも触れて総合的「ギリシア学」を講義する。	
ﾗﾃﾝ語研究A	古代ローマの公用語として用いられたラテン語は、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語などの起源となっただけでなく、宗教・学問の言語としてヨーロッパ精神の中核を形作って来た。本講は、ローマ文化の知識を背景にラテン語文法の基礎を学ぶことを通して、ヨーロッパ文化を更に深く理解するための足掛かりを作ることを目的とする。初歩の段階であるので、教科書の練習問題を通じてラテン語文法の基礎を習得することが中心となるが、授業は受講生の予習・復習を前提に進めてゆくので、受講生にはそれに応じた努力が必要となる。	
ﾗﾃﾝ語研究B	本講は、ラテン語研究Ａにつづき、ラテン語の文法の基礎を修得することを目的とする。授業は、教科書の練習問題を通じてラテン語文法の基礎を習得することが中心となるが、この段階では、近代語とは異なる様々な統治論 syntax を学んで行くことも重要になる。また語学の知識は、それが用いられる文化・社会の知識を前提としてはじめて生きたものとなるので、おりに触れてローマ・ラテン文化の理解を深めるための様々な教材（音楽・映画、文学作品等）をも用いたい。	
日本の歴史と文化A	授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。 授業には一般学生も参加し、日本文化の特質をワークショップ形式でともに学ぶことによって、日本と自国の文化や民族性の相違や共通性に関する知見を得られるものと期待する。	
日本の歴史と文化B	授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。 授業には一般学生も参加し、日本文化の特質をワークショップ形式でともに学ぶことによって、日本と自国の文化や民族性の相違や共通性に関する知見を得られるものと期待する。	
日本の社会と政治経済A	まず、戦後日本の開発・農業政策を解説する。開発政策については、戦後の廃墟の中からいかに工業化を進めたかを傾斜生産方式、特定地域開発、全国総合開発計画、新全国総合開発計画などに即して説明する。農業政策については、農地改革、アメリカ農産物の輸入、農業基本法、新農業基本法などに即して、かつ開発政策との関連にも触れながら説明する。その上で、日本を持続的社会に変えていくための開発・農業政策上の課題を学生とともに考える。留学生には、母国の開発・農業政策との比較検討を行ってもらう。	
日本の社会と政治経済B	まず、戦後日本の環境・エネルギー政策を解説する。環境政策については、1960年代後半からの公害問題、廃棄物問題、埋立問題、1980年代後半からの地球環境問題などに即して説明する。エネルギー政策については、水力発電、石炭から石油への転換、原子力発電、自然エネルギーなどに即して説明する。その上で、日本を持続的社会に変えていくための環境・エネルギー政策上の課題を学生とともに考える。留学生には、さらに母国の環境・エネルギー政策との比較検討を行ってもらう。	
日本の科学と技術A	授業では、本学の留学生を対象に、科学とはどのような学問であるのかを理解し、科学と人間社会との関係を考えます。科学的であるとはどんなことか、科学はどのように発展するのか、科学と非科学とはどのように区別するのか、科学には絶対的真理はあるのか、社会科学と自然科学はどう違うのか、数学や論理学は科学にどのように利用されるのか、われわれが科学的であるには、どうすればよいのかといったことを学び、科学的に考えるトレーニングをしましょう。	

日本の科学と技術B	環境問題は、社会的、経済的、文化的諸問題に関わるのですが、環境問題の科学的側面を正しく理解するためには、科学的とはどんなことかを理解しなければなりません。この講義では、日ごろ環境にやさしいといわれていることがなぜ、環境にやさしいのか、あるいは本当環境にやさしいのかを検証し、環境問題の科学的側面を正しく理解することを目的とします。授業では、講義だけでなく、留学生諸君による発表を組み合わせて一緒に考えていきたいと思う。	
日本語研究1A	このクラスでは、待遇表現といわれる、対人関係を考えたうえでの会話表現を学ぶ。はじめに、いままで学んできた敬語表現・授受表現などをもう一度整理しなおしてみる。次に、場面によってどのような表現が使われているかを見ながら、適切なことばの使い方について練習していく。社会に出てから必要とされる、特に、目上の人やあまり親しくない人とのやりとりの中で、相手に失礼にならずに受け答えできるように、丁寧な言葉遣いができる会話表現を扱っていく。	
日本語研究1B	論文やレポートの表現は、日常生活を描写したり、物事について感想を述べたりする作文とかなりの違いがある。客観的にデータを積み上げて、まとめたり、自分の主張を作り上げるレポートや論文の表現を多く読み、関連する練習問題をやりながら、文章語特有の表現を習得することを狙っている。論文やレポートを書く際に必要となる、固い文章語を学ぶ。論文・レポートを書く過程については、ある程度学習していると思うので、自分が調べた内容を表現する際に求められる文章表現を扱いたい。	
日本語研究2A	この授業では、文学作品から生の文章を選択し、プリントして教材とする。履修者全員で分担して内容を理解していく。履修者自身が分担した箇所の語彙・表現の説明・内容理解問題・まとめをＡ４判1枚程度にプリントしてきて、それをもとに担当者が司会をしながら、他のメンバーから質問を受け、その箇所の内容理解を進めていく。内容理解が終わった後は、担当者が中心となって、内容に関する問題についてクラスで意見交換を行う。読み終わった文章については、次週に漢字の読みと言葉の意味のクイズを行う。	
日本語研究2B	この授業では、新聞に載せられたコラム・評論・社説などの生の文章を選択し、プリントして教材とする。履修者全員で分担して内容を理解していく。履修者自身が分担した箇所の語彙・表現の説明・内容理解問題・まとめをＡ４判1枚程度にプリントしてきて、それをもとに担当者が司会をしながら、他のメンバーから質問を受け、その箇所の内容理解を進めていく。内容理解が終わった後は、担当者が中心となって、内容に関する問題についてクラスで意見交換を行う。読み終わった文章については、次週に漢字の読みと言葉の意味のクイズを行う。	
日本語研究3A	履修を希望する留学生が必要とする日本語力の養成を図る。具体的には、履修学生が決まった段階で履修学生に意向などを聞きながら決める。例えば、専門課程の勉強で必要とされる速読、多読および文章作成の練習である。また、留学生が社会に出た時に必要になると思われる実践的な日本語力の習得などが考えられる。待遇表現を中心とした改まった場面での話し方および依頼状・礼状などのような手紙の書き方の練習が必要となるだろう。現在の日本語力を基礎として、より高度な日本語を理解し、表現する能力の養成を目指す。	
日本語研究3B	履修を希望する留学生が必要とする日本語力の養成を図る。具体的には、履修学生が決まった段階で履修学生に意向などを聞きながら決める。例えば、専門課程の勉強で必要とされる速読、多読および文章作成の練習である。また、留学生が社会に出た時に必要になると思われる実践的な日本語力の習得などが考えられる。待遇表現を中心とした改まった場面での話し方および依頼状・礼状などのような手紙の書き方の練習が必要となるだろう。現在の日本語力を基礎として、より高度な日本語を理解し、表現する能力の養成を目指す。	
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究A	授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。春学期授業科目（Ａ）の研究テーマは、「グローバリズムとローカリズム」とし、日本と他国の文化や民族性の相違や共通性に関する知見を得ることを目標とする。	

異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究B	授業は留学生、一般学生合同で実施される。両者混合のグループを構成し、所定のテーマについて調査、検討、プレゼンテーションを行う。またグループワークの成果を踏まえて、それぞれが個人レポートを作成する。その過程で、調査研究・プレゼンテーション・論文作成のそれぞれについて必要な技法の指導を行う。秋学期授業科目（Ｂ）の研究テーマは、「日本文化の中のマイノリティ」とし、日本文化の多様性や多文化共生の重要性に関する知見を得ることを目標とする。	
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究1A	コンピュータを用いた情報処理の概論について講義を行う。情報処理とは、人間の知的活動そのものであるが、現代の情報量をうまくまとめて必要な時に取り出して利用するにはコンピュータの使用が不可欠である。実習室のパソコンを毎回の授業で実際に使用し、簡単な例を自ら作成しながら、情報処理の方法と手段を学ぶ。プログラムの基本的仕組みは、（１）データを出力する、（２）データを加工する、（３）データを入力する、（４）場合分けの処理、（５）繰り返しの処理の５つである。その５つについて、実際のプログラムを実行結果を自ら確かめながら学ぶ。	講義　20時間 実習　10時間
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究1B	コンピュータは、ハードウェアとソフトウェアからなる。コンピュータを情報処理の道具として、効率良く使用するためには、ソフトウェアの理解が必要である。ソフトウェアの理解を深めるために、プログラミングの基礎について講義を行う。実習室のパソコンを毎回の授業で実際に使用し、簡単な例を用いながら、情報処理の方法と手段を学ぶ。コンピュータリテラシー研究1Aで学習した５つの基本的な仕組みを基にして、関数の仕組みについて説明を行う。	講義　20時間 実習　10時間
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究2A	コンピュータを用いた情報処理を行なうためにはアプリケーションプログラムが必要である。プログラムの基本的仕組み（（（１）データを出力する、（２）データを加工する、（３）データを入力する、（４）場合分けの処理、（５）繰り返しの処理）の理解を前提として、プログラミング言語 Java によるアプリケーションプログラムの作成を行なう。ＣＵＩ（文字列操作）だけでなく、ＧＵＩ（アイコンとマウスでの処理）の可能なプログラムを作成する。	講義　20時間 実習　10時間
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究2B	コンピュータを用いた情報処理を行なうためにはアプリケーションプログラムが必要である。画像処理とネットワークのアプリケーションプログラムが比較的容易に作成可能なプログラミング言語 Java によるアプリケーションプログラムの作成を行なう。ＧＵＩ（アイコンとマウスでの処理）に必要な仕組み、ボタン、フィールドなどを実際の例を作成しながら、その仕組みを理解する。プログラムからどのようにネットの情報を収集するのか、インターネットの基本的な仕組みを考えながら、プログラムを作成する。	講義　20時間 実習　10時間
物理学方法論A	自然科学における方法論、思考方法を体験と実験を通じた学習の中で訓練しておくことは、大学共通教育において重要な意味を持つと考えられる。この講義では教員からの一方向だけの授業だけではなく、体験と実験を通じた双方向の物理学教育を通じ、自然科学における物理学の方法論について学習する。各実験題目について、配布プリントを用いて実験の基礎となる原理を学び、実際に実験、観測を行ない、実験結果をまとめてレポートを作成することにより、講義内容に対する理解を深めていく。主なテーマは「光の波としての性質」、「音波による波の合成」、「磁場の日常生活への応用」、「計算機物理学」等である。	講義　20時間 実習　10時間
物理学方法論B	自然科学における方法論、思考方法を体験と実験を通じた学習の中で訓練しておくことは、大学共通教育において重要な意味を持つと考えられる。この講義では教員からの一方向だけの授業だけではなく、体験と実験を通じた双方向の物理学教育を通じ、自然科学における物理学の方法論について学習する。各実験題目について、配布プリントを用いて実験の基礎となる原理を学び、実際に実験、観測を行ない、実験結果をまとめてレポートを作成することにより、講義内容に対する理解を深めていく。主なテーマは、「原子の世界」、「熱」、「ロボットつくり」等である。	講義　20時間 実習　10時間
化学方法論A	本科目は実験を含む科目であり、主に「無機・分析化学分野」に関する内容で展開している。実験内容の予習復習や、関連する身近な例などについての講義を行うほか、実験終了後には実験結果をまとめ、さらに考察を加えた「レポート」の提出も求めている。そのため、「レポート」の書き方についてもあわせて指導している。化学は純理論科学ではなく実験科学である。ゆえに、実際に化学薬品を取り扱ってその性質を調べたり、また、薬品を反応させて別の物質を合成したりすることは、化学を理解する上で必要不可欠なことである。自らの手によって実験操作を行なうことにより化学の方法に触れ、化学的な思考の方法を理解することを目標とする。	講義　20時間 実習　10時間

化学方法論B	本科目は実験を含む科目であり、主に「合成化学分野」に関する内容で展開している。実験内容の予習復習や、関連する身近な例などについての講義を行うほか、実験終了後には実験結果をまとめ、さらに考察を加えた「レポート」の提出も求めている。そのため、「レポート」の書き方についてもあわせて指導している。化学は純理論科学ではなく実験科学である。ゆえに、実際に化学薬品を取り扱ってその性質を調べたり、また、薬品を反応させて別の物質を合成したりすることは、化学を理解する上で必要不可欠なことである。自らの手によって実験操作を行なうことにより化学の方法に触れ、化学的な思考の方法を理解することを目標とする。	講義　20時間 実習　10時間
生物学方法論A	テーマは「横浜キャンパスにおける生物多様性調査」。地球規模での環境悪化が進む中、私達が身近な環境を理解することは、ますます重要となっています。あらゆる生命の生存基盤である「生物多様性」を理解するためには、野外における実態を把握するとともに、命触れ合う体験が不可欠です。本科目では、私達が日々を過ごす横浜キャンパスで、ヒト以外の身近な命の存在を知ることにより、自然との共生について意識を高め、他種に配慮する心を育てます。	講義　20時間 実習　10時間
生物学方法論B	生物体には多くの生理現象があり、全てが解明されているわけではない。この現象のいくつかを方法論Ｂでは動物を中心に講義・実験する。哺乳動物の解剖・赤血球の数・白血球の種類・精子細胞の形態・ＤＮＡの抽出等の実験を行い、植物との違いを比較しながら、さらには自分たちの身体についても理解をしてもらう。またこの講義から得られた考え方は、自然科学だけのものではなく他の分野の学問はもとより、日常生活にも共通するものがある事にも気づいてほしい。	講義　20時間 実習　10時間
ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究1A	本授業は、生涯スポーツの一環としてゴルフを用い、年齢を問わずレクレーションスポーツの楽しみ方や自然および人とのコミュニケーションに関して学習することを目的とし、講義と実践を併用して行う。授業計画は、ゴルフの歴史と文化1回、マナー論とコミュニケーション、技術論基礎3回、レクレーション論と技術論2回、ゴルフ環境論と基礎技術論4回、コーチング論と基礎技術論4回、アマチュアスポーツ論とゴルフ1回実施。評価は、出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）50%。教材は、資料配布。	
ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究1B	本授業は、１Ａの応用編として、ゴルフ場にて3泊4日、安全対策、楽しむための技術論、生涯スポーツに関して理論と実践を行う。授業計画は、四季と健康管理、共同生活と健康管理、ルールとマナーと基礎技術論（1日）、動作分析方法論と基礎技術論、コース戦略論と体験学習（2日）、余暇活動と栄養、生涯スポーツとゴルフ実践、グループワークとコース戦略（3日）、トレーニング論と基礎技術論（4日）を実施。評価は、実習全期間出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）40%、健康管理10%。教材は、参考資料配布。	
ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究2A	本授業は、野外活動と健康づくり、コンディション調整法、他者や環境に悪影響を及ぼさないルールとマナーについて身につけることを目的とし、講義と実践を行う。授業計画は、野外活動と健康1回、キャンプの効用と実践論2回、キャンプ指導論とレクレーション実践2回、登山と体力2回、アウトドアースポーツ論と実践方法2回、自然環境と余暇活動2回、キャンプ生活論（ルールとマナー）3回、自然と共同生活１回実施。評価は、出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）50%。教材は、必要に応じて資料配布。	
ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究2B	本授業は、2Ａの応用編として、菅平高原にて3泊4日、野外活動を安全に楽しむための技術論や余暇活動と健康づくりを実施するための講義と実践を行う。授業計画は、野外活動と共同生活、自然と食事、キャンプ中のルールとマナー（1日）、渓流と生物、森林浴、レクレーションとコミュニケーション（2日）、登山とグループワーク、セレモニーの意義と心、（3日）、自然と共同作業（4日）を実施。評価は、実習全期間出席50%、レポート（各項目小レポート、ファイナルレポート）40%、健康管理10%。教材は、資料配布。	
ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究3A	本授業は、冬季のスポーツ活動としてスキーを題材に、ウインタースポーツを安全に楽しむ方法とグループワークを通じて規則正しい生活が行える基礎能力をやしなうことを目的とし、講義と実技を併用して実施する。授業計画は、スキーと健康・体力づくり2回、技術論と運動処方5回、寒冷環境と体力づくり2回、安全対策とコンディショニング2回、ゲレンデにおけるマナーとルール2回、平行感覚と技術論2回を実施。評価は、出席50%、レポート（各項目の小レポート、ファイナルレポート）50%。授業は、必要に応じて資料配布。	

	ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究3B	本授業は、3Aの応用編として、スキー場にて3泊4日、基礎技術論、ゲレンデ内の安全対策とマナー、寒冷環境下における健康管理や生涯スポーツに関する基礎理論と実践方法を身につけることを目的として実施する。授業計画は、安全対策とマナー、健康管理、基礎技術論（1日）、環境と健康・スキー技術論、指導論（2日）、応用技術論とグループワーク（フォーメーションの考案）（3日）、総合的技術論と総合滑走（4日）を実施。評価は、実習全出席50%、レポート（各項目の小レポート、ファイナルレポート）50%。授業は、資料配布。	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習101	現場実習の候補団体はＮＰＯ、ＮＧＯ、社会的企業（社会起業家）などで、以下の「授業計画」に列記してある中から１団体を春学期中に選び、夏休み期間中に２週間程度、その組織で活動を体験、研究する。その後、ＮＰＯマネジメント理論に基づいた分析レポートを提出する。 これまで授業で学んだＮＰＯマネジメントの理論、手法を、実際の活動体験を通してさらに深めることを学修目標とする。	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習201	『ボランティア特別研究２０２』で準備したプログラムに基づき、台湾寿豊（花蓮近郊）で現地キリスト協会の支援を受けながら、10日間程度の児童教育ボランティア・ワークキャンプを実施する。海外ボランティア活動に体験参加し、日本人が海外にてボランティア活動を企画立案、実施することについての諸問題を検討する	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究101	「ボランティア学１」で国内ボランティア・ＮＰＯの概論について理解を深めた学生を対象に、環境、福祉、教育、まちづくり、といった実際の支援を現場で行うための準備を整えるのが授業の目的である。学生が各分野での課題を自ら発見し、その解決策を提示していけるようになることを期待する。そのためには、各分野で活躍するＮＰＯ、ＮＧＯや社会起業家の研究を通して、ともに議論していくような「参加型授業」となる。	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究102	夏休みに実施する「ボランティア実習１０１」で訪問する、環境、教育、福祉、国際協力など様々な分野のボランティア団体、ＮＰＯ，ＮＧＯを中心に、ミッション、中期計画、資金調達、人事管理、政府や企業との協力、今後の課題などについて具体的に分析する。それを通して、学生の非営利民間組織の活動に対する理解を深め、自らが、社会的課題を解決していく意欲を醸成する。	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究201	ボランティア体験の報告や国際経済シミュレーション・ゲームなどを通して世界情勢と国際間の問題解決法を学ぶ。外国人との交流、折衝のため、日本古来の伝統文化を学ぶワークショップもあわせて実施する。 国際的なボランティア活動を成功させるため価値観の異なる異文化世界をワークショップ等を通して実感することを目指す。	
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究202	ボランティア実習２０１にて実施する台湾でのボランティア・ワークキャンプの準備のため、 学校関連施設での１泊２日の合宿を４回行い、その中で実施先の国情、文化、民族性などを学ぶ他、現地とのメール等により現地ワークプログラムを調整する。	
	ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘﾃﾗｼｰ研究１	大学で要求される文章表現技術を向上させることを目ざし、日本語の論文作成法を添削指導を通して実践的に訓練する、初年次向け、少人数の演習型コースである。受講者は授業で資料の読み取り、討論などのグループワークを通し、論拠にもとづいた主張を形づくり、さらにそれを論理的で説得力あるレポートとしてまとめ、添削を受ける。具体的ゴールとして、(1) 論理的な段落構成法、(2) 注と引用の作法、(3) 文献および記事検索、(4) 推敲の基本的スキル習得をめざす。「問い」「論証」「答え」からなる論述をとおし、書くことを抜きには成り立たない知的な問題発見を体験させる。	
	ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘﾃﾗｼｰ研究２	明治学院大学の学生として自らの大学を広く社会にアピールするため、大学の個性や特長について考える。ワークショップ形式によりながら、「エコ」を切り口に、本学を取り巻く状況を分析し、それを新たな視点でイメージとして描き、企画・立案する中で、コミュニケーション・リテラシーやプレゼンテーション技法を実践的に学習する。	

社会学概論A	現代社会に対する問題意識を持ち、分析するために、社会学の基礎理論、学説、社会学的ものの見方、考え方を学ぶ講義科目である。社会学の成立過程と基礎的な学説、理論的方法について理解を深めることを目的とする。社会学は、近代市民社会の自己理解として生まれてきた。その歴史の中で生まれてきたさまざまな理論や分析に触れつつ、とくに特徴的に論じられてきた合理性、大衆社会、個人などをキーワードに、社会学的な手法によって現代社会を洞察する。	
社会学概論B	現代社会にたいする問題意識と分析のために、社会学の基礎理論等を学ぶ講義科目である。基本的には社会学概論Ａから継続して位置づけられているが、独立しており、社会学概論Ａが古典的な社会学理論にかかわる部分が多いのに対し、この科目では、寄り現在に近い社会学理論を中心に、現代社会の解明について考察することを目標とする。ジェンダー、格差、生殖技術といった現在の具体的な問題にも触れながら、社会的傾向や社会問題が生まれてきた背景などについて探っていく。	
ｵｾｱﾆｱ研究	オーストラリアで最も古いシドニー大学で学ぶオセアニア研究である。本プログラムでは、活きた英語学習を目指す。初日にクラス分けテストがあり、毎日午前中３時間の会話力を高めるための英語学習、午後は週１回、オーストラリアの歴史・政治・文化を学ぶ講義、首都キャンベラ等へのフィールドトリップ等から構成されている。少人数グループに分かれてのシドニー大学生とのディスカッションなど活きた英語学習ができる。1年生、2年生、3年生が対象の、春期短期留学プログラムである	
ｲｷﾞﾘｽ研究	英国でも古い伝統を誇るレスター大学で学ぶイギリス研究である。本プログラムでは、定評のある英語教授メソッドにより英語の運用能力向上を目指す。毎日午前３時間の集中英語クラス、イギリスの文化・歴史・政治についての週2回午後の講義、バディとの各種フィールドトリップ、近隣住民との社会奉仕活動参加等で構成されている。1年生、2年生、３年生が対象の春期短期留学プログラムである。	
ｱﾒﾘｶ研究	ミシガン湖畔の町、ホランドにあるプロテスタント系リベラルアーツのホープカレッジで学ぶアメリカ研究である。本プログラムでは、英語で学ぶアメリカ研究を目指す。アメリカ事情講義、ホープカレッジの正規授業の受講、及びオーラルリサーチプロジェクトで構成されている。正規授業の受講は、“Encounter Cultures”（「比較文化論」）に出席する形態となる。オーラルリサーチの個別指導は、比較文化論の担当教員が受け持つ。２年生、３年生、４年生が対象の、夏期短期留学プログラムである。	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ研究	オランダのマーストリヒト大学で学ぶヨーロッパ研究である。本プログラムでは、ヨーロッパに関する広義な教養を身につけながら、英語の運用能力向上を目指す。「英語学習とヨーロッパ文化」、「ヨーロッパ文化：歴史と芸術」、「異文化間コミュニケーション・セミナー」の講義、ハーグへのフィールドトリップ等で構成されている。英語学習では、英会話と英作文の訓練を行い、講義課目ではプレゼンテーション能力を養う。2年生、3年生、４年生が対象の夏期短期留学プログラムである。	
韓国研究	ソウルにあるキリスト教主義の大学、崇實大学校で学ぶ韓国研究である。本プログラムでは、初級・中級レベルの韓国語の学習を目指す。話す・聞く・書く力を中心とした韓国語学習（初級・中級）、日本語による韓国文化・歴史（伝統芸術の体験実習・韓国映画・韓国の政治経済等）の講義、38度線非武装地帯等へのフィールドトリップで構成されている。滞在中は崇實大学校の学生が生活、学習面においてサポートしてくれる。2年生、3ア年生、4年生が対象の夏期短期留学プログラムである。	
ﾀｲ研究	タイの名門大学タマサート大学で学ぶタイ研究である。本プログラムでは、初級レベルのタイ語習得、及びタイ事情・文化の学習を目指す。タイ語学習、英語による「タイ社会・文化」、「タイの歴史」、「タイの法律」、「タイ経済」の講義、アユタヤ、チェンマイへのフィールドトリップ、タイ伝統の水上生活の村や少数山岳民族の村でのホームステイ等から構成されている。2年生、3年生、４年生が対象の夏期短期留学プログラムである。	
ｽﾍﾟｲﾝ研究	マドリッドにあるコミーリャス大学で学ぶスペイン研究である。本プログラムでは、実用的なスペイン語会話学習を目指す。コミーリャス大学現代言語研究所が提供するスペイン語授業、英語によるスペイン文化・歴史講義、エル・エスコリアルでの歴史講義に関する課外授業、マドリッド市内のフィールドトリップ等で構成されている。通訳翻訳学科で日本語を専攻している学生との交流が盛んで、参加者は出発前からメール等の交流が始まり、留学期間中は日常生活においてサポートを受ける。2年生、3年生が対象の春期短期留学プログラムである。	

	中国研究	中国屈指の名門校北京大学で学ぶ中国研究である。本プログラムでは、中国語学習、中国の文化・歴史、現在の中国事情の学習を目指す。中国語学習、中国の政治経済・文化・民族問題・歴史や社会事情についての座学、中国企業の視察、太極拳などのアクティビティ、自由課題としての北京大学生へのインタビュー及びリサーチ、自由課題成果発表、世界遺産へのフィールドトリップ等から構成されている。2年生、3年生、４年生が対象の夏期短期留学プログラムである。	
	ﾄﾞｲﾂ研究	ハンブルグ大学で学ぶドイツ研究である。本プログラムではドイツ語のコミュニケーション能力の向上を目指す。レベルに応じたクラス編成がなされ、参加者２名に対してドイツ人学生１名がチューターとしてつく。授業内容は研究・工夫を重ねたもので、初級クラスには発音矯正クラスもある。毎日チューターによる文法・単語・会話等の補習授業があり、その日に習ったことを効果的に身につけることができる。さらにドイツ社会事情・文化の授業、リューベックへのフィールドトリップ等で構成されている。2年生、３年生、４年生が対象の夏期短期留学プログラムである。	
	ﾌﾗﾝｽ研究	質の高さでは定評のパリカトリック学院でのフランス研究である。本プログラムでは、パリカトリック学院付属語学センター提供の夏期集中フランス語講座を受講して、話す・聞く双方の理解力・表現力の学習を目指す。参加者はレベルチェックテストにより5つのレベルに分けられる。毎日午前3時間のフランス語の授業、週1回3時間のアトリエクラスから構成されている。初級までは基礎フランス語のトレーニング、中級以上は文明講座を取り入れたフランス語の運用能力向上を図っている。2年生、3年生、４年生が対象の夏期短期留学プログラムである。	
	Japanese History 1	(英文)Art and Visual Culture in Japan (1): The course examines a variety of visual art produced in Japan from the prehistoric period to the present. Encompassing both premodern art (Buddhist art, pictorial hand scrolls, screen paintings, and multi-colored woodblock prints) as well as contemporary works (performance art and manga) the course aims to familiarize students with the visual culture of Japan from a broad perspective. (和訳)日本の美術史（１）：本講義では、先史時代から現代に至るまでの日本の美術史を概観する。仏教美術や絵巻、屏風絵などの前近代美術からパフォーマンスアートやマンガといった現代美術までを含み、日本の視角美術を幅広いパースペクティブから考察することを試みる。	
	Japanese History 2	(英文)Art and Visual Culture in Japan (2): The course examines a variety of visual art produced in Japan from the prehistoric period to the present. Encompassing both premodern art (Buddhist art, pictorial hand scrolls, screen paintings, and multi-colored woodblock prints) as well as contemporary works (performance art and manga) the course aims to familiarize students with the visual culture of Japan from a broad perspective. (和訳)日本の美術史（２）：本講義では、先史時代から現代に至るまでの日本の美術史を概観する。仏教美術や絵巻、屏風絵などの前近代美術からパフォーマンスアートやマンガといった現代美術までを含み、日本の視角美術を幅広いパースペクティブから考察することを試みる。	
	Current Issues 4	(英文) Students will have the opportunity to learn a new subject matter in an international setting with both Japanese and non-Japanese students from various cultural and linguistic backgrounds. The topics, based on the instructors' expertise, encompass music, literature, and other social/cultural phenomena. (和訳)留学生および日本人がともに学ぶという状況のなかで、異なる文化的および言語的背景をもつ学生間の交流が促進される。担当教員の専門にあわせて、音楽や言語など、文化／社会的な現象を主題とする。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。